

(様式第10)

厚生労働大臣

殿

千大院サ 第 128 号
令和 7 年 10 月 3 日
開設者名 国立大学法人千葉大学長
横手 幸太郎

千葉大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 6 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
氏名	国立大学法人千葉大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

千葉大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒260-8677 千葉市中央区玄鼻1-8-1
電話(043) 222 - 7171

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☐	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科	○	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
「神経内科」→「脳神経内科」にて診療 「内分泌内科」、「代謝内科」→「糖尿病・代謝・内分泌・老年内科」にて診療							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
「消化器外科」→「食道・胃腸外科」、「肝臓・胆のう・膵臓外科」にて診療 「内分泌外科」→「頭頸部耳鼻いんこう科」にて診療							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	糖尿病・代謝・内分泌・老年内科	2	腫瘍内科	3	食道・胃腸外科	4	肝臓・胆のう・膵臓外科	5	心療内科
6	リハビリテーション科	7	脳神経内科	8	形成外科	9	頭頸部耳鼻いんこう科	10	病理診断科
11	臨床検査科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41	5	0	0	800	846

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	239	711	708.4	看護補助者	67	診療エックス線技師	0
歯科医師	9	29	32.4	理学療法士	27	臨床検査技師	88
薬剤師	64	30	88.1	作業療法士	14	衛生検査技師	0
保健師	0	1	1	視能訓練士	8	その他	0
助産師	41	0	41	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	1
看護師	1,025	29	1,044.3	臨床工学士	27	医療社会事業従事者	18
准看護師	0	1	1	栄養士	0	その他の技術員	157
歯科衛生士	1	3	4	歯科技工士	0	事務職員	329
管理栄養士	6	12	17.7	診療放射線技師	53	その他の職員	5

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	73	眼科専門医	10
外科専門医	77	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	14	放射線科専門医	31
小児科専門医	19	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	25
泌尿器科専門医	13	麻酔科専門医	21
産婦人科専門医	20	救急科専門医	23
		合計	358

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大鳥 精司) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

医療の質・安全管理委員会委員(令和5年4月1日～令和6年3月31日)
医療の質・安全管理委員会委員長(令和6年4月1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	618.22 人	13.19 人	631.41 人
1日当たり平均外来患者数	1,944.8 人	89.37 人	2,034.2 人
1日当たり平均調剤数	入院:10,363 外来:344		剤

必要医師数	175	人
必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	22	人
必要(准)看護師数	384	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	857 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	30 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	507	m ²	病床数	39 床
	[移動式の場合]	台数	2	台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	85.71			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	403 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体搬送システム、生化学用自動分析装置、化学発光法測定装置、酵素免疫法測定装置、血液ガス分析装置、HbA1c分析装置、赤血球沈降速度分析装置、電気泳動分析装置、超低温保冷库(ディープフリーザー)		
細菌検査室	80 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	細菌同定・薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養検査装置、自動染色装置、血液培養自動分析装置、細菌同定用質量分析装置、顕微鏡(蛍光を含む)、安全キャビネット		
病理検査室	961 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、組織切片薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片薄切装置、パラフィン包埋機等		
病理解剖室	74 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、切出台、固定槽、撮影装置		
研究室	718 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、近赤外光イメージング装置、脳波計等		
講義室	736 m ²	鉄筋コンクリート	室数	4 室	収容定員	504 人
図書室	135 m ²	鉄筋コンクリート	室数	4 室	蔵書数	17,150 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.6	%	逆紹介率	103	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		20,065 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		30,292 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,687 人		
	D: 初診の患者の数		29,396 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学名誉教授	○	東京医科歯科大学にて、教授、副学長、病院長を歴任し、医師及び研究者として医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するとともに、病院管理の経験を有するため	無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式会社薬事部長		製薬企業にて、長年、医薬品・医療機器の研究開発業務に従事され、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長		国立がんセンター中央病院にて、臨床検査部長、臨床試験・治験開発部長、副院長、執行役員／企画戦略局長を歴任され、現職では、医薬品や医療機器の承認審査及び安全対策に携わっておられ、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
東宮 秀夫	一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団参事		製薬企業にて、長年、医薬品の研究開発業務に従事され、現職では、医薬品医療機器の品質、有効性及び安全性の確保及び向上のため、レギュラトリーサイエンスの推進活動に携わっておられ、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
山崎 晋一郎	千葉県病院事業管理者		国及び地方公共団体にて、長年、厚生労働行政に従事され、法律及び医療安全に関する広い識見を有するとともに、千葉県病院事業管理者として、病院管理の経験を有するため	無	1

松永 哲也	株式会社千葉銀行法人営業部参事	日本銀行、シンクタンクにおいて、長年、経済・金融動向の調査・分析に携わった経験及び病院の理事・本部長代行として病院管理に携わった経験を生かし、患者のニーズや受療行動を把握・分析し、医療を受ける者の立場から意見を述べることができるため	無	2
中谷 晴昭	千葉大学理事	千葉大学にて教授、副理事、医学研究院長、理事を歴任し、厚生労働省の審議会委員の経験を持ち、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	有	1
川瀬 貴之	千葉大学大学院社会科学研究院教授	大学・大学院において、法律に関する研究・教育に永く携わり、法律の専門知識を有し、かつ、日本生命倫理学会に所属し、医療及び医学研究における生命倫理に関する識見を有するため	有	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿(選定理由についても記載有)、監査結果報告書を掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱い患者数 (人)
該当なし	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	0人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数		疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	29	96	ブラウ症候群	1
2 筋萎縮性側索硬化症	39	97	先天性ミオパチー	8
3 脊髄性筋萎縮症	7	98	筋ジストロフィー	57
4 原発性側索硬化症	1	99	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	2
5 進行性核上性麻痺	13	100	遺伝性周期性四肢麻痺	1
6 パーキンソン病	300	101	脊髄空洞症	42
7 大脳皮質基底核変性症	7	102	脊髄髄膜瘤	3
8 ハンチントン病	8	103	アイザックス症候群	4
9 神経有棘赤血球症	1	104	遺伝性ジストニア	5
10 シャルコー・マリー・トゥース病	32	105	脳表ヘモジデリン沈着症	6
11 重症筋無力症	450	106	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
12 先天性筋無力症候群	1	107	前頭側頭葉変性症	5
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	392	108	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	97	109	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1
15 封入体筋炎	11	110	神経細胞移動異常症	3
16 クロウ・深瀬症候群	60	111	ドラベ症候群	3
17 多系統萎縮症	38	112	海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん	1
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	123	113	ミオクロニー欠神てんかん	1
19 ラインゾーム病	17	114	ウエスト症候群	12
20 副腎白質ジストロフィー	3	115	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1
21 ミトコンドリア病	16	116	レット症候群	2
22 もやもや病	75	117	スタージ・ウェーバー症候群	4
23 プリオン病	5	118	結節性硬化症	22
24 進行性多巣性白質脳症	2	119	色素性乾皮症	2
25 HTLV-1関連脊髄症	2	120	先天性魚鱗癬	8
26 特発性基底核石灰化症	6	121	家族性良性慢性天疱瘡	3
27 全身性アミロイドーシス	13	122	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	80
28 遠位型ミオパチー	3	123	特発性後天性全身性無汗症	30
29 神経線維腫症	67	124	眼皮膚白皮症	1
30 天疱瘡	57	125	弾性線維性仮性黄色腫	4
31 表皮水疱症	2	126	マルファン症候群	20
32 膿疱性乾癬(汎発型)	22	127	エーラス・ダンロス症候群	5
33 スティーヴンス・ジョンソン症候群	9	128	ウィルソン病	2
34 中毒性表皮壊死症	2	129	低ホスファターゼ症	3
35 高安動脈炎	61	130	VATER症候群	1
36 巨細胞性動脈炎	21	131	クルーゾン症候群	16
37 結節性多発動脈炎	15	132	アペール症候群	9
38 顕微鏡的多発血管炎	63	133	ファイファー症候群	5
39 多発血管炎性肉芽腫症	15	134	アントレー・ビクスラー症候群	1
40 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	31	135	無脾症候群	1
41 悪性関節リウマチ	31	136	ウェルナー症候群	13
42 バージャー病	6	137	ブラダー・ウィリ症候群	2
43 原発性抗リン脂質抗体症候群	5	138	ヌーナン症候群	1
44 全身性エリテマトーデス	437	139	アンジェルマン症候群	1
45 皮膚筋炎／多発性筋炎	169	140	完全大血管転位症	3
46 全身性強皮症	104	141	単心室症	2
47 混合性結合組織病	47	142	左心低形成症候群	2
48 シェーグレン症候群	189	143	三尖弁閉鎖症	1
49 成人ステル病	14	144	ファロー四徴症	13
50 再発性多発軟骨炎	9	145	両大血管右室起始症	2
51 ベーチェット病	175	146	アルポート症候群	1
52 特発性拡張型心筋症	90	147	急速進行性糸球体腎炎	22
53 肥大型心筋症	159	148	抗糸球体基底膜腎炎	1
54 拘束型心筋症	3	149	一次性ネフローゼ症候群	51
55 再生不良性貧血	63	150	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3
56 自己免疫性溶血性貧血	19	151	紫斑病性腎炎	1
57 発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	152	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2
58 特発性血小板減少性紫斑病	110	153	オスラー病	48
59 血栓性血小板減少性紫斑病	2	154	閉塞性細気管支炎	4
60 原発性免疫不全症候群	46	155	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	10

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

61	IgA 腎症	95	156	肺胞低換気症候群	2
62	多発性嚢胞腎	79	157	副甲状腺機能低下症	13
63	黄色靱帯骨化症	19	158	偽性副甲状腺機能低下症	7
64	後縦靱帯骨化症	210	159	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7
65	広範脊柱管狭窄症	1	160	グルコーストランスポーター1欠損症	1
66	特発性大腿骨頭壊死症	56	161	リジン尿性蛋白不耐症	1
67	下垂体性ADH分泌異常症	38	162	ポルフィリン症	1
68	下垂体性TSH分泌亢進症	9	163	肝型糖原病	1
69	下垂体性PRL分泌亢進症	73	164	原発性高カイトロミクロン血症	1
70	クッシング病	37	165	脂肪萎縮症	2
71	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	29	166	家族性地中海熱	38
72	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	96	167	慢性再発性多発性骨髄炎	2
73	下垂体前葉機能低下症	141	168	強直性脊椎炎	16
74	先天性副腎皮質酵素欠損症	23	169	骨形成不全症	2
75	アジソン病	5	170	軟骨無形成症	4
76	サルコイドーシス	322	171	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
77	特発性間質性肺炎	85	172	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	5
78	肺動脈性肺高血圧症	159	173	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	7
79	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	93	174	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3
80	リンパ脈管筋腫症	13	175	遺伝性鉄芽球性貧血	1
81	網膜色素変性症	551	176	クローンカイト・カナダ症候群	1
82	バッド・キアリ症候群	8	177	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	1
83	特発性門脈圧亢進症	9	178	総排泄腔遺残	6
84	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	102	179	先天性横隔膜ヘルニア	30
85	原発性硬化性胆管炎	35	180	胆道閉鎖症	23
86	自己免疫性肝炎	110	181	IgG4関連疾患	120
87	クローン病	243	182	黄斑ジストロフィー	18
88	潰瘍性大腸炎	558	183	レーベル遺伝性視神経症	1
89	好酸球性消化管疾患	44	184	好酸球性副鼻腔炎	22
90	慢性特発性偽性腸閉塞症	1	185	進行性ミオクロームステんかん	2
91	CFC症候群	1	186	シトリン欠損症	2
92	チャージ症候群	1	187	非ケトーシス型高グリシン血症	1
93	クリオピリン関連周期熱症候群	3	188	遺伝性自己炎症疾患	2
94	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	18	189	ホモシスチン尿症	2
95	非典型溶血性尿毒症症候群	1	190	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	190
合計患者数(人)	7,975

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	感染対策向上加算 1 指導強化加算 抗菌薬適正使用体制加算
歯科外来診療医療安全対策加算 2	患者サポート体制充実加算
歯科外来診療感染対策加算 4	重症患者初期支援充実加算
歯科診療特別対応連携加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
情報通信機器を用いた診療	ハイリスク妊娠管理加算
医療DX推進体制整備加算 3	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料 入院栄養管理体制加算	術後疼痛管理チーム加算
特定機能病院入院基本料 精神病棟 7対1入院基本料	後発医薬品使用体制加算 1
救急医療管理加算	バイオ後続品使用体制加算
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算 1
診療録管理体制加算 1	病棟薬剤業務実施加算 2
医師事務作業補助体制加算 1 (15対1)	薬剤業務向上加算
25対1急性期看護補助体制加算 (看護補助者5割以上) 夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算 看護補助体制充実加算 1	データ提出加算 2 (イ)
看護職員夜間12対1配置加算 1	入退院支援加算 1 入院時支援加算 総合機能評価加算
療養環境加算	医療的ケア児(者)入院前支援加算
重症者等療養環境特別加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算 1	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算 2	精神科急性期医師配置加算 2
放射線治療病室管理加算 治療用放射線同位元素による治療の場合	地域医療体制確保加算

緩和ケア診療加算	救命救急入院料 3 精神疾患診断治療初回加算（イを算定する場合に限る。） 救急体制充実加算 1 救命救急入院料 小児加算 早期離床・リハビリテーション加算 早期栄養介入管理加算
小児緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料 1 特定集中治療室管理料 小児加算 早期離床・リハビリテーション加算 早期栄養介入管理加算
精神科身体合併症管理加算	ハイケアユニット入院医療管理料 1 早期離床・リハビリテーション加算
精神科リエゾンチーム加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
摂食障害入院医療管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
栄養サポートチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料
医療安全対策加算 1	小児入院医療管理料1 小児入院医療管理料 注 2 の加算（保育士加算（2名以上）） 無菌治療管理加算 2 養育支援体制加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

[illegible]

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料 注2の加算	がん薬物療法体制充実加算
外来栄養食事指導料の注2	ニコチン依存症管理料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
糖尿病合併症管理料	こころの連携指導料(Ⅱ)
がん性疼痛緩和指導管理料	プログラム医療機器等指導管理料
がん患者指導管理料イ	がん治療連携計画策定料
がん患者指導管理料ロ	肝炎インターフェロン治療計画料
がん患者指導管理料ハ	ハイリスク妊産婦連携指導料1
がん患者指導管理料ニ	ハイリスク妊産婦連携指導料2
外来緩和ケア管理料	薬剤管理指導料
移植後患者指導管理料 イ. 臓器移植後の場合	医療機器安全管理料1
移植後患者指導管理料 ロ. 造血幹細胞移植後の場合	医療機器安全管理料2
糖尿病透析予防指導管理料	精神科退院時共同指導料2
小児運動器疾患指導管理料	禁煙治療補助システム指導管理加算
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	歯科治療時医療管理料
婦人科特定疾患治療管理料	救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
腎代替療法指導管理料	救急患者連携搬送料
一般不妊治療管理料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
生殖補助医療管理料1	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
二次性骨折予防継続管理料1	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) 皮下連続式グルコース測定
二次性骨折予防継続管理料3	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
下肢創傷処置管理料	在宅患者歯科治療時医療管理料
慢性腎臓病透析予防指導管理料	遺伝学的検査
外来放射線照射診療料	染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査
外来腫瘍化学療法診療料1	骨髄微小残存病変量測定
連携充実加算	B R C A 1 / 2 遺伝子検査

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
がんゲノムプロファイリング検査	経頸静脈的肝生検
先天性代謝異常症検査	前立腺針生検法（MR I 撮影及び超音波検査融合画像によるもの）
抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体	CT透視下気管支鏡検査加算
抗HLA抗体（スクリーニング検査） 抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）	経気管支凍結生検法
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	精密触覚機能検査
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	画像診断管理加算1
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）	遠隔画像診断
検体検査管理加算（Ⅰ）	ポジトロン断層撮影
検体検査管理加算（Ⅳ）	ポジトロン断層撮影（アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。）
国際標準検査管理加算	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
遺伝カウンセリング加算	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影（アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。）
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	CT撮影及びMRI撮影 （CT 8台、MRI 6台）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	冠動脈CT撮影加算
時間内歩行試験 シャトルウォーキングテスト	血流予備比コンピューター断層撮影
胎児心エコー法	心臓MRI撮影加算
ヘッドアップティルト試験	乳房MRI撮影加算
人工臓臓検査 人工臓臓療法	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
長期継続頭蓋内脳波検査	外来化学療法加算1
脳波検査判断料 1	無菌製剤処理料
単線維筋電図	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） 初期加算 急性期リハビリテーション加算
神経学的検査	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） 初期加算 急性期リハビリテーション加算
補聴器適合検査	運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 初期加算 急性期リハビリテーション加算

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
黄斑局所網膜電図	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） 初期加算 急性期リハビリテーション加算
全視野精密網膜電図	がん患者リハビリテーション料
小児食物アレルギー負荷検査	歯科口腔リハビリテーション料 2
内服・点滴誘発試験	療養生活継続支援加算
児童思春期支援指導加算	腫瘍脊椎骨全摘術
認知療法・認知行動療法1	緊急穿頭血種除去術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	脳血栓回収療法連携加算
医療保護入院等診療料	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	内視鏡下脳腫瘍生検術
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	内視鏡下脳腫瘍摘出術
硬膜外自家血注入	頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る）
エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）	脳刺激装置植込術 及び脳刺激装置交換術
エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）	癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
人工腎臓（慢性維持透析を行った場合 1）	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
腎代替療法実績加算 導入期加算 3	角結膜悪性腫瘍切除術
透析液水質確保加算 慢性維持透析濾過加算	緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術））
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））
ストーマ合併症加算	毛様体光凝固術（眼内内視鏡を用いるもの）
磁気による膀胱等刺激法	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
口腔粘膜処置	網膜再建術
手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
センチネルリンパ節加算	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
皮膚移植術（死体）	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
自家脂肪注入	喉頭形成手術（甲状軟骨固定用器具を用いたもの）
組織拡張器による再建手術（一連につき） （乳房（再建手術）の場合に限る）	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）、 下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）
骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る）））	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
骨移植術（軟骨移植を含む） （自家培養軟骨移植術に限る）	乳房切除術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）	センチネルリンパ節生検（併用法） 乳がんセンチネルリンパ節加算 1
椎間板内酵素注入療法	センチネルリンパ節生検（単独法） 乳がんセンチネルリンパ節加算 2
乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）	経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	補助人工心臓
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	植込型補助人工心臓（非拍動流型）
気管支バルブ留置術	同種心移植術
胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	経皮的下肢動脈形成術
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（後腹膜）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合に限る。）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
同種死体肺移植術	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
生体部分肺移植術	腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、 内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、 胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、 小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、 結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、 腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、 尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、 膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、 腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び 腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
内視鏡下筋層切開術	腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び 腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） （高速回転式アテレクトミーカテーテルによるもの） （エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの）	腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
胸腔鏡下弁形成術	腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び 腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術）	胃瘻造設術
胸腔鏡下弁置換術	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
経皮的僧帽弁クリップ術	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うもの）
不整脈手術（左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）に限る。）	体外衝撃波胆石破碎術
不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）に限る。）	腹腔鏡下肝切除術
経皮的中隔心筋焼灼術	生体部分肝移植術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	同種死体肝移植術
ペースメーカー移植術（リードレスペースメーカーの場合）	体外衝撃波膵石破碎術
両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合） 及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術

植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極拔去術	腹腔鏡下臍中央切除術
腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術	子宮附属器腫瘍摘出術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下腭頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	胎児胸腔・羊水腔シャント術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	体外式膜型人工肺管理料
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	輸血管管理料Ⅰ
内視鏡的小腸ポリープ切除術	貯血式自己血輸血管理体制加算
腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	コーディネート体制充実加算
腹腔鏡下副腎摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術（褐色細胞腫）（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	自己生体組織接着剤作成術
副腎腫瘍ラジオ波焼灼療法	自己クリオプレシピテート作製術（用手法）
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び 腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
同種死体腎移植術	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る） （歯科診療に係るものに限る）、 下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る） （歯科診療に係るものに限る）
生体腎移植術	顎関節人工関節全置換術（歯科）
膀胱水圧拡張術及び ハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	レーザー機器加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	麻酔管理料（Ⅰ） 周術期薬剤管理加算
人工尿道括約筋植込・置換術	麻酔管理料（Ⅱ） 周術期薬剤管理加算
精巣温存手術	歯科麻酔管理料
精巣内精子採取術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	外来放射線治療加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	高エネルギー放射線治療

女子外性器悪性腫瘍手術（女子外性器悪性腫瘍手術センチネルリンパ節生検加算を算定する場合に限る。）	1 回線量増加加算（全乳房照射）
--	------------------

腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	強度変調放射線治療（IMRT）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	1回線量増加加算（前立腺照射）
画像誘導放射線治療加算（IGRT）	高度難聴指導管理料
体外照射呼吸性移動対策加算	アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料
定位放射線治療	小児悪性腫瘍患者指導管理料 （情報通信機器を用いた場合）
定位放射線治療呼吸移動対策加算（その他のもの）	がん性疼痛緩和指導管理料 （情報通信機器を用いた場合）
歯科技工士連携加算2	がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ （情報通信機器を用いた場合）
歯科技工士連携加算2	外来緩和ケア管理料 （情報通信機器を用いた場合）
歯科技工士連携加算2	移植後患者指導管理料 1. 臓器移植後の場合 （情報通信機器を用いた場合）
画像誘導密封小線源治療加算	移植後患者指導管理料 2. 造血幹細胞移植後の場合 （情報通信機器を用いた場合）
クラウン・ブリッジ維持管理料	糖尿病透析予防指導管理料 （情報通信機器を用いた場合）
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	乳幼児育児栄養指導料 （情報通信機器を用いた場合）
保険医療機関間の連携による病理診断	外来リハビリテーション診療料
デジタル病理画像による病理診断	療養・就労両立支援指導料 （情報通信機器を用いた場合）
病理診断管理加算 2	がん治療連携計画策定料 2 （情報通信機器を用いた場合）
悪性腫瘍病理組織標本加算	がん治療連携管理料
口腔病理診断管理加算 2	認知症専門診断管理料
歯科外来・在宅ベースアップ評価料（I）	肝炎インターフェロン治療計画料 （情報通信機器を用いた場合）
看護職員処遇改善評価料69	薬剤総合評価調整管理料 （情報通信機器を用いた場合）
外来・在宅ベースアップ評価料（I）	連携強化診療情報提供料
入院ベースアップ評価料95	がんゲノムプロファイリング評価提供料
<施設基準を満たしていれば届出の必要がない項目>	在宅自己注射指導管理料 （情報通信機器を用いた場合）
ウイルス疾患指導料 （情報通信機器を用いた場合）	横隔神経電気刺激装置加算
小児科療養指導料 （情報通信機器を用いた場合）	造血器腫瘍遺伝子検査
てんかん指導料 （情報通信機器を用いた場合）	遺伝子相同組換え修復欠損検査
難病外来指導管理料 （情報通信機器を用いた場合）	染色体構造変異解析
皮膚科特定疾患指導管理料 （情報通信機器を用いた場合）	Y染色体微小欠失検査
心臓ペースメーカー指導管理料 （植込型除細動器移行期加算）	デングウイルス抗原定性及びデングウイルス抗原・抗体同時測定定性

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
細菌核酸・薬剤耐性遺伝子同時検出	経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術
クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出1	＜手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分2)＞
遠隔連携遺伝カウンセリング	靱帯断裂形成手術等
植込型心電図検査	水頭症手術等
大腸CT撮影加算	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等
廃用症候群リハビリテーション料 (I)	尿道形成手術等
児童思春期精神科専門管理加算	角膜移植術
耳鼻咽喉科小児抗菌薬適正使用支援加算	肝切除術等
一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素性呼吸困難に対して実施するものに限る。)	子宮附属器悪性腫瘍手術等
経皮的冠動脈形成術	＜手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分3)＞
経皮的冠動脈ステント留置術	上顎骨形成術等
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	上顎骨悪性腫瘍手術等
経皮的大動脈遮断術	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)
ダメージコントロール手術	母指化手術等
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外) 埋没陰茎手術 陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの) (その他)	内反足手術等
人工授精	食道切除再建術等
胚移植術	同種腎移植術等
採卵術	＜手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分4)＞
体外受精・顕微授精管理料	胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術(通則4に掲げる手術を除く)
受精卵・胚培養管理料	＜手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 その他の区分)＞
胚凍結保存管理料	人工関節置換術
＜手術件数の院内掲示が必要な手術(通則5,6 区分1)＞	乳児外科対象手術
頭蓋内腫瘍摘出術等	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
黄斑下手術等	冠動脈及び大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術
鼓室形成手術等	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術
肺悪性腫瘍手術等	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検症例検討会:年間約15回 臨床症例検討会:年間約170回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	15
	剖検率(%)	3.968

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
医療データベースを用いた抗がん剤による未知の循環器合併症の発見と予防法の確立	神田 真人	循環器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
たこつぼ症候群心臓の心移植環境下における機能回復の可能性	加藤 賢	循環器内科	2,210,000	補	日本学術振興会
心不全 Advance Care Planning 外来の有効性の検討	岡田 将	循環器内科	910,000	補	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症に対するTAVI後及びTAV in TAV後の冠動脈閉塞リスク予測モデルの開発	北原 秀喜	循環器内科	520,000	補	日本学術振興会
CT画像解析による重症心不全への心臓再同期療法の最適症例の抽出	高岡 浩之	循環器内科	390,000	補	日本学術振興会
心臓超音波による局所左室仕事量解析を用いた心臓再同期療法の効果予測	江口 紀子	循環器内科	520,000	補	日本学術振興会
左室内血流解析による心臓再同期療法適応の新しい評価法の開発	青木 秀平	循環器内科	780,000	補	日本学術振興会
急性心筋梗塞に対する早期抗心不全薬治療の効果を検証する実践的ランダム化比較試験	齋藤 佑一	循環器内科	2,600,000	補	日本学術振興会
機械学習的アプローチによる、心電図を用いたたこつぼ症候群診断アルゴリズム	北川 真理	循環器内科	2,860,000	補	日本学術振興会
拡張型心筋症における心臓CTによる予後改善を見据えたリスク評価法の確立	八島 聡美	循環器内科	3,640,000	補	日本学術振興会
心不全予測を行う表情・音声の新規バイオマーカーに関する開発研究	北原 秀喜	循環器内科	772,148	委	公立大学法人横浜市立大学
非弁膜症性心房細動患者におけるWATCHMAN FLX Proを用いた経皮的左心耳閉鎖術後の抗血栓療法として抗血小板薬1剤療法の安全性と有効性を評価する前向き介入研究	龍崎 智子	循環器内科	550,000	補	(公財)ちば県民保健予防財団
子宮の変位と変形に即時に対応する高磁場MRIリアックによる適応放射線治療法の開発	宇野 隆	放射線科	900,000	補	日本学術振興会
MR画像誘導即時適応放射線治療中の革新的線量検証システムの確立	恒田 雅人	放射線科	600,000	補	日本学術振興会

高磁場MRIニアックによる時系列画像を用いたがんの超早期予後予測バイオマーカー確立	滝嶋 葉月	放射線科	70,000	補	日本学術振興会
MRIニアックによる小線源治療不適子宮頸癌に対する高精度外部照射法の開発	渡辺 未歩	放射線科	1,200,000	補	日本学術振興会
末梢神経マルチパラメトリックMRIの確立と脱髄性ニューロパチーの病態解明	横田 元	放射線科	1,700,000	補	日本学術振興会
MRIニアックにおける患者個別化放射線治療の実現に向けた汎用的画像解析手法の開発	阿部 幸太	放射線科	1,400,000	補	日本学術振興会
前立腺癌に対するMR画像誘導即時適応定位放射線治療の臨床応用を目指す研究	宇野 隆	放射線科	2,000,000	委	日本医療研究開発機構
有限要素解析を用いた大腿骨骨幹部骨折の荷重開始時期と荷重量の予測評価方法の開発	松浦 佑介	整形外科	1,400,000	補	日本学術振興会
個別別筋力推定・骨の力学解析の統合解析基礎の確立・検証と骨疾患への応用探索	松浦 佑介	整形外科	690,000	補	日本学術振興会
骨癒合促進特化型ユニバーサルiPS血小板製剤の開発	大鳥 精司	整形外科	1,900,000	補	日本学術振興会
変形性膝関節症に対するiPS血小板製剤の疼痛抑制効果解明	志賀 康浩	整形外科	2,080,000	補	学術研究助成基金助成金
深層学習を用いた拡散テンソル画像による腰椎疾患における疼痛の自動診断システム	江口 和	整形外科	2,080,000	補	学術研究助成基金助成金
脳波を用いた慢性疼痛患者における認知行動療法適応予測手法の開発	清水啓介	未来医療基金	780,000	補	学術研究助成基金助成金
骨癒合特化型iPS細胞由来血小板製剤の開発	志賀康浩	整形外科	12,940,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
口腔機能低下が脆弱性骨折を含む腰椎後彎変形に及ぼす影響に関わる多施設縦断研究	大山秀平	整形外科	350,000	補	公益財団法人 整形災害外科学 研究助成財団
高齢者における脊柱後弯症と口腔機能低下の関連性に基づく介入可能性の評価	井上雅寛	整形外科	1,000,000	補	公益財団法人 大和証券財団 調査研究助成
足関節固定モデルにおける骨癒合促進のための多血小板血漿を用いた革新的研究	木村青児	整形外科	1,000,000	補	文部科学省
生涯歩き続けられる社会と健康寿命延伸を実現する次世代人工股関節の革新的研究	中村 順一	整形外科	700,000	補	日本学術振興会
バイオメカニクスに基づいた高齢者の大腿骨近位部骨折予防方法の確立	萩原茂生	整形外科	550,000	補	ちば県民保健予防財団

急速破壊型股関節症における疼痛機序の解明と疾患特異的疼痛治療戦略の創出	瓦井裕也	整形外科(材料部)	1,000,000	補	日本学術振興会
説明可能なAIと教師なし学習AIによる脊椎疾患の新しい知見を見出す試み	牧 聡	整形外科	1,300,000	補	日本学術振興会
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	牧 聡	整形外科	250,000	補	厚生労働省
Muse細胞投与による革新的骨折治療の開発	渡邊翔太郎	整形外科/予防医学センター	853,681	補	日本学術振興会
女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標も策定を推進するための研究	甲賀 かをり	婦人科	4,000,000	補	厚生労働省
リキッドバイオプシーに基づく絨毛性腫瘍発症・薬剤耐性の分子機序解明と臨床応用	碓井 宏和	婦人科	1,300,000	補	日本学術振興会
びまん性平滑筋腫症におけるFH遺伝子変異解析とフマル酸ヒドラターゼ機能解析	石川 博士	婦人科	1,690,000	補	日本学術振興会
卵巣癌における尿中micorRNAによる相同組み換え修復経路異常の予測	楯 真一	婦人科	1,000,000	補	日本学術振興会
血糖・インスリン値経時変化と妊娠糖尿病の予後予測	廣岡 千草	産科	1,000,000	補	公益財団法人 タムス岡本記念財団
早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者QOLを向上する全国研究	忍足 俊幸	眼科	200,000	補	厚生労働省
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	三浦 玄	眼科	150,000	補	厚生労働省
網膜変性に対する幹細胞由来網膜組織移植後の電子顕微鏡による視機能ネットワーク解析	秋葉 龍太郎	眼科	1,700,000	補	日本学術振興会
視神経挫滅ラットモデルを用いた多角的アプローチによる視神経再生戦略の検討	忍足 俊幸	眼科	700,000	補	日本学術振興会
Werner症候群患者とwrn/recql5 DKOマウスを用いた「老化バイオアイマーカー」の探索	横内 裕敬	眼科	1,200,000	補	日本学術振興会
萎縮型加齢黄斑変性病態における肥満細胞およびトリプターゼの関与の解明	新沢 知広	眼科	1,200,000	補	日本学術振興会
慢性中心性漿液性脈絡網膜症に対するレーザー照射エネルギー減量光線力学的療法の有効性及び安全性導治験	馬場 隆之	眼科	5,000,000	委	日本医療研究開発機構

ACEIによる眼軸長抑制効果	馬場 隆之	眼科	1,000,000	委	公益財団法人タムス 岡本記念財団
免疫チェックポイント阻害剤の課題克服を目指した腫瘍特異的T細胞の解析	猪爪 隆史	皮膚科学	1,000,000	補	文部科学省
抗PD-1抗体への獲得耐性に関わる候補分子CD109とCD276の機能解析	松澤 高光	皮膚科学	900,000	補	文部科学省
IFN- γ シグナル非依存的ながん免疫療法の感受性及び耐性機序の解明	川島 秀介	皮膚科学	1,900,000	補	文部科学省
紫外線ダーモスコピー画像によるメラノーマの病巣範囲の自動決定法の開発	外川 八英	皮膚科学	1,325,275	補	文部科学省
時空間的ミトコンドリア免疫代謝異常の解明のための検体収集	猪爪 隆史	皮膚科学	500,000	委	文部科学省
進行期のメラノーマ患者に生じる白斑における浸潤リンパ球の腫瘍反応性と性質、利用可能性の検証	猪爪 隆史	皮膚科学	1,800,000	補	日本白斑学会
白斑組織内と腫瘍組織内におけるメラノサイト抗原特異的T細胞の制御機構の相違の解明	猪爪 隆史	皮膚科学	2,500,000	補	公益財団法人 マルホ高木皮膚科学振興財団
白斑内のメラノサイト抗原特異的T細胞を選択的に抑制するための新規治療標的の探索	青山 和弘	皮膚科学	1,000,000	補	ポーラ化成工業 白斑研究助成金
残尿・排尿機能に注目した尿路上皮癌膀胱内再発の病態解明と新規予防法の開発	佐塚 智和	泌尿器科	1,100,000	補	日本学術振興会
補体レクチン経路が尿路結石形成に与える影響の解析	若井 健	泌尿器科	1,000,000	補	日本学術振興会
網羅的シストローム解析に基づくAR非依存性前立腺癌の分子病態解明	金坂 学斗	泌尿器科	1,200,000	補	日本学術振興会
エピゲノム修飾に基づく神経内分泌前立腺癌に対する新規治療戦略	山田 康隆	泌尿器科	1,100,000	補	日本学術振興会
プレコンセプションケアによる男性妊孕能への影響の解析	小宮 顕	泌尿器科	1,700,000	補	日本学術振興会
超音波ベクターフローイメージングによる尿流動態最適化システム開発の基盤構築	加賀 勘家	泌尿器科	800,000	補	日本学術振興会
アミノ酸トランスポーターLAT1を中心とした去勢抵抗性前立腺癌の新規治療戦略の開発	梨井 隼菱	泌尿器科	1,300,000	補	日本学術振興会
致死性前立腺癌に対するアミノ酸トランスポーターを基軸とした包括的治療戦略	坂本 信一	泌尿器科	5,000,000	補	日本学術振興会

4F2hcを基軸とした泌尿器科癌における新規治療戦略の構築	今村 有佑	泌尿器科	1,000,000	補	日本学術振興会
進行前立腺癌におけるRB1変異とDNAメチル化異常の解明	山田 康隆	泌尿器科	1,800,000	補	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌におけるLAT1阻害薬の有効性と分子機構の解明	安藤 敬佑	泌尿器科	600,000	補	日本学術振興会
機能性RNA時間的階層性に基づく腎癌細胞の薬剤耐性獲得に関わるマスター分子の探索	加藤 繭子	泌尿器科	1,300,000	補	日本学術振興会
前立腺癌の治療抵抗性を予測する新規バイオマーカーの探索	黒住 顕	泌尿器科	800,000	補	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌におけるクロマチン構造変化がもたらす悪性化機構の解明	金岡 尚志	泌尿器科	1,500,000	補	日本学術振興会
アンドロゲン受容体ならびに神経内分泌化に着目した去勢抵抗性前立腺癌の克服	市川 智彦	泌尿器科	500,000	補	公益財団法人 山口 内分泌疾患研究振興 財団
進行前立腺癌におけるPSMA標的治療不応病変に対する新規診断・治療戦略の開発	山田 康隆	泌尿器科	1,000,000	補	一般社団法人 日本 癌治療学会
マウスモデルを用いた前立腺癌肝転移を標的とする新規治療戦略の開発	山田 康隆	泌尿器科	1,000,000	補	公益財団法人 安田 記念医学財団
アンドロゲン非依存性前立腺癌肝転移巣を標的とする新規治療戦略の開発	山田 康隆	泌尿器科	2,000,000	補	公益財団法人 内藤 記念科学振興財団
成人ならびに小児における希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	市川 智彦	泌尿器科/遺伝子 診療部	6,000,000	委	AMED
多領域の術式に応用可能なAI手術技能評価システムの研究開発	坂本 信一	泌尿器科	396,780	委	AMED
鼻副鼻腔原発の粘膜型悪性黒色腫の免疫ゲノム解析および重粒子線の影響解明	花澤豊行	耳鼻咽喉・頭頸部 外科	4,900,000	補	日本学術振興会
NKT細胞免疫系アプローチを用いたアレルギー性鼻炎に対するワクチン療法の開発	米倉 修二	耳鼻咽喉・頭頸部 外科	1,300,000	補	日本学術振興会
人工知能を用いた高精度LPRD診断支援システムの開発研究課題	鈴木 猛司	耳鼻咽喉・頭頸部 外科	1,400,000	補	日本学術振興会
シングルセル解析からつなげる舌下免疫療法の作用機序の解明	飯沼 智久	耳鼻咽喉・頭頸部 外科	1,000,000	補	日本学術振興会
ダニアレルギー性鼻炎の新規診断法と舌下免疫療法の効果に関するバイオマーカーの確立	新井 智之	耳鼻咽喉・頭頸部 外科	900,000	補	日本学術振興会

鼻ポリープに常在する特殊なメモリーT細胞に着目した好酸球性副鼻腔炎の病態解明	米田 理葉	耳鼻咽喉・頭頸部外科	800,000	補	日本学術振興会
患者由来細胞を用いた頭頸部腺様嚢胞癌における遺伝子変異の機能的意義の解明	福本 一郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科	900,000	補	日本学術振興会
頭頸部癌患者エクソソーム由来機能性RNA解析に基づく治療抵抗性分子機序の探索	越塚 慶一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	721,940	補	日本学術振興会
嗅神経芽細胞腫における高悪性度獲得メカニズムの解明と革新的新規治療法の開発	山崎 一樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2,100,000	補	日本学術振興会
季節性アレルギー性鼻炎の診療実態と経済的影響等の解明のための研究	岡本 美孝	耳鼻咽喉・頭頸部外科	5,886,000	補	厚生労働科学省
網羅的脳MRI解析を用いた巨脳症性疾患の予後予測のための画像バイオマーカーの探索	塩浜 直	小児科	6,800,000	補	文部科学省
川崎病患者に対する免疫調節療法の最適な適応基準を見いだす 探索的研究	濱田 洋通	小児科	11,505,000	補	日本医療研究開発機構
アジアにおける川崎病の国際的ネットワークによる国際共同臨床研究	濱田 洋通	小児科	200,000	補	一般社団法人日本川崎病学会公認研究
血小板、CD69-Myl9システムに着目した川崎病の診断と治療に関する研究	濱田 洋通	小児科	110,000	補	文部科学省
Gorlin症候群における骨代謝異常の分子的病態解明	藤井克則	小児科	1,200,000	補	文部科学省
腸内細菌叢・血清解析によるアレルギー疾患での腸管バリア機能関連バイオマーカー探索	山出史也	小児科	1,223,791	補	文部科学省
小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明と耐性を誘導する治療法の開発	山本健	小児科	1,200,000	補	文部科学省
小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明とビタミンD併用による新規経口免疫療法の開発	山本健	小児科	2,000,000	補	ニッポンハム食の未来財団法人
IgG可変領域フラグメントに着目した新たな川崎病治療標的分子の同定と診断薬の開発	江畑亮太	小児科	1,200,000	補	文部科学省
母体ビタミンDエビ体による胎児発育抑制機序およびエビ体産生制御因子の解明	高谷具純	小児科	1,100,000	補	文部科学省
移行期医療支援におけるアウトカム指標の探索	日野もえ子	小児科	400,000	補	文部科学省
次世代プロテオミクスを用いたCRP陰性若年性特発性関節炎のバイオマーカー探索	佐藤裕範	小児科	600,000	補	文部科学省

全身型若年性特発性関節炎のエクソソームプロテオミクスによる新規バイオマーカー探索	佐藤裕範	小児科	2,400,000	補	文部科学省
閾値下せん妄の病態解明と新たなせん妄予防プロトコルの効果検証	長谷川 直	緩和ケアセンター・精神神経科	780,000	補	文部科学省
抗精神病薬による薬剤耐性の予防法およびドーパミン過感受性精神病解除法の探索	小田 靖典	精神神経科	1,560,000	補	文部科学省
クロザピン誘発性流涎症の新規病態解明と治療薬開発	新津 富央	精神神経科	1,560,000	補	文部科学省
自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	新津 富央	精神神経科	260,000	委	日本医療研究開発機構
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する政策研究	椎名 明大	精神神経科	300,000	補	厚生労働省
心的外傷後ストレス障害に対するイフェンプロジルの有効性と睡眠の質評価	佐々木 剛	こどものこころ診療部	1,040,000	補	文部科学省
血液由来試料の解析と縦断データに基づく、こどもの発達障害と気分障害の治療効果及び予後に関する層別化	佐々木 剛	こどものこころ診療部	1,000,000	委	日本医療研究開発機構
千葉県子どもの心の診療ネットワーク事業	佐々木 剛	こどものこころ診療部	7,800,000	委	千葉県
子ども抑うつに対する遠隔メンタルヘルスケアの社会実装と早期受領システム整備-KOKOROBOと子どもの精神疾患レジストリ連携-	佐々木 剛	こどものこころ診療部	8,000,000	委	いのち支える自殺対策推進センター
がん関連stiff-collagen制御機構の解明を基盤とした新規がん免疫強化治療戦略の開拓	鵜澤 一弘	歯科顎口腔外科	6,240,000	補	文部科学省
癌抑制型人工合成環状RNAによる癌進展抑制メカニズムの解明と創薬の開発	笠松 厚志	歯科顎口腔外科	4,810,000	補	文部科学省
Heterogeneityに着目した口腔癌抗癌剤耐性機構の解明と制御薬の開発	坂本 洋右	歯科顎口腔外科	1,300,000	補	文部科学省
LH2-Colをターゲットとする免疫チェックポイント耐性克服療法の開発	中嶋 大	歯科顎口腔外科	1,430,000	補	文部科学省
CRISPR/Cas9 ノックアウトスクリーニングによる放射線耐性メカニズムの同定	伊豫田 学	歯科顎口腔外科	1,430,000	補	文部科学省
scRNA-seq解析による癌細胞と癌関連ECMの両方に着目した癌細胞の転移制御機構の解明	宮本 勲	歯科顎口腔外科	2,470,000	補	文部科学省
抗癌剤耐性スーパーエンハンサーによるコラーゲンバリアの解明と制御薬剤の開発	齋藤 智昭	歯科顎口腔外科	1,300,000	補	文部科学省

癌促進型環状RNAの口腔癌における癌進展メカニズムの解明	大和地 正信	歯科顎口腔外科	1,430,000	補	文部科学省
口腔扁平上皮癌・機能性RNA分子の時間的階層性解析に基づく治療標的分子の探索	駒 綾香	歯科顎口腔外科	2,470,000	補	文部科学省
コラーゲン水酸化酵素LH2による新たな創傷治癒メカニズムの解明	野崎 龍之介	歯科顎口腔外科	2,080,000	補	文部科学省
頭頸部放射線治療で引き起こされる口腔乾燥症に対する自家唾液腺細胞移植法を用いた唾液腺機能再生治療の開発	笠松 厚志	歯科顎口腔外科	33,800,000	補	日本医療研究開発機構
Japan-US Research Collaboration on the Development of a Novel Therapeutic Strategy Targeting the Cancer-Associated Extracellular Components to Disrupt Cancer Progression	笠松 厚志	歯科顎口腔外科	5,460,000	補	文部科学省
マスク換気困難のメカニズムの解明とマスク人工呼吸法の改善の研究	雨宮めぐみ	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,200,000	補	日本学術振興会
スガマデクス投与による声門狭窄発生のメカニズム:ランダム化比較試験	石橋克彦	麻酔・疼痛・緩和医療科	480,000	補	日本学術振興会
咽頭浮腫と喉頭浮腫を区別可能なカフリークテスト(CLP)の開発と臨床応用	山田高之	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,700,000	補	日本学術振興会
ウェアラブル端末を用いた患者のADL客観的評価を慢性疼痛治療指標とする試み	高井啓有	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,000,000	補	日本学術振興会
ウイルス感染症後遺症による神経炎症の分子機構の解明	神 久予	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,300,000	補	日本学術振興会
麻酔下成熟マウスにおけるセボフルラン誘発性gaspingの体温変化による影響の検討	泰地沙季	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,200,000	補	日本学術振興会
術中高二酸化炭素血症の周術期心筋傷害発症予防効果に関する研究	孫 慶淑	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,500,000	補	日本学術振興会
血液脳関門および軸索損傷バイオマーカーを用いた術後せん妄の病態解明と評価法の開発(分担課題)	長谷川麻衣子	麻酔・疼痛・緩和医療科	250,000	補	日本学術振興会
周術期免疫抑制が神経活動へ及ぼす影響と術後認知障害の関連の解明	長谷川麻衣子	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,000,000	補	日本学術振興会
自発呼吸下挿管マウスを用いたsighの発生機序と生理学的意義の解明	橋田真由美	麻酔・疼痛・緩和医療科	2,000,000	補	日本学術振興会
非心臓手術後心筋障害と重症閉塞性睡眠時無呼吸の関連性とその病態解明	山地芳弘	麻酔・疼痛・緩和医療科	1,600,000	補	日本学術振興会

LOCI法を用いた新規グリオーマ血清診断自己抗体マーカーの確立	松谷智郎	脳神経外科	1,820,000	補	日本学術振興会
シングルセル解析から捉える下垂体神経内分泌腫瘍の多様性分子機構に関する基盤的研究	堀口健太郎	脳神経外科	1,300,000	補	日本学術振興会
膠芽腫再発に対するNKT細胞を用いた免疫療法の有効性	小林正芳	脳神経外科	3,250,000	補	日本学術振興会
膠芽腫に対するiPS細胞由来NKT細胞を用いた新規免疫治療の基盤構築	尾崎 航	脳神経外科	2,730,000	補	日本学術振興会
機械学習を用いた脳梗塞抗体マーカー統合解析による脳梗塞発症予測の臨床応用	吉田陽一	脳神経外科	2,400,000	補	日本学術振興会
ロングリード次世代シーケンサーを用いた髄液リキッドバイオプシーの確率と臨床応用	足立明彦	脳神経外科	790,000	補	日本学術振興会
肺移植後の慢性移植肺機能不全に対する抗線維化治療の開発	鈴木 秀海	呼吸器外科	2,080,000	補	日本学術振興協会
セノリティックセラピーによるドナー肺の新規移植前治療法の開発	稲毛 輝長	呼吸器外科	2,860,000	補	日本学術振興協会
びまん性肺疾患に関する調査研究	鈴木 拓児	呼吸器内科	300,000	補	厚生労働省
呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上の移行期医療に関する研究	杉浦 寿彦	呼吸器内科	300,000	補	厚生労働省
難治性呼吸疾患・肺高血圧に関する調査研究	鈴木 拓児	呼吸器内科	8,320,000	補	厚生労働省
呼吸器疾患予後予測システムの開発 新型コロナウイルス感染症から慢性進行性疾患まで	川田 奈緒子	呼吸器内科	2,860,000	補	日本学術振興会
CD26/DPP-4を標的とした肺線維症の新規治療戦略確立に向けた分子基盤の解明	川崎 剛	呼吸器内科	1,040,000	補	日本学術振興会
急性肺障害における骨髄由来間葉系幹細胞エクソソームの治療応用可能性の検討	内藤 亮	呼吸器内科	910,000	補	日本学術振興会
異常ミトコンドリアが紡ぐ抗腫瘍免疫応答の本態解明	池田 英樹	呼吸器内科	800,000	補	日本学術振興会
肺癌微小環境再現性オルガノイド樹立による病態メカニズム解明	鈴木 敏夫	呼吸器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
内皮血球転換を応用した難治性呼吸器疾患における革新的ワクチン療法の開発	関根 亜由美	呼吸器内科	1,560,000	補	日本学術振興会

1細胞空間遺伝子発現による難治性呼吸器疾患に対する肺マクロファージ移植機構の解明	伊狩 潤	呼吸器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
Deep phenotyping統合解析を用いた肺動脈性肺高血圧症の新規治療開発	重田 文子	呼吸器内科	1,040,000	補	日本学術振興会
EGFR-TKI後の治療残存腫瘍における免疫微小環境の理解と抗腫瘍免疫記憶誘導への挑戦	下村 巖	呼吸器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
化学放射線療法を受ける非小細胞肺癌患者におけるILAが及ぼす影響の検討	齋藤 合	呼吸器内科	390,000	補	日本学術振興会
肺高血圧症・肺線維症病態進展におけるマクロファージプログラミング	須田 理香	呼吸器内科	2,340,000	補	日本学術振興会
低酸素下での呼吸調節に関わる睡眠関連物質の役割	堀内 大	呼吸器内科	1,200,000	補	日本学術振興会
肺線維症合併肺高血圧症におけるCD26/DPP4の役割	岡谷 匡	呼吸器内科	1,200,000	補	日本学術振興会
GM-CSF吸入療法の新たな効能:肺胞/間質性マクロファージのバランスへの介入	鈴木 拓児	呼吸器内科	50,000	補	日本学術振興会
肺の恒常性維持・生体防御・組織修復を標的とした難治性呼吸器疾患治療法の開発と応用	鈴木 拓児	呼吸器内科	3,900,000	補	日本学術振興会
肺高血圧症患者レジストリ Japan Pulmonary Hypertension Registry:JAPHR	重田 文子	呼吸器内科	200,000	補	日本学術振興会
ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナジーキャンパス(千葉大学 未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点)	鈴木 拓児	呼吸器内科	8,000,000	委	日本医療研究開発機構
薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究	佐藤 峻	呼吸器内科	3,000,000	委	日本医療研究開発機構
ストレスAT2細胞と免疫細胞の相互作用解析(分担研究開発課題名) 肺胞幹細胞ストレスに起因する特発性肺線維症の早期分子経路の解明と治療薬の創製	鈴木 拓児	呼吸器内科	3,100,000	委	日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	重田 文子	呼吸器内科	650,000	委	日本医療研究開発機構
膵・胆管合流異常を背景とする胆管癌発生の分子機構解明	菱木 知郎	小児外科	1,330,781	委	学術研究助成基金助成金
神経芽腫による抗腫瘍免疫抑制機序を応用した新規免疫療法の開発	吉澤 比呂子	小児外科	1,235,167	委	学術研究助成基金助成金

神経芽腫に対する抗GD2抗体及びiPS細胞由来NKT細胞を用いた免疫療法の開発	西村 雄宏(病)	小児外科	1,434,437	委	学術研究助成基金助成金
先天性横隔膜ヘルニア患児の臍帯組織を用いた網羅的エピゲノム解析による原因探索	武之内 史子	小児外科	1,653,395	委	学術研究助成基金助成金
小児短腸症候群患者の腸管順応における腸内細菌叢がもたらす役割の解明	川口 雄之亮	小児外科	2,021,633	委	学術研究助成基金助成金
腸管神経異常疾患における腸管好酸球集積の機構と生理的意義の解明	文田 貴志(病)	小児外科	2,213,394	委	学術研究助成基金助成金
【基盤C分担金】新規遺伝子解析法によるヒルシュスブルグ病の包括的原因遺伝子解析	川口 雄之亮	小児外科	400,000	補	学術研究助成基金助成金
【若手】H病類縁疾患モデルマウスを用いた腸管神経発生と腸管蠕動不全の分子機構の解明	笈田 諭(病)	小児外科	1,100,000	委	学術研究助成基金助成金
【基盤(C)】新生児X線画像のAI画像解析による疾患スクリーニングシステムの構築	勝俣 善夫	小児外科	2,000,000	委	学術研究助成基金助成金
希少難治性消化器疾患の長期的QOL 向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	菱木 知郎	小児外科	300,000	補	厚生労働科学研究費補助金
小児・AYA 世代肝腫瘍の治癒率向上と合併症低減を目指した3D シミュレーションによる外科療法最適化:成人小児多施設共同研究	菱木 知郎	小児外科	5,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児胎児性固形がんに対する標準的治療法開発	菱木 知郎	小児外科	300,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脊髄小脳変性症の治療法開発に直結するエビデンス創出研究	桑原 聡	脳神経内科	500,000	補	日本医療研究開発機構
抗plexin D1抗体及び新規発見抗neuropil抗体陽性アトピー性脊髄炎・自己免疫性神経障害性疼痛の新診療ガイドライン作成のためのエビデンスとレジストリ構築	桑原 聡	脳神経内科	400,000	補	日本医療研究開発機構
球脊髄性筋萎縮症に対するメキシレチン塩酸塩の有効性及び安全性を検討する医師主導試験	桑原 聡	脳神経内科	1,500,000	補	日本医療研究開発機構
多施設連携プラットフォーム(MABB)を基盤にした各種認知症性疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立	平野 成樹	脳神経内科	3,700,000	補	日本医療研究開発機構
PETをReference Standardとした認知症の背景病理を包括的に評価可能な血液バイオマーカーシステムの開発	平野 成樹	脳神経内科	1,750,000	補	日本医療研究開発機構
プロテアソーム阻害による形質細胞を標的とした重症筋無力症の革新的治療開発	安田 真人	脳神経内科	1,700,000	補	日本学術振興会

MuSK抗体陽性重症筋無力症に対する標的抗原Fc融合タンパクを用いた革新的治療法開発	鵜沢 顕之	脳神経内科	1,100,000	補	日本学術振興会
脳機能画像による神経障害性疼痛の可視化と定量的評価システムの確立	桑原 聡	脳神経内科	0 (2年目)	補	日本学術振興会
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	桑原 聡	脳神経内科	700,000	補	厚生労働省
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	桑原 聡	脳神経内科	800,000	補	厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	桑原 聡	脳神経内科	18,460,000	補	厚生労働省
疾患レジストリ・バイオバンクを用いたCIDPの遺伝子バイオマーカーの確立	青墳 佑弥	脳神経内科	1,700,000	補	日本学術振興会
アウトカム基盤型リカレント教育により神経難病診療の危機を解決する革新的研究	荒木 信之	地域医療教育学	1,100,000	補	日本学術振興会
POEMS症候群の至適治療戦略の構築	三澤 園子	脳神経内科	0 (6年目)	補	日本学術振興会
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	三澤 園子	脳神経内科	800,000	補	厚生労働省
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	鵜沢 顕之	脳神経内科	400,000	補	厚生労働省
サイボーグ型ロボット、運動野磁気刺激によるすくみ足の統合的リハビリテーション開発	山中 義崇	患者支援部	700,000	補	日本学術振興会
スモンに関する調査研究	山中 義崇	患者支援部	600,000	補	厚生労働省
シングルセルRNA解析を用いた重症筋無力症の分子病態解明	赤嶺 博行	脳神経内科	100,000	補	日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症の大脳皮質運動ニューロン過興奮性の病態解明	大谷 亮	脳神経内科	600,000	補	日本学術振興会
ギラン・バレー症候群における補体プロファイルの網羅的解析による個別化治療の開発	中村 圭吾	脳神経内科	0 (3年目)	補	日本学術振興会
マルチモーダル脳機能画像によるパーキンソン病認知機能の包括的評価システム確立	平野 成樹	脳神経内科	800,000	補	日本学術振興会
miR-145を標的とした血液脳関門破綻防止による多発性硬化症の革新的治療法開発	栢田 大生	脳神経内科	1,400,000	補	日本学術振興会

ヒト脳マイクロパソフジオリジカルシステムズ:脳疾患の生体模倣と創薬研究への応用	栢田 大生	脳神経内科	450,000	補	日本学術振興会
免疫性末梢神経疾患における革新的血液神経関門イメージング法の確立	杉山 淳比古	脳神経内科	1,700,000	補	公益財団法人高橋産業経済研究財団
診療参加型臨床実習を推進する新たな指導法の開発:汎用化に向けた多施設共同研究	杉山 淳比古	脳神経内科	30,000	補	日本学術振興会
敗血症における細胞外マトリックス蛋白質SVEP1の遺伝子改変動物を用いた機能解明	栗田健郎	救急科・集中治療部	1,300,000	補	日本学術振興会
シングルセル遺伝子発現とエクソソームに着目した間葉系幹細胞の敗血症治療への応用	宮内清司	救急科・集中治療部	2,200,000	補	日本学術振興会
重症患者に合併する腸管恒常性の破綻と下痢の病態解析	山本晃之	救急科・集中治療部	1,800,000	補	日本学術振興会
定量的CRT値と臨床的有用性の確立および高精度CRT測定装置の開発	三輪弥生	救急科・集中治療部	1,100,000	補	日本学術振興会
敗血症の遺伝的素因の詳細解析と検証基盤構築	中田孝明	救急科・集中治療部	5,400,000	補	日本学術振興会
オートファジーを介した腸管恒常性の制御による敗血症治療への応用	大網毅彦	救急科・集中治療部	6,500,000	補	日本学術振興会
重症急性膵炎におけるclaudin2の機能解析と腸管透過性の制御による治療への応用	石田茂誠	救急科・集中治療部	1,100,000	補	日本学術振興会
ICTとAIを活用した患者の病院間搬送支援システムの構築研究	中田孝明	救急科・集中治療部	3,300,000	補	厚生労働科学研究費
重症急性膵炎におけるCD 69-MyI9/12システムの関与について	大村 拓	救急科・集中治療部	1,000,000	補	日本学術振興会
CRT測定条件の標準化と臨床的有用性の確立および高精度CRT測定装置の開発	齋藤大輝	救急科・集中治療部	1,200,000	補	日本学術振興会
転写因子HIVEP3の皮膚繊維芽細胞制御:骨・皮膚老化regulator解明への展開	新井美波	形成・美容外科	1,600,000	補	日本学術振興会
冷却刺激誘導ベージュ (beige) 脂肪細胞を用いた新しい脂肪移植法の確立	三川信之	形成・美容外科	1,300,000	補	日本学術振興会
慢性創傷における血小板・マクロファージの相互作用の解析と細胞治療への応用	小坂健太郎	形成・美容外科	1,300,000	補	日本学術振興会
リンパ管内皮細胞の再生と誘導による革新的皮膚抗老化治療の開発	秋田新介	形成・美容外科	3,800,000	補	日本学術振興会

年代別によるヒト脂肪細胞の違いと、ヒト脂肪細胞への遺伝子導入に関する研究	山田香穂子	形成・美容外科	1,300,000	補	日本学術振興会
DPCデータと病院医療情報システムを利用した手術部位感染症の同定に関する研究	谷口俊文	感染症内科	1,560,000	補	文部科学省
臓器専門診療科入院患者を対象とした領域横断的診療支援システムの開発および効果測定	上原孝紀	総合診療科	1,300,000	補	日本学術振興会
DPCとタイムスタディを用いた臓器専門医のプライマリ・ケア診療可視化に基づく医師偏在指標の開発	上原孝紀	総合診療科	2,531,000	補	厚生労働省
診断に特化したBERTファインチューニングモデルの開発	横川大樹	総合診療科	650,000	補	日本学術振興会
AI模擬患者を活用した医療面接実習の有用性の検証	柳田育孝	総合診療科	50,000	補	日本学術振興会
インターフェロンフリー治療がC型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	中村 昌人	消化器内科	800,000	委	日本医療研究開発機構
進行肝臓に対する全方位型複合免疫療法の開発	加藤 直也	消化器内科	5,460,000	補	日本学術振興会
5-アミノサリチル製剤不耐と潰瘍性大腸炎増悪の免疫学的 mimicry の検証	加藤 順	消化器内科	910,000	補	日本学術振興会
N-Ras制御による原発性胆汁性胆管炎の病態解明と治療の可能性	中川 良	消化器内科	1,170,000	補	日本学術振興会
シングルユース内視鏡とAIを活用した消化管がん診療における新規医療提供モデルの構築	松村 倫明	消化器内科	2,730,000	補	日本学術振興会
肝細胞癌の背景肝に蓄積したT細胞の腫瘍抗原認識に着目した機能解析	小笠原 定久	消化器内科	910,000	補	日本学術振興会
十二指腸微生物叢の歪みに着目した膵発癌機構の解明と早期診断法の開発	大山 広	消化器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
HBxを標的としたB型肝炎発癌抑制に関する創薬研究	中本 晋吾	消化器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
社会実装可能な人工知能による画期的十二指腸腫瘍risk層別内視鏡診断システムの開発	沖元 謙一郎	消化器内科	4,290,000	補	日本学術振興会
大腸がん制御を目的とした、食事が関与するNKT細胞活性化を用いた新規免疫治療の開発	對田 尚	消化器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
脈管侵襲を伴う進行肝細胞癌の免疫応答性と分子メカニズムの解明	井上 将法	消化器内科	1,040,000	補	日本学術振興会

潰瘍性大腸炎と原発性硬化性胆管炎の免疫コモナリティによる病態解明	太田 佑樹	消化器内科	1,400,000	補	日本学術振興会
好酸球性炎症に伴う食道神経叢障害の機序と食道アカラシアの病態解明	金子 達哉	消化器内科	1,430,000	補	日本学術振興会
脾液中エクソソームの高精度プロテオーム解析による脾癌の革新的診断法の開発	菅 元泰	消化器内科	2,080,000	補	日本学術振興会
脾癌における細菌叢および真菌叢の検討	山田 俊儒	消化器内科	1,690,000	補	日本学術振興会
腸肝相関に着目した非アルコール性脂肪性肝疾患由来肝癌の腫瘍免疫制御法の創出	佐久間 崇文	消化器内科	1,040,000	補	日本学術振興会
肝細胞癌に対するiNKT細胞療法の安全性と有効性について	小川 慶太	消化器内科	3,510,000	補	日本学術振興会
B型肝炎ウイルスのゲノム組み込みは染色体外DNAを発生させて肝臓癌を導くか？	児島 隆太	消化器内科	2,600,000	補	日本学術振興会
食道粘膜の免疫寛容誘導機構の解明	黒杉 茜	消化器内科	2,730,000	補	日本学術振興会
門脈血のiTRAQ解析に基づく門脈大循環短絡路塞栓術後の肝機能改善のメカニズムの解明	藤原 希彩子	消化器内科	2,860,000	補	日本学術振興会
門脈血のiTRAQ解析に基づく門脈大循環短絡路塞栓術後の肝機能改善のメカニズムの解明	藤原 希彩子	消化器内科	2,860,000	補	日本学術振興会
Red dichromatic imagingは内視鏡的粘膜下層剥離術における粘膜下層の視認性の向上性	石川 翼	消化器内科	500,000	補	医療・福祉ネットワーク
脾腫瘍性病変に対する超音波内視鏡下組織採取における異なる先端形状の穿刺針の有用性を検証するランダム化比較試験	大山 広	消化器内科	500,000	補	内視鏡医学研究振興財団
MPCポリマー表面加工によるNiTi合金の胆泥汚染の軽減効果の検証	菅 元泰	消化器内科	4,606,712	委	令和6年度中小企業政策推進事業費補助金
POEMS症候群における微小クローン同定による診断治療戦略の確立	堺田 恵美子	血液内科	1,100,000	補	日本学術振興会
形質細胞シングルセルRNAシーケンスによるALアミロイドーシス網羅的遺伝子解析	竹田 勇輔	血液内科	1,000,000	補	日本学術振興会
POEMS症候群形質細胞による巨核球・血小板の教育機構の解明	塚本 祥吉	血液内科	1,000,000	補	日本学術振興会
POEMS症候群における新規マルチパラメーターフローサイトメトリ法の開発と臨床応用	石井 改	血液内科	1,400,000	補	日本学術振興会

小児から成人を対象にする臨床試験によるT細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用限界年齢の検討と新規バイオマーカー検索に関する研究	堺田 恵美子	血液内科	7,900,000	委	日本医療研究開発機構
PDX治療モデルと継続的臨床検体の統合的マルチオミックス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化と難治性クローンの克服に向けた治療戦略の構築に関する研究	堺田 恵美子	血液内科	150,000	委	日本医療研究開発機構
経済安全保障重要技術育成プログラム/有事に備えた止血製造技術開発・実証/汎用性の高い人口血小板の開発	堺田 恵美子	血液内科	690,000	委	日本医療研究開発機構
次世代のがんプロフェッショナル養成プラン	堺田 恵美子	血液内科	17,000,000	委	日本医療研究開発機構
巨核球・血小板解析によるPOEMS症候群の病態解明	堺田 恵美子	血液内科	1,000,000	委	日本血液学会
成熟B細胞腫瘍モデルマウスによる腫瘍免疫逃避構造の解明と新規治療開発	三村 尚也	輸血・細胞療法部	1,000,000	補	日本学術振興会
慢性好中球性白血病の病態形成メカニズム解明と新規治療標的分子の検索	大島 渚	輸血・細胞療法部	2,000,000	補	日本学術振興会
透析患者の免疫能低下における腸内細菌叢変化の寄与	若林華恵	腎臓内科	600,000	補	日本学術振興会
スリット膜裏打ち蛋白MAGI-2の機能解析と新規CKD治療薬の開発	浅沼克彦	腎臓内科	5,400,000	補	日本学術振興会
遺伝性血管性浮腫における線溶凝固系異常の病態を発展的に解明するための研究	本田大介	腎臓内科	1,300,000	補	日本学術振興会
人工知能を利用した血液透析至適ドライウェイト設定のシステムの開発	井上宏子	腎臓内科	900,000	補	日本学術振興会
ポドサイト特異的蛋白デンドリンの機能解析	奥永一成	腎臓内科	1,100,000	補	日本学術振興会
脱分化細胞の再分化誘導法の確立による機能蘇生医学の創発	太口敦博	腎臓内科	7,340,000	委	科学技術振興機構
ウイルス感染に対する自然免疫系	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	49,023,000	委	JST
ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	11,600,000	委	AMED
気道上皮細胞の自然免疫記憶を標的とした喘息治療戦略の確立	中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	2,600,000	補	日本学術振興会

乾癬病態形成におけるケラチノサイト内IL-17誘導性チロシンキナーゼの役割の解析	鈴木 浩太郎	アレルギー・膠原病 内科	1,200,000	補	日本学術振興会
アレルギー性気道炎症におけるニコチン性アセチルコリン受容体の役割の解明	前澤 裕子	アレルギー・膠原病 内科	1,100,000	補	日本学術振興会
ILC2特異的スーパーエンハンサーの理解に基づく新規アレルギー疾患制御法の開発	岩田 有史	アレルギー・膠原病 内科	1,400,000	補	日本学術振興会
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	古田 俊介	アレルギー・膠原病 内科	313,000	補	厚生労働省
マンノース受容体陽性マクロファージを標的にした大血管炎治療への挑戦	古田 俊介	アレルギー・膠原病 内科	1,300,000	補	日本学術振興会
抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の病態形成におけるI型インターフェロンの役割と産生機構	岩本 太郎	アレルギー・膠原病 内科	1,400,000	補	日本学術振興会
雌性特有の制御性T細胞の解析による新たな関節リウマチ治療戦略の構築	田中 繁	アレルギー・膠原病 内科	1,400,000	補	日本学術振興会
免疫センサー局在異常によるヒト自己免疫疾患発症の遺伝学的エビデンスの構築	目黒 和行	アレルギー・膠原病 内科	2,700,000	補	日本学術振興会
若年性重症SLE患者における新規TLR7変異の同定とその発症機序の解明	目黒 和行	アレルギー・膠原病 内科	1,400,000	補	日本学術振興会
腸管内Akkermansia muciniphilaによるアレルギー性気道炎症制御機構の解明	伊藤 崇	アレルギー・膠原病 内科	1,200,000	補	日本学術振興会
気道リモデリング形成における気道上皮細胞のエピジェネティック制御機構の解明	影山 貴弘	アレルギー・膠原病 内科	1,700,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリア残存赤血球による全身性エリテマトーデスの病態形成機構の解明	戸田 陽介	アレルギー・膠原病 内科	1,400,000	補	日本学術振興会
自己免疫疾患発症にかかわる γ δ T17細胞の分化増殖におけるIL-21の役割の解明	石川 絢一	アレルギー・膠原病 内科	1,800,000	補	日本学術振興会
制御性T細胞特異的IL-10産生制御機構の解明	阿部 和也	アレルギー・膠原病 内科	1,800,000	補	日本学術振興会
全身性エリテマトーデス発症におけるAXL陽性樹状細胞の役割の解明	餌取 慶史	アレルギー・膠原病 内科	1,800,000	補	日本学術振興会
Th2型腸炎における短鎖脂肪酸-GPR43陽性ILC2の制御機構の解明	伊藤 崇	アレルギー・膠原病 内科	1,000,000	補	先進医薬研究振興財団
スマートウォッチを利用した機械学習による発作性心房細動診断アルゴリズム開発研究	乾 友彦	心臓血管外科	0 (研究期間延長)	補	日本学術振興会

インターロイキン-11による新規治療法の確立:投与方法とミトコンドリア保護の解明	黄野 皓木	心臓血管外科	400,000	補	日本学術振興会
心筋虚血再灌流障害に関するIL-11による心筋ミトコンドリア保護効果の解明	池内 博紀	心臓血管外科	0 (研究期間延長)	補	日本学術振興会
Vector flow mappingを用いた非侵襲的心拍出量測定法の開発	諫田 朋佳	心臓血管外科	0 (研究期間延長)	補	日本学術振興会
腹部ステントグラフト術後血管イベントの早期予測システムの開発	渡邊 倫子	心臓血管外科	0 (研究期間延長)	補	日本学術振興会
消化管内視鏡を用いた縦隔内革新的手術のための消化管壁外同期可視化システムの開発	中野 明	食道・胃腸外科	1,300,000	補	日本学術振興会
CVポートカテーテルの光学的体内状況検知法の開発	藏田 能裕	食道・胃腸外科	2,200,000	補	日本学術振興会
糖尿病薬メトホルミンに注目した食道扁平上皮癌の腫瘍免疫機構解明と新規治療の開発	関野 伸史	食道・胃腸外科	1,100,000	補	日本学術振興会
腫瘍と宿主のマルチモーダル画像解析による上部消化管癌プレシジョンメディシンの実現	早野 康一	食道・胃腸外科	1,400,000	補	日本学術振興会
肝内胆管癌病態形成におけるメカノトランスダクションの役割	大塚 将之	肝胆膵外科	1,950,000	補	日本学術振興会
癌微小環境内の補体免疫相互作用の多角的解析による癌進展機序解明と診断・治療応用	高野重紹	肝胆膵外科	1.170.000	補	日本学術振興会
ING5による大腸癌の進展、転移および化学療法抵抗性に対する抑制的制御機構の解明	酒井望	肝胆膵外科	1.170.000	補	日本学術振興会
肝門部領域胆管癌における肝門部の立体解剖にもとづいた新規切除可能性分類の開発	細川 勇	肝胆膵外科	0	補	日本学術振興会
大腸癌肝転移におけるHistopathological growth patternに基づいた新規治療戦略の構築	小西 孝宜	肝胆膵外科	1,430,000	補	日本学術振興会
肝内胆管癌新規Biomarkerの同定及び癌周囲間質を標的とした新規治療開発	鈴木謙介	肝胆膵外科	1,430,000	補	日本学術振興会
大腸癌肝転移のTWEAK/Fn14 axisを介した腫瘍進展メカニズムの解明と新規治療薬の開発	松山 尚樹	肝胆膵外科	1,430,000	補	日本学術振興会
ポリコームタンパクYAF2による大腸癌の進展、転移、再発における制御機構の解明	佐藤 駿介	肝胆膵外科	1.560.000	補	日本学術振興会
C5-C5aR1/2 axisを標的とした膵癌進展機構の解明と新規補体免疫賦活化療法への応用	江藤 亮太郎	肝胆膵外科	1.560.000	補	日本学術振興会

胆道癌における相同組換え修復欠損に基づいたprecision medicineの構築	藤井 康矢	肝胆膵外科	1,430,000	補	日本学術振興会
大腸癌におけるRYBPを介した腫瘍制御機構の解明	森中 孝至	肝胆膵外科	1,560,000	補	日本学術振興会
SEMA3Cが及ぼすHGF/c-MET経路の活性化と膵癌進展機構の解明	富澤 聡史	肝胆膵外科	1,690,000	補	日本学術振興会
消化器癌の進展、転移制御におけるBAP1の機能解析	岡 義人	肝胆膵外科	1,430,000	補	日本学術振興会
膵臓癌細胞株を用いた網羅的secretome解析により見出された分泌蛋白の臨床応用	高野重紹、大塚将之	肝胆膵外科	6,500,000	補	産学共同研究 麻布大学・デンカ株式会社
大腸癌の腫瘍進展、転移形成におけるRING1の促進的機構の解明	船津 悠也	肝胆膵外科	200,000	補	日本学術振興会
肝胆膵領域癌におけるLy6Dを介した腫瘍進展促進機序・抗癌剤耐性増強機序の解明および治療応用	園田 至人	肝胆膵外科	200,000	補	日本学術振興会
膵癌に対するRAD51に基づいた新たな治療戦略の開発	小西孝宜	肝胆膵外科	1,000,000	補	日本膵臓病研究財団 膵臓病研究奨励賞
LIN28Bによる膵神経内分泌癌(PanNEC)発癌機構の解明	鈴木謙介	肝胆膵外科	800,000	補	日本膵臓病研究財団 膵臓病研究奨励賞
拡張現実と疑似体位画像生成技術を応用した乳癌術前・術中支援システムの開発	藤本浩司	乳腺外科	1,560,000	補	日本学術振興会
in vivoエストロゲン非依存性乳癌細胞株による内分泌療法抵抗性機序の解析研究	山田英幸	乳腺外科	650,000	補	日本学術振興会
ゲノム解析を用いた原発性硬化性胆管炎からの胆管癌発癌メカニズムの解明	高橋 幸治	腫瘍内科	1,170,000	補	日本学術振興会
核小体内におけるRNA polymerase II によるribosomal RNA の転写と癌化機構の解明	松下 一之	検査部	1,584,243	補	日本学術振興会
RNAPI/II を介するrRNA/mRNA 同時転写活性機序を標的とした新規がん診断・治療法開発	松下 一之	検査部	200,000	補	金沢大学がん進展制御研究所
長鎖DNA解析を基盤とする臨床検査群を可能とする本邦初のプラットフォームの開発	西村 基	検査部	1,645,849	補	日本学術振興会
1本鎖DNA/RNA選択的解析によるCOVID-19を含む感染症検査の広範な改良	西村 基	検査部	2,500,000	補	日本学術振興会
蛋白翻訳機構に着目した動脈硬化進展における血管平滑筋細胞の新規増殖亢進機序	内田 雅士	薬剤部	1,000,000	補	日本学術振興会

持続血液濾過透析による吸着クリアランスを考慮した抗菌薬投与設計の構築	山崎 伸吾	薬剤部	400,000	補	日本学術振興会
薬物中枢移行性の変動を考慮した薬物療法の実施に向けた情報基盤の構築	石川 雅之	薬剤部	600,000	補	日本学術振興会
添付文書における腎機能指標の統一に係る研究	石井 伊都子	薬剤部	6,539,000	補	厚生労働省
血中カルニチンモニタリングの服薬アドヒアランス評価に対する有用性	高塚博一	薬剤部	470,000	補	日本学術振興会
成熟B細胞腫瘍モデルマウスによる腫瘍免疫逃避機構の解明と新規治療開発	三村 尚也	輸血・細胞療法部	1,000,000	補	日本学術振興会
性好中球性白血病の病態形成メカニズム解明と新規治療標的分子の探索	大島 渚	輸血・細胞療法部	2,000,000	補	日本学術振興会
治療タンパク質の過剰発現による細胞ストレスを回避した遺伝子治療用脂肪細胞の開発	黒田 正幸	未来開拓センター	4,700,000	補	日本学術振興会
再発・進行頭頸部がん患者を対象とした他家iPS-NKT細胞および自家DC/Gal併用療法に関する臨床研究の第2用量	本橋 新一郎	未来開拓センター	29,221,000	委	日本医療研究開発機構

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Saito Y, Kobayashi Y.	循環器内科	Endeavor of exploring mechanisms of myocardial infarction in patients with no standard modifiable cardiovascular risk factors	Int J Cardiol. 2025 Jun 15;429:133155. doi: 10.1016/j.ijcard.2025.133155. Epub 2025 Mar 12.	Original Article
2	Nishi T, Saito Y, Tateishi K, 他	循環器内科	Safety and clinical implications of coronary spasm provocation testing in patients presenting with myocardial infarction with no overt culprit lesion	Int J Cardiol. 2025 May 1;426:133066. doi: 10.1016/j.ijcard.2025.133066. Epub 2025 Feb 20.	Original Article
3	Nakano M, Kondo Y, Shiko Y他	循環器内科	Validity of HELT-E(2)S(2) Score in Predicting Ischemic Stroke in Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation With Cardiac Implantable Electronic Devices	Circ J. 2025 May 23;89(6):765–773. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0715. Epub 2025 Feb 1.	Original Article
4	Kato K, Di Vece D, Kitagawa M,他	循環器内科	Clinical characteristics and outcomes in takotsubo syndrome –Review of insights from the InterTAK Registry	J Cardiol. 2025 Apr;85(4):263–267. doi: 10.1016/j.jicc.2025.01.009. Epub 2025 Jan 30.	Review
5	Saito Y, Tateishi K, Kobayashi Y.	循環器内科	Clinical Review of Cardiogenic Shock After Acute Myocardial Infarction – Revascularization, Mechanical Circulatory Support, and Beyond	Circ Rep. 2024 Nov 29;7(1):6–14. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0141. eCollection 2025 Jan 10.	Review
6	Kitahara H, Yamazaki T, Hiraga T,他	循環器内科	Impact of Underdosing of Direct Oral Anticoagulants on Clinical Outcomes in Patients With Atrial Fibrillation Undergoing Percutaneous Coronary Intervention	Circ J. 2025 Jan 24;89(2):195–203. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0418. Epub 2024 Dec 20.	Original Article
7	Okita S, Saito Y, Yaginuma H, 他	循環器内科	Patterns and Prognostic Impact of Postdischarge Ischemic, Bleeding, and Heart Failure Events After Myocardial Infarction	Am J Cardiol. 2025 Mar 15;239:1–7. doi: 10.1016/j.amjcard.2024.12.004. Epub 2024 Dec 9.	Original Article
8	Sasaki H, Takaoka H, Yoshida K, 他	循環器内科	Preoperative mitral valve annulus area size is an important factor in avoiding functional mitral stenosis after mitral valve repair	J Echocardiogr. 2025 Jun;23(2):123–132. doi: 10.1007/s12574-024-00671-x. Epub 2024 Nov 21.	Original Article
9	Okita S, Saito Y, Yaginuma H, 他	循環器内科	Impact of the Stress Hyperglycemia Ratio on Heart Failure and Atherosclerotic Cardiovascular Events After Acute Myocardial Infarction	Circ J. 2025 Feb 25;89(3):340–346. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0612. Epub 2024 Oct 22.	Original Article
10	Saito Y, Kobayashi Y.	循環器内科	Antithrombotic management in atrial fibrillation patients following percutaneous coronary intervention: A clinical review	J Arrhythm. 2024 Aug 8;40(5):1108–1114. doi: 10.1002/joa3.13128. eCollection 2024 Oct.	Review

11	Chiba T, Kondo Y, Shiko Y, 他	循環器内科	Benefit of implantable cardioverter defibrillator use in Japanese patients based on modified MADIT-ICD benefit score	ESC Heart Fail. 2025 Feb;12(1):369–378. doi: 10.1002/ehf2.15081. Epub 2024 Sep 20.	Original Article
12	Saito Y, Kobayashi Y, Tsujita K, 他	循環器内科	Pharmacological and Device-Based Intervention for Preventing Heart Failure After Acute Myocardial Infarction – A Clinical Review	Circ J. 2024 Oct 25;88(11):1727–1736. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0633. Epub 2024 Sep 13.	Review
13	Saito Y, Tateishi K, Kanda M, 他	循環器内科	Volume–Outcome Relationships for Intra-Aortic Balloon Pump in Acute Myocardial Infarction	Circ J. 2024 Jul 25;88(8):1286–1292. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0286. Epub 2024 Jun 27.	Original Article
14	Saito Y, Kobayashi Y, Fujii K, 他	循環器内科	CVIT 2025 clinical expert consensus document on intravascular ultrasound	Cardiovasc Interv Ther. 2025 Apr;40(2):211–225. doi: 10.1007/s12928-025-01090-0. Epub 2025	Others
15	Saito Y, Inohara T, Kohsaka S, 他	循環器内科	Door-to-Balloon Time and Mortality in STEMI With Cardiogenic Shock: A Nationwide Registry	JACC Asia. 2024 Apr 23;4(5):421–422. doi: 10.1016/j.jacasi.2024.03.002. eCollection 2024 May.	Others
16	Yamamoto K, Natsuaki M, Watanabe H, 他	循環器内科	An Aspirin-Free Strategy for Immediate Treatment Following Complex Percutaneous Coronary Intervention	JACC Cardiovasc Interv. 2024 May 13;17(9):1119–1130. doi: 10.1016/j.jcin.2024.03.017.	Original Article
17	Goto H, Takaoka H, Ota J, 他	循環器内科	Computed Tomography Evaluation of Extracellular Volume for Predicting Prognosis in Patients with Severe Renal Dysfunction on Dialysis	J Clin Med. 2024 Dec 12;13(24):7561. doi: 10.3390/jcm13247561.	Original Article
18	Saito Y, Inohara T, Kohsaka S, 他	循環器内科	Benchmarking System Monitoring on Quality Improvement in Percutaneous Coronary Intervention: A Nationwide Registry in Japan	JACC Asia. 2024 Feb 20;4(4):323–331. doi: 10.1016/j.jacasi.2023.12.003. eCollection 2024 Apr.	Others
19	Yaginuma H, Saito Y, Goto H, 他	循環器内科	Impact of Cancer, Inflammation, and No Standard Risk Factors in Patients With Myocardial Infarction	JACC Asia. 2024 May 28;4(7):507–516. doi: 10.1016/j.jacasi.2024.03.008. eCollection 2024 Jul.	Original Article
20	Kondo Y, Noda T, Takanashi Y, 他	循環器内科	Two-Year Outcomes of Primary Prophylactic Use of Defibrillators for Ischemic and Non-Ischemic Cardiomyopathy – Propensity Score-Matched Analysis From the Nippon Storm Study	Circ J. 2024 Jun 25;88(7):1107–1114. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0613. Epub 2023 Dec 7.	Others
21	Saito M, Abe K, Tsuneda M, Fujita Y, et al.	放射線科	Feasibility of creating a daily adaptive plan using automatic DIR-created target and OARs contours in patients with prostate cancer magnetic-resonance-guided adaptive radiotherapy.	J Radiat Res 2024;65:845–850.	Original Article
22	Wada T, Koizumi J, Takeuchi T, et al.	放射線科	Feasibility and safety of the distal transradial access for noncardiac intervention.	Interv Radiol 2024;9:186–191.	Original Article

23	Higuchi A, Kubota Y, Yokota H, et al.	放射線科	Computed tomography angiography assessment of Adamkiewicz artery with sublingual nitroglycerin administration.	Neuroradiology 2024. doi: 10.1007/s00234-024-03433-9.	Original Article
24	Tsuchiya S, Koizumi J, Takeuchi T, et al.	放射線科	Redistribution and embolization of a uterine fibroid with ovarian arterial supply using temporary bilateral ovarian artery microballoon occlusion.	J Vasc Interv Radiol 2025;36:366-368.	Case report
25	Namba S, Yokota H, Mukai H, et al.	放射線科	Neurosarcoidosis with enlargement of the dorsal root ganglia: A case report.	Radiol Case Rep 2024;19:1718-1721.	Case report
26	Okada H, Koori N, Shimizu H, et al.	放射線部	Development of estimation method for T1 and T2 values using the relaxivity of contrast agent and coagulant for a magnetic resonance imaging phantom	Radiological Physics and Technology. 2025 March 23; 18: 469-479.	Original Article
27	Nitta K, Matsumoto K, Yokota H, et al.	放射線部	Relationship between patient-friendly audiovisual systems and MRI contrast agent to adverse reactions.	Magn Reson Imaging 2024;59:2013-2020.	Original Article
28	Yamazaki T, Matsuura Y, Toguchi Y, et al.	整形外科	Biomechanical characterization of the central fibrous region of the forearm interosseous Membrane: Implications for finite element modeling	J Biomech. 2024 Jul;172:112204	Original Article
29	Matsuura Y, Yamazaki T, Suzuki T, et al.	整形外科	Opposition Transfer Using the Extensor Indicis Muscle and the Extensor Pollicis Brevis Tendon.	Hand Surg Glob Online. 2024 Mar 29;6(3):383-389.	Original Article
30	Watanabe J, Matsuura Y, Yamazaki T, et al.	整形外科	Safety and Efficacy of Low-Dose Triamcinolone Injection without Injection Frequency Limitation for Trigger Finger.	J Hand Surg Glob Online. 2025 Feb 5;7(2):225-231.	Original Article
31	Yamazaki T, Matsuura Y, Takahashi H, et al.	整形外科	A Rare Case of Carpal Tunnel Syndrome with Bifid Median Nerve and Palmaris Profundus Muscle.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2024 Oct 11;12(10):e6228.	Case report
32	Kubota K, Suzuki T, Matsuura Y, et al.	整形外科	A Suture Method for Collateral Ligaments of the Finger Proximal Interphalangeal Joint: A Cadaver Study.	J Hand Surg Am. 2024 Nov 15:S0363-5023(24)00479-9	Original Article
33	Shimada Y, Ochiai N, Hashimoto E, et al	整形外科	Continuous local antibiotic perfusion technique for surgical site infections after shoulder surgery.	JSES Rev Rep Tech. 2024 May 10;4(3):419-423. (オンライン)	Original Article
34	Inagaki K, Ochiai N, Hashimoto E, et al	整形外科	Effect of the suture augmentation on the stability and strength of ulnar collateral ligament reconstruction: The anchor and bone tunnel methods.	J Orthop Sci. 2024 Nov 14:S0949-2658(24)00207-0.	Original Article

35	Inagaki K, Ochiai N, Hashimoto E, et al	整形外科	Magnetic Resonance Imaging Findings of Extensor Carpi Radialis Brevis Origin and Synovial Fold in Lateral Epicondylitis.	J Hand Surg Glob Online. 2024 Jul 8;6(5):654-658. (オンライン)	Original Article
36	Akimoto K, Ochiai N, Hashimoto E, et al	整形外科	Retear Rate Between 1 and 2 Years Postoperatively After Arthroscopic Rotator Cuff Repair Is Over 30% and Associated With Higher Tear Size and Fatty Degeneration.	Arthroscopy. 2024 Dec 26;S0749-8063(24)01093-4.	Original Article
37	Hashimoto E, Ochiai N, et al	整形外科	Automated detection and classification of the rotator cuff tear on plain shoulder radiograph using deep learning.	J Shoulder Elbow Surg. 2024 Aug; 33(8):1733-1739.	Original Article
38	Kamijo H, Ochiai N, Hashimoto E, et al	整形外科	Optimal position of tendon transfer in reverse shoulder arthroplasty with L'Episcopo for better rotation range of motion.	JSES Int. 2025 Feb 6; 9(3):828-829.	Original Article
39	Hiraoka Y, Ochiai N, Hashimoto E, et al	整形外科	Clinical outcomes of combined focused shock wave and ultrasound-guided percutaneous irrigation of rotator cuff calcific tendinopathy therapy.	J Orthop Sci. 2025 Jan 11; s0949-2658(24)00274-4.	Original Article
40	Yamada Y, Ochiai N, Hashimoto E, et al	整形外科	Factors influencing the achievement of early surgery in proximal femoral fractures under a Japanese incentive policy.	J Orthop Sci. 2024 Aug 26; s0949-2658(24)00153-2.	Original Article
41	Ohyama S, Maki S, Kotani T, et al.	整形外科	Machine learning algorithms for predicting Cobb angle beyond 25 degrees in female adolescent idiopathic scoliosis patients.	Spine (Phila Pa 1976). 2024 May 13.	Original Article
42	Ohyama S, Kotani T, Iijima Y, et al.	整形外科	Association of Spinal Corrective Surgery With Abdominal Aorta Length in Patients With Adult Spinal Deformity	Cureus. 2024 May 17;16(3):e56341	Original Article
43	Ohyama S, Aoki Y, Inoue M, et al.	整形外科	Reply to letter to the editor by Li et al	J Orthop Sci. 2024 Sep;29(5):1331-1332.	Letter
44	Ohyama S, Kotani T, Sakuma T, et al.	整形外科	Risk factors for postoperative ileus after corrective spinal surgery: association with reduction in the retrocrural space area.	J Neurosurg Spine. 2024 Nov 1;42(2):169-175.	Original Article
45	Ohyama S, Maki S, Kotani T, et al.	整形外科	Machine learning algorithms for predicting future curve using first and second visit data in female adolescent idiopathic scoliosis patients.	Eur Spine J. 2025 Feb 4.	Original Article
46	Okuyama K, Aoki Y, Matushita Y, et al.	整形外科	Evaluation of fracture lines in adolescent lumbar spondylolysis using MR bone imaging as an alternative to computed tomography	Eur Spine J. 2025 May;34(5):1971-1976.	Original Article

47	Tokeshi S, Eguchi Y, Sakai T, et al.	整形外科	A novel simultaneous three-dimensional volumetric morphological imaging and T2-mapping method, multi-interleaved X-prepared turbo-spin echo with intuitive relaxometry provides more accurate quantification of cervical spinal nerves	Journal of Clinical Neuroscience 2024/5/6	Original Article
48	Suzuki N, Kotani T, Ohyama S, et al.	整形外科	Optimizing S1 nerve root block using three-dimensional computed tomography imaging: Identifying the ideal fluoroscopic angle and predicting S1 neural foramen position	J Orthop Sci. 2025 Mar 25:S0949-2658(25)00074-0. doi: 10.1016/j.jos.2025.02.008	Original Article
49	Nanako Asakura	整形外科	Association between mobility decline and health literacy in older Japanese adults: Onjuku study	Health Promot Int . 2025 Jan 17;40(1)	Original Article
50	Kenta Kono	整形外科	Anterior talofibular ligament footprint dimension measured using three-dimensional magnetic resonance imaging	Skeletal Radiol . 2025 May;54(5):937-945.Epub 2024 Sep 7.	Original Article
51	Yuriko Yoshimoto	整形外科	Intra- and interrater measurement reliability of lateral ankle ligament attachment locations using three-dimensional magnetic resonance imaging	J Orthop Sci . 2025 May;30(3):492-498. Epub 2024 Aug 19.	Original Article
52	Hagiwara S, Kawai Y, Nakamura J, et al	整形外科	Dynamic change of acetabular component position in total hip arthroplasty based on the spinopelvic classification: a prospective radiographic study.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2024 Dec;34(8):3931-3937.	Original Article
53	Nakamura J, Hagiwara S, Kawai Y, et al	整形外科	Is There a Learning Curve for the 5-Year Implant Survival Rate of Total Hip Arthroplasty Using the Direct Anterior Approach With a Traction Table? A Prospective Cohort Study.	J Arthroplasty. 2024 Nov;39(11):2774-2779.	Original Article
54	Kawai Y, Nakamura J, Hagiwara S, et al	整形外科	Alterations in DNA methylation machinery in a rat model of osteoarthritis of the hip.	J Orthop Surg Res. 2024 Jun 16;19(1):357. (オンライン)	Original Article
55	Terakawa H, Kawai Y, Nakamura J, et al	整形外科	Minimum 10-Year Outcomes of Double-Tapered Cemented Stems With Line-To-Line Cementing: A Comparative Study of Collared and Collarless Stems.	J Arthroplasty. 2025 Mar 19:S0883-5403(25)00253-0.	Original Article
56	Hagiwara S, Kawai Y, Nakamura J, et al	整形外科	Dynamic change of acetabular component position in total hip arthroplasty based on the spinopelvic classification: a prospective radiographic study.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2024 Dec;34(8):3931-3937.	Original Article
57	Nakamura J, Hagiwara S, Kawai Y, et al	整形外科	Is There a Learning Curve for the 5-Year Implant Survival Rate of Total Hip Arthroplasty Using the Direct Anterior Approach With a Traction Table? A Prospective Cohort Study.	J Arthroplasty. 2024 Nov;39(11):2774-2779.	Original Article

58	Kawarai Y, Nakamura J, Hagiwara S, et al	整形外科	Alterations in DNA methylation machinery in a rat model of osteoarthritis of the hip.	J Orthop Surg Res. 2024 Jun 16;19(1):357. (オンライン)	Original Article
59	Terakawa H, Kawarai Y, Nakamura J, et al	整形外科	Minimum 10-Year Outcomes of Double-Tapered Cemented Stems With Line-To-Line Cementing: A Comparative Study of Collared and Collarless Stems.	J Arthroplasty. 2025 Mar 19:S0883-5403(25)00253-0.	Original Article
60	Maki S, Furuya T, Katsumi K, et al.	整形外科	Multimodal Deep Learning-based Radiomics Approach for Predicting Surgical Outcomes in Patients with Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament.	Spine (Phila Pa 1976). 2024 Nov 15;49(22):1561-1569.	Original Article
61	Inoue T, Maki S, Yokota H, et al	整形外科	A Novel Evaluation for Vertebral Artery Course Using 3D Magnetic Resonance Imaging with Computed Tomography -like Bone Contrast and Magnetic Resonance Angiography: A Proof of Concept Study.	World Neurosurg. 2024 Jul;187:e166-e173.	Original Article
62	Yunde A, Maki S, Furuya T, et al	整形外科	Conversion of T2-Weighted Magnetic Resonance Images of Cervical Spine Trauma to Short T1 Inversion Recovery (STIR) Images by Generative Adversarial Network.	Cureus. 2024 May 15;16(5):e60381. (オンライン)	Original Article
63	Kitagawa K, Maki S, Furuya T, et al	整形外科	Development of a machine learning model and a web application for predicting neurological outcome at hospital discharge in spinal cord injury patients.	Spine J. 2025 Jan 31:S1529-9430(25)00042-7.	Original Article
64	Sakamoto T, Watanabe S, Horii M et al.	予防医学センター/整形外科	Longitudinal Evaluation Using the Forgotten Joint Score-12 for Double-Bundle Primary Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Retrospective Observational Study	Cureus. 2024 Sep 30;16(9):e70547	Original Article
65	Ito R, Watanabe S, Sakamoto T et al.	予防医学センター/整形外科	Medial meniscal extrusion after anterior cruciate ligament reconstruction (ACLR) associated with meniscal repair and preoperative extrusion	Cureus. 2024 Sep 23;16(9):e69987	Original Article
66	Yamamura A, Watanabe S, Yamaguchi S et al.	整形外科	Readability and quality of online patient resources regarding knee osteoarthritis and lumbar spinal stenosis in Japan	J Orthop Sci. 2024 Sep;29(5):1313-1318	Original Article
67	Yoshimoto Y, Yamaguchi S, Kimura S et al.	整形外科	Intra- and interrater measurement reliability of lateral ankle ligament attachment locations using three-dimensional magnetic resonance imaging	J Orthop Sci. 2024 Aug 19:S0949-2658(24)00154-4	Original Article

68	Mashu T, Yamaguchi S, Kimura S et al.	整形外科	Incisura tangent method to determine the transsyndesmoti axis for syndesmoti fixation	Foot Ankle Surg. 2024 Jul 14;S1268-7731(24)00150-4	Original Article
69	Sakamoto T, Horii M, Watanabe S et al.	予防医学センター/整形外科	Clinical Outcomes of Modified Suture Buttons for Tibial Side Fixation in Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Retrospective Comparative Study	Cureus. 2024 Jul 11;16(7):e64357	Original Article
70	Watanabe S, Hosokawa H, Sakamoto T et al.	予防医学センター/整形外科	Investigating the Potential of Multilineage Differentiating Stress-Enduring Cells for Osteochondral Healing	Cartilage. 2024 Jun 17;19476035241262020	Original Article
71	Horii M, Kimura S, Akagi R et al.	整形外科	Referential Values for Lower Limb Flexibility in Healthy Children and Adolescents in Japan: A Five-Year Cross-Sectional Study	J Orthop Sci. 2024 May;29(3):891-896	Original Article
72	Horii M, Akagi R, Watanabe S et al.	整形外科	Number of intra-operative cyclic knee motion required to achieve stable graft tension in anterior cruciate ligament reconstruction; a prospective clinical study	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Feb 5;25(1):113	Original Article
73	Iwata S, Yamaguchi S, Kimura S et al.	整形外科	Variability in sonographic anterior drawer test measurements of the ankle: Experienced versus beginner examiners	J Orthop Sci. 2024 Jan;29(1):243-248	Original Article
74	Usui H, Katayama E, Nakamura N, et al.	婦人科	Letter to the editor on Donzel M et al. "Androgenetic/biparental mosaicism in a diploid mole-like conceptus: report of a case with triple paternal contribution".	Virchows Arch. 2024 Jul;485(1):161-162	Letter
75	Ishikawa H, Yoshino O, Taniguchi F, et al.	婦人科	Efficacy and safety of a novel pain management device, AT-04, for endometriosis-related pain: study protocol for a phase III randomized controlled trial.	Reprod Health. 2024 Jan 26;21(1):12	Others
76	Usui H, Hoshimoto K, Sato A, et al.	婦人科	Evaluation of Combined p57KIP2 Immunohistochemistry and Fluorescent in situ Hybridization Analysis for Hydatidiform Moles Compared with Genotyping Diagnosis.	Int J Gynecol Pathol. 2024 Sep 1;43(5):474-486	Others
77	Sato A, Usui H, Nakamura N, et al.	婦人科	Removal of an Intrauterine Polypoid Lesion Resolved Chemotherapy-resistant Gestational Trophoblastic Neoplasia: A Case Report.	Cancer Diagn Progn. 2024 Mar 3;4(2):193-197	Others
78	Matsuoka A, Tate S, Nishikimi K, et al.	婦人科	Therapy-related myeloid neoplasms after treatment for ovarian cancer: A retrospective single-center case series.	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Jul;50(7):1148-1154	Original Article

79	Usui H, Sato A, Katayama E,	婦人科	A phantom human chorionic gonadotropin in the case of molar pregnancy.	Oxf Med Case Reports. 2024 May 20;2024(5):omae038	Case report
80	Ishikawa H, Goto Y, Hirooka C, et al.	婦人科	Role of inflammation and immune response in the pathogenesis of uterine fibroids: Including their negative impact on reproductive outcomes.	J Reprod Immunol. 2024 Sep;165:104317	Review
81	Kaneko M, Ishikawa H, Kaneko T, et al.	婦人科	Remnant ureter abscess linked to obstructed hemivagina and ipsilateral renal anomaly syndrome.	J Obstet Gynaecol Res. 2025 Jan;51(1):e16171	Case report
82	Yamagishi A, Kitamura Y, Baba T	眼科	Comparison of One-Year Postoperative Outcomes Between Phacoemulsification With iStent Inject W and Phacoemulsification With Microhook Trabeculotomy: Real-World Data and Propensity Score-Matched Analysis.	Cureus. 2025 Mar 22;17(3):e80979. (オンライン)	Original Article
83	Yamagishi A, Baba T	眼科	PreserFlo MicroShunt Tube Embedded in the Iris: Successful Treatment Using Argon and Neodymium-Doped Yttrium Aluminum Garnet (Nd:YAG) Lasers and Laser Iridotomy for Recurrence Prevention.	Cureus. 2025 Feb 28;17(2):e79850. (オンライン)	Case report
84	Kakisu M, Miura G, Nagai T, et al	眼科	Curvature of Posterior Pole in Eyes with Retinitis Pigmentosa.	J Clin Med. 2024 Nov 12;13(22):6806. (オンライン)	Original Article
85	Oshitari T	眼科	Translational Research and Therapies for Neuroprotection and Regeneration of the Optic Nerve and Retina: A Narrative Review.	Int J Mol Sci. 2024 Sep 29;25(19):10485. (オンライン)	Original Article
86	Akiba R, Tu HY, Hashiguchi T, et al	眼科	Host-Graft Synapses Form Functional Microstructures and Shape the Host Light Responses After Stem Cell-Derived Retinal Sheet Transplantation.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2024 Oct 1;65(12):8.	Original Article
87	Akiba R, Lind Boniec S, Knecht S, et al	眼科	Cellular and circuit remodeling of the primate foveal midget pathway after acute photoreceptor loss.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2024 Sep 10;121(37):e2413104121.	Original Article
88	Shimizu N, Mashimo Y, Yokouchi H, et al	眼科	Novel FBN1 intron variant causes isolated ectopia lentis via in-frame exon skipping.	J Hum Genet. 2025 Apr;70(4):199-205.	Original Article
89	Tatsumi T, Kaiho T, Iwase T, et al	眼科	Treatment Effects of Switching to Faricimab in Eyes with Diabetic Macular Edema Refractory to Aflibercept.	Medicina (Kaunas). 2024 Apr 28;60(5):732. (オンライン)	Original Article
90	Baba T, Nizawa T, Iwase T, et al	眼科	A Novel Surgical Technique for Macular Manipulation in Highly Myopic Eyes With Long Axial Length.	Retina. 2025 Mar 1;45(3):579-582.	Original Article

91	Saito Y, Shimizu N, Mashimo Y, et al	眼科	The Etiology of Intraocular Lens Dislocation and Changes in Intraocular Pressure After Intrasceral Intraocular Lens Fixation Surgery.	Cureus. 2024 Dec 7;16(12):e75295. (オンライン)	Original Article
92	Kitamura Y, Ikema S, Tatsumi T, et al	眼科	Intraluminal Insertion of 9-0 Nylon for Postoperative Choroidal Detachment After Preserflo MicroShunt Implantation: A Case Report.	Cureus. 2024 Nov 27;16(11):e74560. (オンライン)	Case report
93	Koizumi S, Inozume T, Nakamura Y	皮膚科学	Current surgical management for melanoma	J Dermatol. 2024; 51: 312–323	Review
94	Kameda E, Matsuzawa T, Inozume T	皮膚科学	Amelanotic melanoma in oculocutaneous albinism type 4 detected using violet-light dermoscopy	J Dermatol. 2024; 51: e261–e263	Case report
95	Inozume T, Harada K, Fukushima S	皮膚科学	Does dermatophytosis of the feet cause acral melanoma?	J Dermatol. 2024; 51: e455	Letter
96	Kawano A, Miyachi S, Inozume T	皮膚科学	Acquired tufted angioma with perinatal progression and complete spontaneous regression post-delivery: a case report and literature review on the expression of sex hormone receptors	Eur J Dermatol. 2024; 34:322–323	Case report
97	Yoshino K, Matsuzawa T, Inozume T	皮膚科学	A case of basal cell carcinosarcoma with a melanocytic component	Eur J Dermatol. 2024; 34:559–561	Case report
98	Goto Y	泌尿器科	Editorial Comment on Japanese clinical practice guidelines for prostate cancer 2023.	Int J Urol. 2024 Nov;31(11):1222.	Original Article
99	Zhao X	泌尿器科	Significant Effect of Carbon-Ion Radiation Therapy Combined With Androgen Deprivation on Biochemical Recurrence Rates in High-Risk Prostate Cancer Patients: A Two-Center Controlled Trial Compare With X-Ray External Beam Radiation Therapy.	Prostate. 2025 Feb;85(3):232–242.	Original Article
100	Sato K	泌尿器科	Machine learning analysis for detecting late recurrence and loss to follow-up after renal cell carcinoma surgery.	BJUI Compass. 2024 Sep 2;5(10):950–956. (オンライン)	Original Article
101	Goto Y	泌尿器科	Editorial comment on the Role of cytoreductive nephrectomy in the era of immune checkpoint inhibitors: A review of current evidence and ongoing trials.	Int J Urol. 2025 Jan;32(1):14–15.	Original Article
102	Yamada Y	泌尿器科	Characterization of PSA dynamics and oncological outcomes in patients with metastatic hormone-sensitive prostate cancer treated with androgen receptor signaling inhibitors.	Int J Clin Oncol. 2025 Mar;30(3):539–550.	Original Article

103	Sato K	泌尿器科	Objective surgical skill assessment based on automatic recognition of dissection and exposure times in robot-assisted radical prostatectomy.	Langenbecks Arch Surg. 2025 Jan 15;410(1):39. (オンライン)	Original Article
104	Sazuka T	泌尿器科	Editorial Comment to "Differential Risk Factors for Early Intravesical Recurrence After Radical Nephroureterectomy for Upper Urinary Tract Carcinoma According to the History of Nonmuscle Invasive Bladder Cancer".	Int J Urol. 2025 May;32(5):575.	Original Article
105	Kurokawa K	泌尿器科	Implications of unconventional histological subtypes on magnetic resonance imaging and oncological outcomes in patients who have undergone radical prostatectomy.	Sci Rep. 2024 Jun 27;14(1):14868. (オンライン)	Original Article
106	Sakamoto S	泌尿器科	PSA doubling time 4.65 months as an optimal cut-off of Japanese nonmetastatic castration-resistant prostate cancer.	Sci Rep. 2024 Jul 3;14(1):15307. (オンライン)	Original Article
107	Murakami Y	泌尿器科	Association Between Residual Urine Volume and Recurrence Among Patients at High Risk of Non-Muscle-Invasive Bladder Carcinoma With Versus Without Bacillus Calmette-GuAcrin Treatment.	Cureus. 2024 May 30;16(5):e61345. (オンライン)	Original Article
108	Saito S	泌尿器科	The LAT1 inhibitor JPH203 suppresses the growth of castration-resistant prostate cancer through a CD24-mediated mechanism.	Cancer Sci. 2024 Jul;115(7):2461-2472.	Original Article
109	Sato K	泌尿器科	Time-dependent personalized prognostic analysis by machine learning in biochemical recurrence after radical prostatectomy: a retrospective cohort study.	BMC Cancer. 2024 Nov 25;24(1):1446. (オンライン)	Original Article
110	Kato H	泌尿器科	Time to Castration Resistance is Associated With Overall Survival Even After the Achievement of Castration Resistance in Metastatic Prostate Cancer.	Prostate. 2025 Apr;85(5):471-481.	Original Article
111	Yamada Y	泌尿器科	Clinical significance of primary tumor progression in metastatic hormone-sensitive prostate cancer.	Prostate Int. 2025 Mar;13(1):60-66.	Original Article
112	Goto Y*, Koshizuka K*, Ando T et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	A kinome-wide synthetic lethal CRISPR/Cas9 screen reveals that mTOR inhibition prevents adaptive resistance to CDK4/CDK6 blockade in HNSCC.	Cancer Res Commun. 2024 Jul 1;4(7):1850-1862.	Original Article
113	Katsushige Kawase , Ayumi Taguchi Aya Ishizaka, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Allelic loss of HLA class I facilitates evasion from immune surveillance in cervical intraepithelial neoplasia	HLA. 2024 Jun;103(6):e15509.	Original Article

114	Yonekura S, Okamoto Y, Yamaide F, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Factors contributing to the diagnosis and onset prediction of perennial allergic rhinitis in high-risk children: A sub-analysis of the CHIBA study.	Allergol Int. 2024 Jul;73(3):436-444.	Original Article
115	Nakagawa T, Luebeck J, Zhu K, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Inhibition of human-HPV hybrid ecDNA enhancers reduces oncogene expression and tumor growth in oropharyngeal cancer.	Nat Commun. 2025 Mar 26;16(1):2964	Original Article
116	Yamaide F, Oniki N, Fikri B, et.al.	小児科	Cord blood zonulin is associated with high-level sensitization to food allergen and food allergy development	Allergol Int, 2024 Apr; 73: 338-9	Original Article
117	Tanaka S, Takahashi M, Takeshita K, et al.	小児科	The prebiotic effect of 1-kestose in low-birth-weight neonates taking bifidobacteria: a pilot randomized trial in comparison with lactulose	Biosci Microbiota Food Health, 2024 May; 43(4): 329-35	Original Article
118	Takeshita K, Takei H, Tanaka S, et al.	小児科	Effect of multi-strain bifidobacteria supplementation on intestinal microbiota development in low birth weight neonates: a randomized controlled trial	Biosci Microbiota Food Health, 2024 Jun; 43(4): 352-8	Original Article
119	Ishiwada N, Akaishi R, Kobayashi Y, et al.	小児科	Cost-Effectiveness Analysis of Maternal Respiratory Syncytial Virus Vaccine in Protecting Infants from RSV Infection in Japan.	Infect Dis Ther, 2024 July; 13: 1665-82	Original Article
120	Nakano T, Sekino Y, Yamamoto T, et.al.	小児科	Low allergenicity and immunotherapeutic efficacy of peanut-galactomannan conjugate in a mouse model of peanut allergy	Pediatric Allergy and Immunology, 2024 July; 35: e14191	Original Article
121	Uchida T, Matsuzawa D, Shiohama T, et al.	小児科	Positive Effect of Transcranial Direct Current Stimulation on Visual Verbal Working Memory in Patients with Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder	Open Journal of Psychiatry, 2024 July; 14: 334-46	Original Article
122	Inoue Y, Sakai R, Inoue E, Mitsunaga K, et al.	小児科	Nationwide epidemiological survey of juvenile idiopathic arthritis during transition to young adulthood in Japan using the National Database of Designated Incurable Diseases of Japan	Modern Rheumatology, 2024 Aug: roae076	Original Article
123	Takatani T, Shiohama T, Takatani R, et al.	小児科	Brain morphometric changes in children born as small for gestational age without catch up growth	Front Neurosci, 2024 Aug; 18: 1441563	Original Article
124	Hagiwara S, Shiohama T, Takahashi S, et al.	小児科	Comprehensive High-Depth Proteomic Analysis of Plasma Extracellular Vesicles Containing Preparations in Rett Syndrome.	Biomedicines, 2024 Sep; 12: 2172	Original Article
125	Shiohama T, Uchikawa H, Nitta N, et al.	小児科	Brain morphological analysis in mice with hyperactivation of the hedgehog signaling pathway.	Front Neurosci, 2024 Sep; 18: 1449673	Original Article

126	Takeshita K, Hishiki H, Takei H, et al.	小児科	The Effectiveness of Heat-Killed <i>Pediococcus acidilactici</i> K15 in Preventing Respiratory Tract Infections in Preterm Infants: A Pilot Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Study	Nutrients, 2024 Oct; 16(21): 3635	Original Article
127	Yoshikawa S, Takatani T, Takatani R, et al.	小児科	Case report: Pediatric hepatopulmonary syndrome despite strict weight control after craniopharyngioma surgery	Front Endocrinol (Lausanne), 2024 Oct; 15: 1459451	Original Article
128	Tominaga T, Seki Y, Omori-Shimano S, et al.	小児科	Chorioamnionitis and earlier gestational age are associated with neonatal hypercalcemia after maternal magnesium sulfate therapy: A case-control study	Pediatr Neonatol, 2024 Nov ; S1875-9572(24): 00202-X	Original Article
129	Nagasawa K, Ohata M, Igarashi A, et al.	小児科	Prospective hospital-based cohort studies of Respiratory Syncytial Virus (RSV) infections in infants under one year during and after the SARS-CoV-2 pandemic in Japan.	International Journal of Infectious Diseases, 2024 Dec; 149: 107252	Original Article
130	Sawada D, Fujii K, Shiohama T, et al.	小児科	Drastic fall of growth differentiation factor 15 in influenza encephalopathy	Pediatr Int, 2024 Jan-Dec; 66(1): e15768	Original Article
131	Yamaide F, Tomura M, Satoh M, et.al.	小児科	Low serum vitamin D is associated with egg white sensitization at age 1 year	Pediatr Allergy Immunol, 2024 12; 35: e70021	Original Article
132	Takeuchi N, Ohkusu M, Kusuya Y, et al.	小児科	Comparative genomic and morphological analyses of capsular and capsular-deficient pneumococcal strains simultaneously isolated from a patient with invasive pneumococcal disease.	J Infect Chemother, 2025 Jan; 31: 102486	Original Article
133	Yuzaburo Inoue, Hironori Sato, Masaaki Ishikawa, et al.	小児科/総合医科学	In-Depth Proteomic Profiles Prior to Symptom Development in Food Protein-Induced Enterocolitis	Clinical and Experimental Allergy, 2025 Mar; 55(3): 270-2	Original Article
134	Sawada D, Fujii K, Shiohama T, et al.	小児科	Drastic fall of growth differentiation factor 15 in influenza encephalopathy	Pediatr Int, 2024 Jan-Dec; 66: e15768	Case report
135	Yoshikawa S, Takatani T, Takatani R, et al.	小児科	Case report: Pediatric hepatopulmonary syndrome despite strict weight control after craniopharyngioma surgery	Front Endocrinol (Lausanne), 2024 Oct; 15: 1459451	Case report
136	Inoue Y, Ogata H, Sato Y, et al.	小児科	Eosinophil ETosis and Charcot-Leyden crystals in Kimura's disease	J Allergy Clin Immunol Global, 2024 Dec; 4: 100397	Case report
137	Ota H, Nagasawa K, Ishiwada N, et al.	小児科	A 13-year-old boy with a subdural abscess with the causative bacteria identified via polymerase chain reaction despite discrepant blood and pus culture results: A case report	The Japanese Journal of Antibiotics, 2024 Dec; 77: 163-71	Case report

138	Nemoto H, Hino M, Aoki T, et al.	小児科	Effectiveness of isavuconazole in invasive cerebral aspergillosis during hematopoietic stem cell transplantation in a pediatric patient with myelodysplastic syndrome: A case report	Journal of Infection and Chemotherapy, 2025 Jan; 31: 102478	Case report
139	Yoshii S, Shiohama T, Ikehara H, et al.	小児科	Oval pupils in a child with acute autonomic and sensory neuropathy	Ind J Ped, 2025 Jan; 92: 76	Case report
140	Suzuki K, Niitsu T, Kimura H, et al.	精神神経科	Association between mental health social worker staffing in psychiatric emergency wards and readmission outcomes: A nationwide survey in Japan	Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports, 2024 Apr 1; 3(2):e189.	Original Article
141	Yano F, Nakata Y, Niitsu T, et al.	精神神経科	Japanese youth athletes' mental health and psychological resilience during the COVID-19 pandemic	Sports Psychiatry, 2024 May; 3(2) 71-79	Original Article
142	Tsuneizumi K, Kasamatsu A, Saito T, et al.	歯科・顎・口腔外科	Generation of bone-specific lysyl hydroxylase 2 knockout mice and their phenotypes	Biochem Biophys Rep. 2024;19:39:101790.	Original Article
143	Fukushima R, Nakashima D, Yoshimura S, et al.	歯科・顎・口腔外科	Non-calcifying/Langerhans cell-rich variant of calcifying epithelial odontogenic tumor: A case report and review	Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2025;37:234-238.	Case report
144	Taiji S, Nishino T, Jin H, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	The activity of suprahyoid muscles during sevoflurane-induced gasping in mice.	Respir Physiol Neurobiol. 2025 Jan; 331:104355.	Original Article
145	Son K, Tarao K, Daimon M, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Preoperative echocardiography and anesthetic drugs as predictors of post-induction hypotension during general anesthesia: a prospective observational study.	Sci Rep. 2024 Oct 28;14(1):25717. (オンライン)	Original Article
146	Takai H, Nozaki-Taguchi N, Shono K, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Relationship Between Patient-reported Outcome Measures and Accelerometer-measured Physical Activity and Sleep in Patients With Postherpetic Neuralgia.	Clin J Pain. 2024 Sep 1;40(9):520-525. (オンライン)	Original Article
147	Yamada T, Ishibashi K, Sakaguchi Y, et al.	麻酔・疼痛・緩和医療科	Increased cuff-leak pressure after abdominal and spine surgeries: a simple and novel cuff-leak test for tracheal extubation.	J Anesth. 2025 Jun; 39(3):445-455.	Original Article
148	Hiwasa T, Yoshida Y, Kubota M, et al.	脳神経外科	Serum anti KIAA0513 antibody as a common biomarker for mortal atherosclerotic and cancerous diseases.	Med Int (Lond). 2024 Jun 19;4(5):45. doi: 10.3892/mi.2024.169.	Original Article
149	Matsuda T, Kono T, Taki Y, et al.	脳神経外科	Deciphering craniopharyngioma subtypes: Single-cell analysis of tumor microenvironment and immune networks.	iScience. 2024 Oct 1;27(11):111068. doi: 10.1016/j.isci.2024.111068.	Original Article
150	Tajima Y, Yoshida Y, Kubota M, et al.	脳神経外科	Transverse diameter of brainstem infarction is a strong predictor of miserable outcome after mechanical thrombectomy for acute basilar artery occlusion.	Sci Rep. 2024 Aug 6;14(1):18201. doi: 10.1038/s41598-024-68865-y.	Original Article
151	Zhang BS, Zhang XM, Ito M, et al.	脳神経外科	JMJD6 autoantibodies as a potential biomarker for inflammation related diseases.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 30;25(9):4935. doi: 10.3390/ijms25094935.	Original Article

152	Hirono S, Kawano K, Ito M, et al.	脳神経外科	Successful resection of bilateral parafalcine meningioma with unilateral interhemispheric and contralateral transfalcal approach under nonintubated spontaneous breathing conditions: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Apr 8;7(15):CASE2424. doi: 10.3171/CASE2424.	Case report
153	Ishikura T, Hirono S, Ota M, et al.	脳神経外科	Three years of progression-free after biopsy of BRAF V600E-negative ganglioglioma in the adult brainstem: A Case Report and the Literature Review.	NMC Case Rep J. 2024 Dec 25;11:427-433.	Case report
154	Lee S, Kubota M, Tajima Y, et al.	脳神経外科	Transarterial embolization of radicular arteriovenous fistula at the craniocervical junction.	Radiol Case Rep. 2024 Feb 13;19(5):1712-1717.	Case report
155	Yoshioka M, Takahashi M, Kershaw J, et al.	脳神経外科	Two-photon optogenetics-based assessment of neuronal connectivity in healthy and chronic hypoperfusion mice.	Neurophotonics, 11(3), 035009, 2024	Original Article
156	Yamamoto M, Serizawa T, Sato Y, et al.	脳神経外科	Validity test of small cell lung cancer (SCLC) graded prognostic assessment and proposal of a new index for patients with brain metastases from SCLC.	Clin Transl Radiat Oncol. 2024 Jul 24;48:100820. doi: 10.1016/j.ctro.2024.100820.	Original Article
157	Sasajima N, Sumazaki M, Ohshima Y, et al.	脳神経外科	Stage-specific alteration and prognostic relationship of serum FH autoantibodies in gastric cancer.	Int J Mol Sci 25: 5470, 2024.	Original Article
158	Okahara Y, Aoyagi K, Iwasa H, Higuchi Y:	脳神経外科	Language lateralization by passive auditory fMRI in presurgical assessment for temporal lobe epilepsy: A single-center retrospective study.	J Clin Med. 2024 Mar 15;13(6):1706. doi: 10.3390/jcm13061706.	Original Article
159	Motomura K, Sasaki K, Sugii N, et al.	脳神経外科	Cost of medical care for malignant brain tumors at hospitals in the Japan Clinical Oncology Group brain-tumor study group.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Oct 3;54(10):1123-1131. doi: 10.1093/jjco/hyae116.	Original Article
160	Kinoshita M, Fushimi Y, Masumoto T, et al.	脳神経外科	Image-based re-evaluation of the JCOG0911 study focusing on tumor volume and survival, disease progression diagnosis, and radiomic prognostication for newly diagnosed glioblastoma.	Magn Reson Med Sci. 2024 Nov 19. doi: 10.2463/mrms.mp.2024-0103.	Original Article
161	Kanamori M, Tsuzuki S, Shibahara I, et al.	脳神経外科	Impact of tumor-treating fields on the survival of Japanese patients with newly diagnosed glioblastoma: A multicenter, retrospective cohort study.	Neurooncol Adv. 2024 Nov 28;6(1):vdae176. doi: 10.1093/noonl/vdae176.	Original Article
162	Ito M, Yajima S, Suzuki T, et al.	脳神経外科	Combination of high anti-SKI and low anti-TMED5 antibody levels is preferable prognostic factor in esophageal carcinoma.	Cancer Sci. 2024 Jul;115(7):2209-2219. doi: 10.1111/cas.16185.	Original Article
163	Ikezawa N, Okamoto T, Yoshida Y, et al.	脳神経外科	Toward an application of automatic evaluation system for central facial palsy using two simple evaluation indices in emergency medicine.	Sci Rep. 2024 Feb 10;14(1):3429. doi: 10.1038/s41598-024-53815-5.	Original Article

164	Fasano A, Mure H, Oyama G, et al.	脳神経外科	DBS PSR Study Group: Subthalamic nucleus local field potential stability in patients with Parkinson's disease.	Neurobiol Dis. 2024 Sep;199:106589. doi: 10.1016/j.nbd.2024.106589.	Original Article
165	Yamaki T, Yakufujiang M, Oka N, et al.	脳神経外科	The safety and feasibility of transcranial direct current stimulation for patients with chronic severe traumatic brain injury in Japan, a phase I study.	Brain Disord 2024; 13: 100123 doi: 10.1016/j.dsrb.2024.100123	Original Article
166	Onozato Y, Suzuki H, Matsumoto H, et al	呼吸器外科	Machine learning models from computed tomography to diagnose thymic epithelial tumors requiring combined resection.	J Thorac Dis. 2024 Aug 31;16(8):4935-4946.	Original Article
167	Matsumoto H, Sakairi Y, Kaiho T, et al	呼吸器外科	Self-expanding metallic stent placement for the palliation of malignant airway complications.	Ann Palliat Med. 2025 Mar;14(2):146-154.	Original Article
168	Yusa J, Tanaka K, Sata Y, et al	呼吸器外科	Predictors of intraoperative and postoperative air leakage in anatomical pulmonary resection.	Surg Today. 2025 Mar 3	Original Article
169	Wada H, Suzuki H, Toyoda T, et al	呼吸器外科	Loco-regional relapse pattern and timing after segmentectomy in patients with c-IA non-small cell lung cancer	J Thorac Dis. 2024 Nov 30;16(11):7511-7525.	Original Article
170	Yusa J, Tanaka K, Takahashi K, et al	呼吸器外科	Evaluating air leakage from staple line reinforcements in anatomical pulmonary resection (AIRSTOP): a prospective randomized controlled trial protocol.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Dec 26.	Original Article
171	Ochi T, Suzuki H, Sata Y, et al	呼吸器外科	Efficacy and safety of applying oxidized regenerated cellulose sheets to the parietal pleura of open chest wounds in thoracic surgery: a prospective randomized controlled trial protocol.	J Thorac Dis. 2024 Nov 30;16(11):8149-8155.	Original Article
172	Takeda K, Kasai H, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Complications rate and a multidimensional analysis of their causes of tube thoracostomy: a mixed-methods study.	Cureus. 2024 Apr 18;16(4):e58563.	Original Article
173	Sato S, Kawasaki T, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Functional roles of CD26/DPP4 in lipopolysaccharide-induced lung injury.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2024 May 1;326(5):L562-L573.	Original Article
174	Miyakoshi J, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Clinical significance of inter-assay discrepancy in PD-L1 evaluation for the efficacy of pembrolizumab in advanced NSCLC with high PD-L1 expression.	Lung Cancer. 2024 May;191:107788.	Original Article
175	Sakuma N, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Serum stratifin measurement is useful for evaluating disease severity and outcomes in patients with acute exacerbation of interstitial lung disease: a retrospective study.	BMC Pulm Med. 2024 Jul 29;24(1):364.	Original Article

176	Ikari J, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Dynamic chest radiographic evaluation of the effects of tiotropium/olodaterol combination therapy in chronic obstructive pulmonary disease: the EMBODY study protocol for an open-label, prospective, single-centre, non-controlled, comparative study.	BMJ Open Respir Res. 2024 Aug 5;11(1):e002374.	Original Article
177	Shikano K, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Franseen needle in endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration: a phase II prospective study.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Sep 4;54(9):1037-1044	Original Article
178	Saito G, et al.	呼吸器内科	Durvalumab after chemoradiotherapy for locoregional recurrence of completely resected non-small-cell lung cancer (NEJ056).	Cancer Sci. 2024 Nov;115(11):3705-3717.	Original Article
179	Yanagisawa A, Naito A, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Deciphering the inhibitory effects of trimetazidine on pulmonary hypertension development via decreasing fatty acid oxidation and promoting glucose oxidation.	Sci Rep. 2024 Nov 7;14(1):27069.	Original Article
180	Suzuki Y, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Transcriptome analysis of fibroblasts in hypoxia-induced vascular remodeling: functional roles of CD26/DPP4.	Int J Mol Sci. 2024 Nov 23;25(23):12599.	Original Article
181	Okaya T, Shigeta A, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Significance of normal lung volume on quantitative CT imaging analysis in Group1 and Group3 pulmonary hypertension.	CHEST pulmonary. 2024 Dec;4:100062	Original Article
182	Takeda K, Shigeta A, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	The utility and safety of one-minute sit-to-stand test in pulmonary hypertension: a prospective study.	Respir Investig. 2025;63(1):61-66	Original Article
183	Ikeda H, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Immune evasion through mitochondrial transfer in the tumour microenvironment	Nature. 2025 Feb;638(8049):225-236.	Original Article
184	Takagi K, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Macitentan administration for pulmonary hypertension due to β -thalassemia with multiple organ failure: A case report.	Intern Med. 2024 Jun 1;63(11):1585-1590.	Case report
185	Ogawa H, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Severe bacterial pneumonia due to Legionella longbeachae transmitted from potting soil in Japan.	Intern Med. 2024 Jul 1;63(13):1951-1957	Case report
186	Kitamura M, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Management of Acute and Chronic Hypercapnic Respiratory Failure in Severe Obesity-Hypoventilation Syndrome: A Case Study of Multi-Modal Therapy and Long-Term Weight Loss. Management of acute and chronic hypercapnic respiratory failure in severe obesity-hypoventilation syndrome: a case study of multi-modal therapy and long-term weight loss.	Am J Case Rep. 2024 Nov 14;25:e945448.	Case report

187	Shionoya Y, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Mycobacterium goodii pulmonary disease with organizing pneumonia: A case report and review of literature.	Respirol Case Rep. 2025 Jan 4;13(1):e70095.	Case report
188	Inazaki T, Kasai H, et al.	呼吸器内科	Tumor Rupture-induced Pleural Empyema with a Bronchopleural Fistula Treated with Bronchial Occlusion Using an Endobronchial Watanabe Spigot: A Case Report.	Respir Endosc. 2025;3(1):31-36.	Case report
189	Kawasaki T,et al; Japanese TB Clinical Practice Guideline Systematic Review Task Force.	呼吸器内科	Utility of interferon-gamma releasing assay for the diagnosis of active tuberculosis in children: A systematic review and meta-analysis.	J Infect Chemother. 2024 Jun;30(6):516-525.	Review
190	Takeda K, Suzuki T, et al.	呼吸器内科	Hemoglobinopathy as a rare differential disease for low oxygen saturation by pulse oximetry: A case report and literature review.	Intern Med. 2024 Aug 28. Online ahead of print.	Review
191	Wataru Kudo, Keita Terui, Ryoya Furugane,et al.	小児外科	Clinical significance of sarcopenia in children with neuroblastic tumors.	Pediatr Surg Int. 2024;40:237	Original Article
192	Takenouchi A, Kudo W, Terui K,et al.	小児外科	Impaired Aortic Growth in Neuroblastoma Patients after Intensive Treatment.	J Pediatr Surg. 2024;59:593-598.	Original Article
193	Komatsu S, Terui K, Takenouchi A, et al.	小児外科	Indocyanine green fluorescence imaging as a predictor of long-term testicular atrophy in testicular torsion: a pilot study.	Surg Today. 2025;55:386-392.	Original Article
194	Katsumata Y, Terui K, Takenouchi A, et al.	小児外科	Prediction of Intestinal Perforation by Daily Radiographic Findings in Very Low Birth Weight Infants With Meconium Ileus.	J Pediatr Surg. 2025;60:162076.	Original Article
195	Nishimura K, Takenouchi A, Komatsu S, et al.	小児外科	Effect of emergent nephrostomy on long-term total and split renal function in patients with upper urinary tract obstruction due to pelvic malignant tumors.	Pediatr Surg Int.2024;40:234	Original Article
196	Nishimura K, Aoki T, Kobayashi M, et al.	小児外科	Motohashi S. Antibody-Dependent Cellular Cytotoxicity of iPS Cell-Derived Natural Killer T Cells by Anti-GD2 mAb for Neuroblastoma.	Cancer Sci. 2025;116:884-896	Original Article
197	Yoneda A, Shichino H, Hishiki T,et al.	小児外科	A nationwide phase II study of delayed local treatment for children with high-risk neuroblastoma: The Japan Children's Cancer Group Neuroblastoma Committee Trial JN-H-11.	Pediatr Blood Cancer. 2024;71:e30976.	Original Article
198	Kawaguchi Y, Saito T, Mitsunaga T, et al.	小児外科	Prediction of respiratory collapse among pediatric patients with mediastinal tumors during induction of general anesthesia.	J Pediatr Surg.2018;53:1365-8.	Case report

199	Takenouchi A, Terui K, Komatsu S, et al.	小児外科	Sublobar resection for pediatric intralobar pulmonary sequestration using indocyanine green fluorescence.	Pediatr Int.2025;67:e15874.	Case report
200	Demir S, Hotes A, Schmid T,et al.	小児外科	Drug prioritization identifies panobinostat as a tailored treatment element for patients with metastatic hepatoblastoma.	J Exp Clin Cancer Res. 2024;43:299.	Original Article
201	Hiyama E, Hishiki T, Yoshimura K, Krailo M,et al.	小児外科	Upfront or delayed surgery in resectable hepatoblastoma: analysis from the children's hepatic tumors international collaboration databa.	EClinicalMedicine. 2024;76:102811.	Original Article
202	Saeki I, Ida K, Kurihara S, et al.	小児外科	Successful treatment of young childhood standard-risk hepatoblastoma with cisplatin monotherapy using a central review system.	Pediatr Blood Cancer. 2024;71:e31255.	Original Article
203	Uzawa A, Oertel FC, Mori M et al.	脳神経内科	NMOSD and MOGAD: an evolving disease spectrum	Nat Rev Neurol. 2024 Oct;20(10):602–619	Review
204	Aotsuka Y, Misawa S, Suichi T et al.	脳神経内科	Prevalence and clinical profiles of anti-myelin-associated glycoprotein neuropathy in Japan: A nationwide survey study of 133 patients.	Eur J Neurol. 2024 May;31(5):e16249.	Original Article
205	Handa H, Uzawa A, Mori M et al.	脳神経内科	Effects of Denosumab and Bisphosphonates on Glucocorticoid-induced Osteoporosis in Patients with Neuroimmunological Disorders	Internal medicine 2025 Feb 15;64(4):543–549.	Original Article
206	Handa H, Sugiyama A, Kubosawa H et al.	脳神経内科	A patient with P369S/R408Q variants in the MEFV gene presented with clinical features of Kikuchi disease and Mollaret meningitis, successfully treated with colchicine	BMC Neurol. 2024 Nov 14;24(1):446.	Original Article
207	Kuroiwa R, Shibuya K, Inagaki T et al.	脳神経内科	Reliability and validity of cough peak flow measurements in myasthenia gravis.	Neuromuscul Disord. 2024 Aug;41:29–34.	Original Article
208	Kuwabara S, Kusunoki S, Kuwahara M et al.	脳神経内科	Efficacy and safety of eculizumab in Guillain-Barré syndrome: A phase 3, multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled clinical trial	Journal of the peripheral nervous system : JPNS 2024 Sep;29(3):339–349	Others
209	Otani R, Shibuya K, Shimizu T et al.	脳神経内科	Diagnostic utility of Gold Coast criteria for amyotrophic lateral sclerosis in Asia.	Amyotroph Lateral Scler Frontotemporal Degener. 2024 May;25(3–4):264–270.	Original Article
210	Otani R, Shibuya K, Suzuki YI et al.	脳神経内科	Effects of motor cortical and peripheral axonal hyperexcitability on survival in amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2024 Jul 15;95(8):730–736.	Original Article
211	Tang Z, Hirano S, Koizumi Y et al.	脳神経内科	Diagnostic Sensitivity and Symptomatic Relevance of Dopamine Transporter Imaging and Myocardial Sympathetic Scintigraphy in Patients with Dementia with Lewy Bodies.	J Alzheimers Dis. 2024;100(1):127–137.	Original Article

212	Uzawa A, Mori M, Masuda H et al.	脳神経内科	Contributions of CSF interleukin-6 elevation to the pathogenesis of myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease.	Mult Scler. 2024 Jul;30(8):977-982.	Original Article
213	Uzawa A, Mori M, Masuda H et al.	脳神経内科	Long-term disability progression in aquaporin-4 antibody-positive neuromyelitis optica spectrum disorder: a retrospective analysis of 101 patients.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2024 Jun 17;95(7):626-629.	Original Article
214	Uzawa A, Suzuki S, Kuwabara S et al.	脳神経内科	Taste disorders and alopecia in myasthenia gravis.	BMC Neurol. 2024 Apr 25;24(1):139.	Original Article
215	Uzawa A, Yasuda M, Akamine H et al.	脳神経内科	Markedly upregulated serum semaphorin 4A as a novel activity marker of myasthenia gravis.	Scand J Immunol. 2024 May;99(5):e13360.	Original Article
216	Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T et al.	脳神経内科	The examination of detrusor underactivity in multiple system atrophy	Frontiers in neurology 2024 Sep 17:15:1460379	Original Article
217	Yasuda M, Uzawa A, Kuwabara S et al.	脳神経内科	Corrigendum to "Clinical features and outcomes of patients with muscle-specific kinase antibody-positive myasthenia gravis in Japan" [Journal of Neuroimmunology 385 (2023) 578241]	Journal of neuroimmunology 2024 Oct 24:397:578465.	Others
218	Yasuda M, Uzawa A, Onishi Y et al.	脳神経内科	Elevated serum levels of C-terminal agrin fragment in acetylcholine receptor antibody-positive myasthenia gravis	Journal of neuroimmunology 2024 Nov 15;396:578455	Original Article
219	Yoshitake M, Sugiyama A, Shimohata T et al.	脳神経内科	Delivering the diagnosis of multiple system atrophy: a multicenter survey on Japanese neurologists' perspectives.	BMC Neurol. 2024 May 13;24(1):160.	Original Article
220	Handa H, Uzawa A, Mori M et al.	脳神経内科	Effects of Denosumab and Bisphosphonates on Glucocorticoid-induced Osteoporosis in Patients with Neuroimmunological Disorders	Internal medicine	Original Article
221	Handa H, Uzawa A, Sugiyama A et al.	脳神経内科	A spectrum of neurological diseases with elevated cerebrospinal fluid adenosine deaminase levels.	J Neurol Sci.	Original Article
222	Kuroiwa R, Shibuya K, Nara T et al.	脳神経内科	Optimizing Physical Assessment in Intrathecal Baclofen Screening Trials for High-Performing Patients With Spastic Paraparesis	Technology at the Neural Interface	Original Article
223	Kuwabara S, Oh A, Arakawa M et al.	脳神経内科	Maintenance Intravenous Immunoglobulin Therapy for Chronic Inflammatory Demyelinating Polyneuropathy: 18-Month Post-marketing Surveillance in 103 Patients	Internal medicine	Original Article
224	Misawa S, Denda T, Kodama S et al.	脳神経内科	One-year incidence of chemotherapy-induced peripheral neuropathy in oxaliplatin- or taxane-based chemotherapy: a multicenter, prospective registry study (MiroCIP study).	Expert Opin Pharmacother.	Others

225	Nakano Y, Hirano S, Tamura M et al.	脳神経内科	Clinical and brain functional correlates of instrumental rigidity measurement in Parkinson's disease	Scientific Reports	Original Article
226	Nakano Y, Niethammer M, Eidelberg D.	脳神経内科	Imaging of Disease-Related Networks in Parkinson's Disease	Cold Spring Harb Perspect Med	Others
227	Oami T, Okada Y, Sakuraya M, et al.	救急科・集中治療部	Efficiency and Workload Reduction of Semi-automated Citation Screening Software for Creating Clinical Practice Guidelines: A Prospective Observational Study	J Epidemiol. 2024 Aug 5;34(8):380-386	Original Article
228	Oami T, Okada Y, Nakada TA.	救急科・集中治療部	Performance of a Large Language Model in Screening Citations.	JAMA Netw Open. 2024 Jul 1;7(7):e2420496	Original Article
229	Oami T, Imaeda T, Nakada TA, et al.	救急科・集中治療部	Association of Intensive Care Unit Case Volume With Mortality and Cost in Sepsis Based on a Japanese Nationwide Medical Claims Database Study.	Cureus. 2024 Jul 29;16(7):e65697	Original Article
230	Imaeda T, Oami T, Yokoyama T, et al.	救急科・集中治療部	Epidemiology and outcomes of septic shock in Japan: a nationwide retrospective cohort study from a medical claims database by the Japan Sepsis Alliance (JaSA) study group.	Crit Care. 2025 Jul 16;29(1):309.	Original Article
231	Oami T, Okada Y, Nakada TA.	救急科・集中治療部	GPT-3.5 Turbo and GPT-4 Turbo in Title and Abstract Screening for Systematic Reviews	JMIR Med Inform. 2025 Mar 12;13:e64682.	Review
232	Shimazui T, Oami T, Shimada T, et al.	救急科・集中治療部	Age-dependent differences in the association between blood interleukin-6 levels and mortality in patients with sepsis: a retrospective observational study.	J Intensive Care. 2025 Jan 13;13(1):3.	Original Article
233	Kosaka K, Takayama N, Paul SK, et al	形成・美容外科	iPSC-derived megakaryocytes and platelets accelerate wound healing and angiogenesis.	Stem Cell Res Ther. 2024 Oct 14;15(1):364. (オンライン)	Original Article
234	Aisawa M, Kubota Y, Azuma K, et al	形成・美容外科	Ultrastructural Analysis of Infected Absorbable Bone Fixation Material Using Scanning Electron Microscopy After Zygomatic Bone Fracture Surgery.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2025 Mar 10;13(3):e6611. (オンライン)	Case report
235	Yamada K, Mitsukawa N	形成・美容外科	A Case of Glomus Tumor of the Anterior Neck.	J Plast Reconstr Surg. 2024 Jun 7;3(4):175-178. (オンライン)	Case report
236	Kase L, Akita S, Onouchi Y, et al	形成・美容外科	Rhinoplasty Using Autologous Costal Cartilage in a Patient with Acrodysostosis	PRS-GLOB OPEN.2024 SEP;12(9):4	Original Article
237	Hidetoshi Igari	感染制御部	Dynamic diversity of SARS-CoV-2 genetic mutations in a lung transplantation patient with persistent COVID-19	Nat Commun. 2024 Apr 29;15:3604. doi: 10.1038/s41467-024-47941-x	Original Article
238	Yokokawa D, Shikino K, Nishizaki Y, et al	総合診療科	Evaluation of a Computer-Based Morphological Analysis Method for Free-Text Responses in the General Medicine In-Training Examination: Algorithm Validation Study	JMIR Med Educ. 2024 Dec	Original Article

239	Kojima J, Uehara T, Ohira Y, et al	総合診療科	Potential for reducing confirmation bias using the OMP model "6-microskills" with verbalizing discordance: a cross-sectional study	BMC Med Educ. 2025 Feb	Original Article
240	Yanagita Y, Yokokawa D, Uchida S, et al	総合診療科	Can AI-Generated Clinical Vignettes in Japanese Be Used Medically and Linguistically?	J Gen Intern Med. 2024 Dec	Original Article
241	Fukuzawa F, Yanagita Y, Yokokawa D, et al	総合診療科	Importance of Patient History in Artificial Intelligence-Assisted Medical Diagnosis: Comparison Study	JMIR Med Educ. 2024 Apr	Original Article
242	Yanagita Y, Yokokawa D, Fukuzawa F, et al	総合診療科	Expert assessment of ChatGPT's ability to generate illness scripts: an evaluative study	BMC Med Educ. 2024 May	Original Article
243	Yokokawa D, Uehara T, Ohira Y, et al	総合診療科	A Cross-Sectional Study on Whether Comprehensively Gathering Information From Medical Records Is Useful for the Collection of Operational Characteristics	Cureus. 2024 Jun	Original Article
244	Yokokawa D, Uehara T, Sato R, et al	総合診療科	Survey of Physicians on the Need for Female Chaperones Based on the Body Areas Examined in Female Patients by Male Physicians: A Cross-Sectional Pilot Study	Cureus. 2025 Jan	Original Article
245	Shikino K, Shimizu T, Otsuka Y, et al	総合診療科	Evaluation of ChatGPT-Generated Differential Diagnosis for Common Diseases With Atypical Presentation: Descriptive Research	JMIR Med Educ. 2024 Jun	Original Article
246	Shikino K, Yamauchi K, Araki N, et al	総合医療教育研修センター	Evaluation of ChatGPT-Generated Differential Diagnosis for Common Diseases With Atypical Presentation: Descriptive Research	JMIR Med Educ. 2025 Jan	Original Article
247	Shikino K, Shimizu T, Otsuka Y, et al	総合診療科	Evaluation of ChatGPT-Generated Differential Diagnosis for Common Diseases With Atypical Presentation: Descriptive Research.	JMIR Med Educ. 2024 Jun	Original Article
248	Shikino K, Yamauchi K, Araki N, et al	総合医療教育研修センター	Understanding Community Health Care Through Problem-Based Learning With Real-Patient Videos: Single-Arm Pre-Post Mixed Methods Study	JMIR Med Educ. 2025 Jan	Original Article
249	Shikino K	総合診療科	Residency Program Directors' Perspectives on Overtime Duty Hours and Professional Development Time in Japan	Adv Med Educ Pract. 2024 Dec	Original Article
250	Shikino K	総合診療科	Association between physicians' maldistribution and core clinical competency of resident physicians: a nationwide cross-sectional study	BMJ Open. 2024 Oct	Original Article
251	Shikino K	総合診療科	A novel resident physician examination using clinical simulation video to assess clinical competence in Japan: a cross-sectional study	BMC Med Educ. 2024 Nov	Original Article

252	Inoue M, Ogasawara S, Kobayashi K, et al.	消化器内科	Assessment of Macrovascular Invasion in Advanced Hepatocellular Carcinoma: Clinical Implications and Treatment Outcomes with Systemic Therapy.	Liver Cancer. 2024 May 21;14(1):8–18.	Original article
253	Sonoda M, Matsumura T, Dao HV, et al.	消化器内科	A prediction model of abnormal acid reflux in gastroesophageal reflux disease.	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Sep;39(9):1847–1855.	Original article
254	Kobayashi K, Ogasawara S, Itobayashi E, et al.	消化器内科	Ramucirumab for advanced hepatocellular carcinoma in the current real world: A Japanese single-arm study post-REACH-2 (The R-evolution Study).	Invest New Drugs. 2024 Aug;42(4):394–404.	Original article
255	Okimoto K, Matsumura T, Akizue N, et al.	消化器内科	Intensive triamcinolone acetonide injection regimen can highly prevent stricture after extensive esophageal endoscopic submucosal dissection.	Scand J Gastroenterol. 2024 Aug;59(8):996–1001.	Original article
256	Kurosugi A, Matsumura T, Sonoda M, et al.	消化器内科	Two Onset Types of Achalasia and the Long-Term Course to Diagnosis.	Esophagus. 2024 Oct;21(4):546–551.	Original article
257	Horio R, Kato J, Taida T, et al.	消化器内科	Clinical outcomes and reintervention after endoscopic retrograde cholangiopancreatography in primary sclerosing cholangitis in absence of cholangitis.	Indian J Gastroenterol. 2024 Oct;43(5):1021–1029.	Original article
258	Horio R, Kato J, Ohta Y, et al.	消化器内科	Risk factors for clinical relapse in patients with ulcerative colitis who are in clinical remission but with endoscopic activity.	JGH Open. 2024 Jul 24;8(7):e70011.	Original article
259	Kanzaki H, Hoshida Y.	消化器内科	Reply to correspondence on “Genomic biomarkers to predict response to atezolizumab plus bevacizumab immunotherapy in hepatocellular carcinoma: Insights from the IMbrave150 trial”	Clin Mol Hepatol. 2025 Jan;31(1):e121–e122.	Original article
260	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, et al.	消化器内科	Outcomes and Post-removal Course of Lumen-Apposing Metal Stent Placement for Peripancreatic Fluid Collections: A Comparative Study of Pancreatic Pseudocysts and Walled-Off Necrosis.	Cureus. 2024 Oct 15;16(10):e71561.	Original article
261	Koroki K, Ogasawara S, Izai R, et al.	消化器内科	Comprehensive Analysis of Radiologic Cancer-Free Status through Various Treatment Approaches in Advanced-Stage Hepatocellular Carcinoma.	Liver Cancer. 2024 Nov 13;14(3):286–301.	Original article
262	Yonemoto T, Ogasawara S, Kanogawa N, et al.	消化器内科	Evaluating two rechallenge strategies of immune checkpoint inhibitors: Durvalumab plus tremelimumab in advanced hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 2025 May;55(5):718–729.	Original article
263	Mamiya Y, Taida T, Kato J, et al.	消化器内科	Usefulness of Novel Image-Enhanced Endoscopy for Predicting Maintenance of Clinical Remission in Ulcerative Colitis.	Dig Dis Sci. 2025 Mar;70(3):1167–1177.	Original article

264	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, et al.	消化器内科	Factors Affecting Patency of Uncovered Duodenal Stents in Malignant Duodenal Stenosis Due to Pancreatic Cancer: A Retrospective Cohort Study.	Cureus. 2025 Jan 10;17(1):e77245.	Original article
265	Ishikawa T, Okimoto K, Matsumura T, et al.	消化器内科	Efficacy of Magnifying Texture and Color Enhancement Imaging With Indigo Carmine as an Alternative to Crystal Violet for Colorectal Tumors.	J Gastroenterol Hepatol. 2025 Apr;40(4):866–872.	Original article
266	Takahashi K, Ohyama H, Kan M, et al.	消化器内科	Retrospective Comparison of Initial vs. Subsequent Simultaneous Side-by-Side Stenting with Uncovered Metal Stents during Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography for Unresectable Malignant Hilar Biliary Obstructions.	J Gastrointest Liver Dis. 2025 Jun 28;34(2):214–219.	Original article
267	Miwa C, Ogasawara S, Yonemoto T, et al.	消化器内科	Durvalumab Monotherapy in Complex Advanced Hepatocellular Carcinoma: A Real-World Study of Patients Ineligible for Combination Immunotherapy.	Cancer Med. 2025 Mar;14(5):e70642.	Original article
268	Takahashi K, Horio R, Ohyama H, et al.	消化器内科	Prognostic Significance of Clinical Scoring Systems for Large-Duct Primary Sclerosing Cholangitis in Japanese Patients.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2025 May;32(5):385–392.	Original article
269	Okimoto K, Matsumura T, Ishikawa T, et al.	消化器内科	A novel self-assembling peptide as new submucosal injection solution in endoscopic submucosal dissection.	Surg Endosc. 2025 May;39(5):2949–2957.	Original article
270	Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, et al.	消化器内科	Successful closure of large mucosal defect with novel anchor-pronged clip after gastric endoscopic submucosal dissection.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E534–E535.	Case report
271	Fujimoto K, Kondo T, Unozawa H, et al.	消化器内科	First Experience With the Utility of ReMAP (Repeatable Microcatheter Access Port) in Portal Vein Stenting.	Cureus. 2024 Apr 18;16(4):e58530.	Case report
272	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, et al.	消化器内科	Tardive Peritonitis After Endoscopic Ultrasound-Guided Pancreatic Pseudocyst Drainage: A Case Report.	Cureus. 2024 May 13;16(5):e60179.	Case report
273	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, et al.	消化器内科	Stent Deployment Without Tract Dilation in Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy Using a Novel Partially Covered Metal Stent With a Super-Slim Stent Delivery System: A Case Report.	Cureus. 2024 May 16;16(5):e60406.	Case report
274	Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, et al.	消化器内科	Successful prevention of balloon dilatation after complete circumferential endoscopic submucosal dissection including long-segment Barrett's esophagus.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E582–E583.	Case report

275	Taida T, Ohta Y, Saito K, et al.	消化器内科	Endoscopic ischemic polypectomy using large endoclip for Peutz-Jeghers polyps.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E626-E627.	Case report
276	Ozaki T, Yumita S, Ogasawara S, et al.	消化器内科	Cytokine release syndrome following durvalumab and tremelimumab in advanced hepatocellular carcinoma: A case report with cytokine and damage-associated molecular pattern analysis.	Hepatol Res. 2024 Jun 29.	Case report
277	Kan M, Ogane Y, Watabe K, et al.	消化器内科	Anamorelin as a Therapeutic Option for Cancer Cachexia in Advanced Pancreatic Cancer: A Case Report Demonstrating Significant Weight Gain and Quality of Life Improvement.	Intern Med. 2025 Aug 1;64(15):2312-2316.	Case report
278	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, et al.	消化器内科	Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy for a Benign Biliary Stricture in a Patient Allergic to Both Iodinated and Gadolinium Contrast Media: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 7;17(1):e77072.	Case report
279	Takahashi K, Yamamoto K, Aihara T, et al.	消化器内科	Endoscopic Papillectomy for Ampullary Adenoma Adjacent to a Cystic Lesion.	Cureus. 2025 Mar 27;17(3):e81318.	Case report
280	Akizue N, Okimoto K, Matsumura T.	消化器内科	Response.	Gastrointest Endosc. 2024 Jul;100(1):163.	Letter
281	Takahashi S, Okimoto K, Matsumura T.	消化器内科	Response.	Gastrointest Endosc. 2024 Sep;100(3):581-582.	Letter
282	Kanzaki H, Hoshida Y.	消化器内科	Transcriptomic signature in advanced hepatocellular carcinoma tissue to predict combination immunotherapy response; Editorial on "Genomic biomarkers to predict response to atezolizumab plus bevacizumab immunotherapy in hepatocellular carcinoma: Insights from the IMbrave150 trial".	Clin Mol Hepatol. 2025 Jan;31(1):308-310.	Others
283	Matsui S, Ri C, Bolanos LC, et al.	血液内科	Metabolic reprogramming regulated by TRAF6 contributes to the leukemia progression.	Leukemia.2024 May;38 (5) : 1032-1045	Original Article
284	Ishii A, Tsukamoto S, et al.	血液内科	Detection of clonal plasma cells in POEMS syndrome using multiparameter flow cytometry.	Sci Rep.2024 ay 6;14(1):10362	Original Article
285	Omote D, Makino S, Okunaga I, et al.	腎臓内科	Unusual course of glyphosate-induced acute kidney injury: a case report of tubulointerstitial nephritis treated with steroids.	CEN Case Rep. 2024 Jul 29. doi: 10.1007/s13730-024-00914-x. Online ahead of print.	Case report
286	Honda D , Okunaga I, Omote D, et al.	腎臓内科	Anti-Neuron-Derived Neurotrophic Factor Antibodies in Secondary Membranous Nephropathy Caused by Syphilis: A Case Report.	Am J Kidney Dis. 2024 Aug;84(2):250-254. doi: 10.1053/j.ajkd.2024.02.007. Epub 2024 Mar 22.	Case report

287	Honda D , Okunaga I ,Omote D ,et al.	腎臓内科	Secondary Membranous Nephropathy Caused by Syphilis:2024 A Case Report	Am J Kidney Dis.Aug;84(2):250-254. doi: 10.1053/j.ajkd.2024.02.007. Epub 2024 Mar 22.	Case report
288	Kimura M, Honda D, Okura M, et al.	腎臓内科	Comparison of the efficacy of educational materials for chronic kidney disease during outpatient waiting time	Clinical Nephrol.2024 Nov;102(5):285-294, doi: 10.5414/CN111413.	Original Article
289	Wakabayashi H, Hattori N, Uzawa A, et al.	腎臓内科	Tryptophan-immunoabsorption plasmapheresis regulates polymorphonuclear-myeloid-derived suppressorcells and pro-inflammatory cytokines	Ther Apher Dial. 2024 Nov 7. doi: 10.1111/1744-9987.14228. Online ahead of print.	Original Article
290	Suzuki J, Furuta S, Kameoka Y, et al	アレルギー膠原病内科	Dynamics of scFv-targeted VAP2 correlating with IL-16, MIF and IL-1Ra in ANCA-associated vasculitis.	Microvasc Res. 2024 Nov;156:104720.	Original Article
291	Hattori K, Tanaka S, Hashiba D, et a	アレルギー膠原病内科	Synovial regulatory T cells expressing ST2 deteriorate joint inflammation through the suppression of immunoregulatory eosinophils.	J Autoimmun. 2024 Dec;149:103333.	Original Article
292	Abe K, Iwamoto T, Ikeda K, et al	アレルギー膠原病内科	Calcium pyrophosphate crystal arthritis associated with immune checkpoint inhibitor successfully treated with intra-articular glucocorticoid: A case report.	Mod Rheumatol Case Rep. 2025 Jan 16;9(1):27-30.	Case report
293	Kumagai T, Iwata A, Furuya H, et al	アレルギー膠原病内科	A distal enhancer of GATA3 regulates Th2 differentiation and allergic inflammation.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2024 Jul 2;121(27):e2320727121.	Original Article
294	Ikeda K, Kaneko Y, Tsujita Y, et al	アレルギー膠原病内科	Healthcare resource utilisation and economic burden of patients with adequate and inadequate responses to biological and targeted synthetic disease-modifying antirheumatic drugs for rheumatoid arthritis in Japan	Mod Rheumatol Case Rep. 2025 Jan 16;9(1):27-30.	Original Article
295	Furuya H, Toda Y, Iwata A, et al	アレルギー膠原病内科	Stage-specific GATA3 induction promotes ILC2 development after lineage commitment.	Nat Commun. 2024 Jul 5;15(1):5610. (オンライン)	Original Article
296	Kitamoto T, Ruike Y, Koide H, et al	糖尿病・代謝・内分泌内科	Shifting paradigms in primary aldosteronism: reconsideration of screening strategy via integrating pathophysiological insights.	Front Endocrinol (Lausanne). 2025 Jan 14;15:1372683.	Review
297	Yokote K, Ota R, Wada S, et al	糖尿病・代謝・内分泌内科	Clinical Efficacy and Safety of Anti-Obesity Medications Among Adult East Asian People with Obesity: A Systematic Literature Review and Indirect Treatment Comparison.	Adv Ther. 2024 Sep;41(9):3452-3470.	Original Article

298	Koshizaka M, Tatsumi T, Kiyonaga F, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Comparison of the Risk of Diabetic Retinopathy Between Sodium-Glucose Cotransporter-2 Inhibitors and Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus in Japan: A Retrospective Analysis of Real-World Data.	Diabetes Ther. 2024 Nov;15(11):2401-2416.	Original Article
299	Yokote K, Ako J, Kitagawa K, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Safety and Effectiveness of Low-Density Lipoprotein Cholesterol-Lowering Therapy With Evolocumab for Familial Hypercholesterolemia/Hypercholesterolemia in Japan: A Real-World, Postmarketing, Single-Arm Study.	J Am Heart Assoc. 2024 Nov 5;13(21):e035809.	Original Article
300	Aono K, Koshizaka M, Shoji M, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Less frequent skin ulcers among patients with Werner syndrome treated with pioglitazone: findings from the Japanese Werner Syndrome Registry.	Aging (Albany NY). 2024 Dec 2;16(22):13526-13533.	Original Article
301	Sato T, Maezawa Y, Kato H, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	For early diagnosis of young patients with Werner syndrome: Indication for genetic testing.	Geriatr Gerontol Int. 2025 Mar;25(3):468-470.	Letter
302	Aono K, Maezawa Y, Kato H, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Recommendations for cancer screening and surveillance in patients with Werner syndrome.	Geriatr Gerontol Int. 2024 Oct;24(10):1085-1087.	Letter
303	Koizumi S, Keiichi I, Sakai T, 他	心臓血管外科	Cardiac Magnetic Resonance Feature Tracking Analysis for Change in Right Ventricular Function After Cardioplegic Arrest.	Heart Lung Circ. 2024 Jul 3:S1443-9506(24)00629-2.	Original Article
304	Matsuura K, Kumamaru H, Kohnsaka S, 他	心臓血管外科	Comparing moderate-severe and severe mitral regurgitation in transcatheter aortic valve replacement on 1-year survival: insights from a Japanese Nationwide Registry.	Heart Vessels. 2024 Dec 19.	Others
305	Nishiori H, Inui T, Watanabe M, 他	心臓血管外科	The outcome of late open conversion after endovascular abdominal aortic repair.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2025 Jan 6:2184923241310916.	Others
306	Kohno H, Matsumiya G, Saiki Y, 他	心臓血管外科	Mitral regurgitation at the time of left ventricular assist device implantation: Should it be treated or not?	JTCVS Open. 2025 Feb 13;24:96-112.	Others
307	Matsumoto Y, Iida S, Kano M, et al	食道・胃腸外科	A case of laparoscopic revision surgery 30years after vertical banded gastroplasty for morbid obesity	Asian J Endosc Surg. 2024 Apr;17(2):e13282	Review
308	Hayano K, Kano M, Matsumoto Y, et al	食道・胃腸外科	Intraoperative assessment of blood flow using transabdominal ultrasound during laparoscopic surgery of celiac artery compression syndrome	Asian J Endosc Surg. 2024 Apr;17(2):e13288	Case report
309	Maiyulan A, Matsumoto Y, Wang H, et al	食道・胃腸外科	Hypoxia-regulated exosomal miR-185 inhibits esophageal squamous cell carcinoma progression and predicts prognosis	Oncol Lett. 2024 May 22;28(1):334	Original Article

310	Hike S, Endo S, Ota M, et al	食道・胃腸外科	A case of rectal metastasis of prostate cancer mimicking extramural growth-type rectal tumor	J Surg Case Rep. 2024 May 18;2024(5):rjae314	Case report
311	Sekino N, Kano M, Murakami K, et al	食道・胃腸外科	Current findings on the antitumor effects of metformin on esophageal squamous cell carcinoma	Mol Clin Oncol. 2024 Jun 28;21(2):58	Review
312	Nishioka Y, Matsumoto Y, Murakami K, et al	食道・胃腸外科	Establishment of a novel small bowel adenocarcinoma cell line using patient-derived xenografts, which produces CEA and CA19-9	Oncol Lett. 2024 Jun 5;28(2):360	Original Article
313	Ohira G, Endo S, Imanishi S, et al	食道・胃腸外科	Prognosis and predictive factors of conversion surgery for initially unresectable advanced colorectal cancer	Langenbecks Arch Surg. 2024 Jun 11;409(1):182	Original Article
314	Mamiya H, Tochigi T, Hayano K, et al	食道・胃腸外科	Texture analysis of CT colonography to develop a novel imaging biomarker for the management of colorectal cancer	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Aug 26;9(1):145-152	Original Article
315	Kinoshita K, Maruyama T, Kobayashi N, et al	食道・胃腸外科	An artificial intelligence-based nerve recognition model is useful as surgical support technology and as an educational tool in laparoscopic and robot-assisted rectal cancer surgery	Surg Endosc. 2024 Sep;38(9):5394-5404	Original Article
316	Hu J, Toyozumi T, Murakami K, et al	食道・胃腸外科	Prognostic value of tumor-infiltrating lymphocytes and PD-L1 expression in esophageal squamous cell carcinoma	Cancer Med. 2024 Sep;13(17):e70179	Original Article
317	Hayano K, Ohira G, Matsumoto Y, et al	食道・胃腸外科	CT-derived skeletal muscle change before immunotherapy predicts survival of advanced gastric cancer: associations with inflammatory markers and liver lipid metabolism	Int J Clin Oncol. 2024 Sep;29(9):1255-1262	Original Article
318	Iida S, Matsumoto Y, Toyozumi T, et al	食道・胃腸外科	High Subcutaneous Adipose Tissue Radiodensity Predicts Poor Prognosis in Patients With Gastric Cancer	Cancer Diagn Progn. 2024 Nov 3;4(6):754-761	Original Article
319	Morishita H, Otsuka R, Toyozumi T, et al	食道・胃腸外科	Correlation Between Serum and Tissue SIRT1 Levels in Patients With Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Cancer Diagn Progn. 2024 Nov 3;4(6):762-768	Original Article
320	Kinoshita M, Maruyama T, Hike S, et al	食道・胃腸外科	Complete resection of recurrent anal canal cancer using endoscopic submucosal dissection and transanal resection: A case report	World J Gastrointest Endosc. 2025 Jan 16;17(1):101119	Case report
321	Hayano K, Kurata Y, Matsumoto Y, et al	食道・胃腸外科	Improvement of Oral Intake after Treatment Using Enteral Feeding Tube for Large Advanced Gastric Cancer Invading Proximal Stomach: A Case Series of 20 Patients	Surg Case Rep. 2025;11(1):24-0143	Case report

322	Ohira G, Hayano K, Tochigi T, et al	食道・胃腸外科	Treatment outcomes in non-occlusive mesenteric ischemia and post-treatment return to social activities	Surg Today. 2025 Mar;55(3):360–369	Original Article
323	Sakai N, Takayashiki T, Takano S, et al.	肝胆膵外科	Low functional liver imaging score is associated with poor prognosis following hepatectomy for hepatocellular carcinoma	Sci Rep. 2024 Dec 28;14(1):31290.	Original Article
324	Hosokawa I, Higuchi R, Homma Y, et al,	肝胆膵外科	A multicenter retrospective study on adjuvant chemotherapy of S-1 versus observation following major hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma.	Ann Surg Oncol. 2025 Mar;32(3):1784–1794	Original Article
325	Mishima T, Takano S, Takayashiki T, et al.	肝胆膵外科	Serum elastase-1 predicts malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas	Pancreatology 2024;24(1):93–99	Original Article
326	Konishi T, Takano S, Takayashiki T, et al.	肝胆膵外科	Clinical benefits of pulmonary resection for lung metastases from pancreatic cancer	Langenbeck's Archives of Surgery 2024;409:11	Original Article
327	Konishi T, Takano S, Takayashiki T, et al.	肝胆膵外科	Preoperative Prediction of Long-Term Survival After Surgery in Patients with Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Ann Surg Oncol 2024;31:6992–7000	Original Article
328	Tabe S, Takeuchi K, Aoshima K, et al,	肝胆膵外科	A pancreatic cancer organoid incorporating macrophages reveals the correlation between the diversity of tumor-associated macrophages and cancer cell survival	Biomaterials 2024;314:122838	Original Article
329	Togasaki K, Hosokawa I, Takayashiki T, et al	肝胆膵外科	Impact of the course of the segment 4 hepatic artery on proximal ductal margin status in right hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma	Surgery 2024;175(4):947–954	Original Article
330	Yamada H, et al.	乳腺外科	Eribulin induces micronuclei and enhances the nuclear localization of cGAS in triple-negative breast cancer cells.	Sci Rep. 2024 Jun 19;14(1):14146.	Original Article
331	Takahashi K, Horio R, Ohyama H, Kan M, Ouchi M, Nagashima H, Okitsu K, Ohno I, Kato N.	腫瘍内科	Prognostic significance of clinical scoring systems for large-duct primary sclerosing cholangitis in Japanese patients.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2025 May;32(5):385–392.	Original Article
332	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N.	腫瘍内科	Outcomes and Post-removal Course of Lumen-Apposing Metal Stent Placement for Peripancreatic Fluid Collections: A Comparative Study of Pancreatic Pseudocysts and Walled-Off Necrosis.	Cureus. 2024 Oct 15;16(10):e71561.	Original Article
333	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N.	腫瘍内科	Factors Affecting Patency of Uncovered Duodenal Stents in Malignant Duodenal Stenosis Due to Pancreatic Cancer: A Retrospective Cohort Study.	Cureus. 2025 Jan 10;17(1):e77245.	Original Article

334	Yoshida K, Sasaki H, Takaoka H. et al	検査部	Rare Favorable Surgical Outcome Obtained in Löffler Endocarditis With Severe Mitral Valve Regurgitation.	Circ Rep. 2024 May 14;6(6):230-231.	Original Article
335	Suzuki S, Morita Y, Ishige S, et al	検査部	Effects of quorum sensing-interfering agents, including macrolides and furanone C-30, and an efflux pump inhibitor on nitrosative stress sensitivity in <i>Pseudomonas aeruginosa</i> .	Microbiology (Reading). 2024 Jun;170(6):001464.	Original Article
336	Matsushita K, Ishige T, Watanabe K, et al	検査部	Importance of EQA/PT for the detection of genetic variants in comprehensive cancer genome testing.	Sci Rep. 2025 Jan 7;15(1):1036.	Original Article
337	Murata S, Hayashi H, Ido E et al	検査部	Gastrointestinal bacteria growth inhibition by a toilet sanitary good for disaster shelter.	J Infect Chemother. 2025 Mar;31(3):102581.	Original Article
338	Roongpaioj Y, Uchida M, Yamazaki S, et al.	薬剤部	Contribution of Adsorption and Hematocrit Levels to Ganciclovir Clearance in an in Vitro Continuous Hemodiafiltration Model	Biol Pharm Bull. 2024;47(7):1396-1404.	Original Article

計338件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Okuyama K, Inage K, Kim G, et al.	整形外科	Bone union-promoting effect of romosozumab in an ovariectomized rat posterolateral lumbar fusion model	J Orthop Res. Aug 2024;42:1831-1840.	Original Article
2	Tokeshi S, Suzuki-Narita M, Tajiri I, et al.	整形外科	Comparison of effects of intra-articular diclofenac etalhyaluronate and hyaluronic acid in a monoiodoacetate rat osteoarthritis model	Journal of Orthopaedic Research 2024/10/27	Original Article
3	Suzuki N, Eguchi Y, Hirai T, et al.	整形外科	Outcome of intradiscal condoliase injection therapy for patients with recurrent lumbar disc herniation.	Asian Spine J. 2024 Aug;18(4):550-559. doi: 10.31616/asj.2024.0042	Original Article
4	Inoue M, Sugiura S, Takeda T, et al.	整形外科	Evaluating the Correlation between Eyeglass-Type Wearable Device Measurements and Subjective Physical Activity Assessments.	Cureus 16(8): e67853.	Original Article
5	新井智之、松山浩之、中川拓也 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	嗅神経芽細胞腫に対する経鼻内視鏡下手術から見てきた課題-重粒子線治療の併用を中心に-	頭頸部外科.2024 Dec;34(2):131-136	Original Article
6	Takahashi K, Yamamoto K, Aihara T, Ohno I, Ohyama H.	腫瘍内科	Endoscopic Papillectomy for Ampullary Adenoma Adjacent to a Cystic Lesion.	Cureus. 2025 Mar 27;17(3):e81318.	Case report
7	Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N.	腫瘍内科	Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy for a Benign Biliary Stricture in a Patient Allergic to Both Iodinated and Gadolinium Contrast Media: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 7;17(1):e77072. doi: 10.7759/cureus.77072.	Case report

計7件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無

・手順書の主な内容:

1. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会規程
千葉大学医学部附属病院(以下「病院」という。)で行われる人を対象とする生命科学・医学系研究(以下「研究」という。)について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査に当たることを目的として千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会(以下「委員会」という。)を置く。
一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択、2013年世界医師会修正)
二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省告示第3号)

2. 千葉大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会運営手順書
1 委員会は、千葉大学医学部附属病院(以下「本院」という。)及び 1 の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究(以下「多機関共同研究」という。)の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年3月23日文部科学省・厚生労働省・経済産業省 告示第1号)(以下「指針」という。)等に基づいて審査する。
2 委員会は、研究責任者(多機関共同研究については研究代表者)から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年3月23日文部科学省・厚生労働省・経済産業省 告示第1号)等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書にて意見を述べるものとする。

3. 千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会規程
千葉大学医学部附属病院に、人を対象とする生命科学・医学系研究について、次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正な研究を実施するため、その審査を行い、研究責任者に対して文書又は電磁的方法により意見を述べることを目的として、千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会を置く。
一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択、2013年世界医師会修正)
二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)

4. 千葉大学医学部附属病院生命倫理審査委員会運営手順書
1 委員会は、千葉大学医学部附属病院及び1の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、以下「生命・医学系指針」という。)等に基づいて審査する。
2 委員会は、研究責任者から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と生命・医学系指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書又は電磁的方法にて意見を述べるものとする。

5. 千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会規程
千葉大学医学部附属病院に、人を対象とする生命科学・医学系研究(以下「研究」という。)について、

次の各号に掲げる宣言及び指針の趣旨に沿って人間の尊厳及び人権を尊重し、社会の理解と協力を得て適正に研究を実施するため、倫理的観点及び科学的観点から、その研究に係る研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報を含めて中立的かつ公正に審査を行い、研究責任者に対して文書又は電磁的方法により意見を述べることを目的として千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会を置く。

一 ヘルシンキ宣言(1964年世界医師会採択, 2013年世界医師会修正)

二 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)

6. 千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会運営手順書

1 委員会は、千葉大学医学部附属病院及び一の研究計画書に基づき複数の研究機関において実施される研究の他の研究機関において、人を対象とする生命科学・医学系研究に定める研究を行うことの適否及び継続して行うことの適否等について、ヘルシンキ宣言と人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、以下「生命・医学系指針」という。)等に基づいて審査する。

2 委員会は、研究責任者から研究実施の適否等について意見を求められたときは、すべての研究対象者の人権、安全及び福祉を保護するため、ヘルシンキ宣言と生命・医学系指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書又は電磁的方法にて意見を述べるものとする。

③ 倫理審査委員会の開催状況

臨床研究倫理審査委員会 年 11 回
生命倫理審査委員会 年 11 回
観察研究倫理審査委員会 年 11 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況

☒・無

② 利益相反の管理に関する規定の整備状況

☒・無

・規定の主な内容:

1.国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程

国立大学法人千葉大学に、本学利益相反マネジメントポリシーに基づき、本学の役員及び職員に係る利益相反に適切に対処するとともに利益相反に関する重要事項を審議するため、利益相反委員会を置き、次に掲げる事項を審議する。

- 一 利益相反マネジメントポリシーに関すること。
- 二 利益相反ガイドラインに関すること。
- 三 利益相反防止に関する施策及び啓蒙活動に関すること。
- 四 利益相反に関する調査及び審査に関すること。
- 五 その他利益相反に関する重要事項

本規程第9条に、「臨床研究に係る利益相反委員会については、別に定める」ことが規定されている。

2.千葉大学医学部附属病院各種委員会規程及び別表 常置委員会

千葉大学医学部附属病院各種委員会規程第3条に基づく常置委員会として、別表 常置委員会のとおり、①臨床研究に係る利益相反ポリシーに関する事項、②臨床研究に係る利益相反マネジメントに関する

事項、③臨床研究に係る利益相反防止に関する施策及び啓発活動に関する事項、④臨床研究に係る利益相反に関する調査及び審査に関する事項、⑤その他臨床研究に係る利益相反に関する重要事項を所轄する。

3. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー

本ポリシーは平成17年9月に制定され、臨床研究を行う研究者と関係者、被験者、大学等を取り巻く利益相反の存在を明らかにすることによって、被験者の保護を最優先としつつ、大学や研究者などの正当な権利を認め社会の理解と信頼を得て、大学の社会的信頼を守り、臨床研究の適正な推進を図る。

4. 千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反の取扱い・マネジメントは、国立大学法人千葉大学利益相反委員会規程第9条に基づき、千葉大学医学部附属病院臨床研究に関する利益相反委員会を設置し、千葉大学医学部附属病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー、臨床研究の利益相反ポリシー策定に関するガイドライン(平成18年3月文部科学省)、厚生労働科学研究における利益相反(Conflict of Interest: COI)の管理に関する指針(平成20年3月31日科発第0331001号厚生科学課長決定)並びに法令又はこれに基づく特別の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

本規程第4条(管理の手続き)及び第5条(管理の実施)に従い、臨床研究実施者(必要に応じて臨床研究関係者)は臨床研究の利益相反に関する自己申告書を臨床研究実施計画書と共に病院長に提出し、利益相反委員会において審査並びにマネジメントを行う。利益相反委員会の審査結果を臨床研究倫理審査委員会に報告し、臨床研究倫理審査委員会の審査結果も踏まえて、利益相反管理も含めて審査を行っている。

5. 臨床研究の利益相反に関する自己申告書

臨床研究実施者及び倫理審査委員会の委員等は、利益相反委員会に利益相反に関する自己申告書を提出し、適切なマネジメント受け、必要な場合には試験実施計画書を変更等の対応を実施している。臨床研究法下で実施する試験は、提出された申告内容について事実確認を行い、必要に応じて利益相反委員会のマネジメントを受けている。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 11 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況

年 6 回

・研修の主な内容:

- ・臨床研究入門講義 3回
「臨床試験の法的枠組/臨床試験の手続き」「利益相反/研究倫理」「説明・同意/説明文書の作成」
- ・倫理審査委員会研修会 2回
「個人情報保護」「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の動向」
- ・臨床研究に関わる特別セミナー 1回
「臨床研究と利益相反(COI)管理:最近の動向」

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(目的と特徴)
● 初期研修を修了した医師・歯科医師が臨床医学系専門領域の専門医を取得する
● 2年間の卒後研修を含む新しい枠組みでの専門医を取得できるプログラム
● 内科、外科の場合は内科認定医・認定内科専門医、外科専門医を取得できると共に、さらにサブスペシャリティーの専門医を取得できるプログラム
(研修期間)
● 研修期間は3～5年（卒後研修：2年を含まない）原則として各専門領域の専門医取得に定められた期間
(到達目標)
● 専門医としての患者ケアのための臨床能力を身につける
● 専門医としての患者ケアのための知識の習得と応用が出来る
● 診療経験を振り返り臨床能力を向上させることが出来る
● 必要かつ十分なコミュニケーション能力を示すことが出来る
● 医師としてのプロフェッショナリズムを身につける
● 家族・地域・制度などの医療資源を理解し活用することが出来る
● 指導医としての教育的役割を果たすことが出来る
● 臨床研究の意義を理解し倫理原則にしたがって研究を行うことが出来る

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	1 5 6 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
加藤 順	消化器内科	科長代理（准教授）	31年	
堺田 恵美子	血液内科	科長（准教授）	30年	
浅沼 克彦	腎臓内科	科長（教授）	29年	
中島 裕史	アレルギー・膠原病内科	科長（教授）	36年	
前澤 善朗	糖尿病・代謝・内分泌内科	科長（講師）	26年	
小林 欣夫	循環器内科	科長（教授）	36年	
小林 欣夫	冠動脈疾患治療部	部長（教授）	36年	
鈴木 拓児	呼吸器内科	科長（教授）	30年	
桑原 聡	脳神経内科	科長（教授）	40年	
上原 孝紀	総合診療科	科長代理（講師）	21年	
平崎 能郎	和漢診療科	科長（准教授）	27年	
猪狩 英俊	感染症内科	科長（教授）	36年	
大野 泉	腫瘍内科	科長代理（講師）	25年	
松宮 護郎	心臓血管外科	科長（教授）	38年	
松原 久裕	食道・胃腸外科	科長（教授）	40年	

大塚 将之	肝胆膵外科	科長（教授）	36年	
長嶋 健	乳腺外科	科長（准教授）	37年	
鈴木 秀海	呼吸器外科	科長（教授）	23年	
菱木 知郎	小児外科	科長（教授）	31年	
大野 泉	臨床腫瘍部	部長代理（講師）	25年	
長谷川 麻衣子	麻酔・疼痛・緩和医療科	科長（准教授）	24年	
市川 智彦	泌尿器科	科長（教授）	37年	
落合 信靖	整形外科	科長（准教授）	26年	
馬場 隆之	眼科	科長（教授）	27年	
猪爪 隆史	皮膚科	科長（教授）	26年	
花澤 豊行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長（教授）	35年	
三川 信之	形成・美容外科	科長（教授）	33年	
新津 富央	精神神経科	科長代理（准教授）	21年	
樋口 佳則	脳神経外科	科長（教授）	32年	
甲賀 かをり	婦人科・産科	科長（教授）	28年	
濱田 洋通	小児科	科長（教授）	34年	
宇野 隆	放射線科	科長（教授）	36年	
中田 孝明	救急科	科長（教授）	25年	
大網 毅彦	集中治療部	部長（講師）	18年	
浅沼 克彦	人工腎臓部	部長（教授）	29年	
村田 淳	リハビリテーション科	科長（准教授）	38年	
佐々木 剛	こどものこころ診療部	部長代理（准教授）	22年	
松下 一之	検査部	部長（准教授）	36年	
池田 純一郎	病理診断科・病理部	科(部)長（教授）	22年	
加藤 順	内視鏡センター	センター長（准教授）	31年	
鶴澤 一弘	歯科・顎・口腔外科	科長（教授）	35年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 クリニカルスキルズセンターにおいて、急変対応シミュレーション研修を実施した。Simam3G、ALSシミュレータ、分娩シミュレータNoelle、新生児蘇生人形を使用し、部署で起こりやすい症例について対応をトレーニングした。そのほか、精神科緊急対応研修会、在宅酸素療法研修、人工呼吸器セミナー、ECMO研修などを実施した。 看護師、薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、診療放射線技師、精神保健福祉士、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、管理栄養士、歯科衛生士、救急救命士など多職種が参加した。 ・研修の期間・実施回数 18回／年 ・研修の参加人数 395名 その他、各病棟・部署にシミュレータや機器を貸し出した勉強会は15か所、計53回実施された。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 看護師のリーダーレベルおよび職位等に応じて、リーダーやマネジメントスキル、組織や地域の看護ニーズの変化に応じた看護管理の実際、また、高度急性期医療および特定機能病院としての役割を果たすための運営管理、労務管理、多職種協働についてレクチャーとワークを行う。 ・研修の期間・実施回数 リーダー関連研修：レベルⅡ 7/19～11/20（全4回）、レベルⅢ～Ⅳ 6/26/～12/18（全4回） マネジメント関連研修：新任看護師長 5/11～3/11（全10回） 看護師長研修 12/2～2/19（全3回） 副看護師長研修 10/10～12/11（全2回） ・研修の参加人数 リーダー研修39名 副看護師長研修78名 看護師長研修33名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
管理責任者氏名	病院長 大鳥 精司		
管理担当者氏名	企画情報部長 鈴木 隆弘	総務課長 荘野 典文	
	薬剤部長 石井 伊都子	管理課長 小寺 道明	
	医療安全管理部長 相馬 孝博	経営企画課長 伊集院 宏行	
	感染制御部長 猪狩 英俊	研究推進課長 柴田 昌俊	
	臨床工学センター長 中田 孝明	医事課長 高橋 実	
	総合医療教育研修センター長 伊藤 彰一	医療サービス課長 矢代 健一	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	企画情報部 医療サービス課
		看護記録	企画情報部 医療サービス課
		検査所見記録	企画情報部 医療サービス課
		エックス線写真 紹介状	企画情報部 医療サービス課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	企画情報部 医療サービス課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	研究推進課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究推進課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課 医療サービス課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課 医療サービス課 薬剤部
	規則	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全室

		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全室	録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、院内LAN内に電子ファイルも合わせて保存している
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課総合医療教育研修センター 医事課医療安全室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医事課医療安全室	

		保 管 場 所		管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課医療安全室	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所(キャビネット等)で保管・管理している。また、院内LAN内に電子ファイルも合わせて保存している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医事課医療安全室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部 医事課医療安全室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課医療安全室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 医事課医療安全室	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療行為等の説明に関する責任者を病院長が任命し、医療行為等の遵守状況を定期的に確認している
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報の適切な管理を行うために診療情報管理責任者を置き、診療情報管理委員会の委員長を兼ねる。なお診療科等が保有する診療記録を管理するために診療情報責任者を置き、診療科等の長を充てている
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	診療情報管理委員会において、説明・同意文書の新規作成・更新の際に、「病院として定めた必要項目が記載されているか」について確認を行い、承認された文書のみ使用する
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	管理担当者は、病院の管理及び運営に関する諸記録について、所管部門の施錠可能な場所（キャビネット等）で保管・管理している。また、院内LAN内に電子ファイルも合わせて保存している
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
		管理者が有する権限に関する状況	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 大鳥 精司
閲覧担当者氏名	総務課長 莊野 典文 管理課長 小寺 道明 経営企画課長 伊集院 宏行 研究推進課長 柴田 昌俊 医事課長 高橋 実 医療サービス課長 矢代 健一
閲覧の求めに応じる場所	千葉大学医学部附属病院
閲覧の手続の概要 国立大学法人千葉大学は「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」(以下「情報公開法」)の適用を受けており、この法律に基づき、千葉大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。 開示請求者より法人文書の開示請求があった場合、該当法人文書の探索・特定を実施し、情報公開・個人情報保護委員会を開催し、開示又は不開示の決定を行い、その結果を請求者に通知し、法人文書の開示を実施することとなる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☒ 有 ・ 無
・ 指針の主な内容： 1. 基本的な考え方 2. 病院長の責務 3. 医療安全に関する組織と取組 4. 医療安全管理のための職員研修 5. 医療事故の報告 6. 医療事故発生時の対応 7. 患者等への当該基本方針の閲覧 8. 患者からの相談への対応 9. その他の医療安全推進への対応 10. その他	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： 1. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。	

6. 前2号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。 7. その他医療安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： 1. 第1回安全セミナー 令和6年6月17日～7月19日（eラーニング） ・ 患者は何でも知っている？ ー世界のトレンド……患者中心性ー ・ 求められる情報モラルとリテラシー ・ ICTの一番きれいなところと汚いところ ・ ①抗菌薬適正使用体制加算と②周術期抗菌薬 ・ 読影レポートの確認について ・ 早期のMETコールで重症化予防～千葉大学病院RRSの取組み～ 2. 第2回安全セミナー 令和6年12月9日～令和7年1月6日（eラーニング） ・ アドバンス・ケア・プランニング ・ B型肝炎ウイルス検査結果の見間違いによるインシデント事例 ・ 説明、同意プロセスにおける重要他者と同意書書式 ・ 結核・接触者健診への協力依頼 ・ 抗菌薬適正使用～de-escalation、薬剤耐性菌について～ ・ 安全な輸血のために ・ 麻薬及び向精神薬取締法および同法に基づく指摘事項について ・ 電源ケーブルの安全管理・輸液・シリンジポンプの現況 ・ 情報の保護・管理に関する最新情報	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医療上の問題 ◆「千葉大学医学部附属病院インシデント及び医療上の事故発生時の対応に関する取扱要項」に則り、インシデントが発生した場合はインシデント報告システムにより速やかに報告され、部署リスクマネージャー及びゼネラルリスクマネージャーが内容を把握する。インシデントの詳細な情報は、部署リスクマネージャーが確認し、収集する。ゼネラルリスクマネージャーは報告内容に応じて当該部署に出向き、当事者及び関係者から情報を収集する。	

2. 分析

- ◆各部署では当該部署のリスクマネージャーが中心となり、KYTやPOAM・RCAなどの分析手法を活用し対策を検討している。リスクマネージャー研修で分析方法について講義をし、医療安全管理部のゼネラルリスクマネージャーが部署への分析手法の指導・支援を行っている。

3. 改善策の検討

- ◆マニュアル改正などはリスクマネジメント会議において多職種による検討を行い、医療の質・安全管理委員会で承認する。また、医療事故発生の原因調査及び原因究明は事例検討委員会において検討する。必要に応じ、関連部門と調整を行いシステムの見直しを行っている

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☒ 有・無
・ 指針の主な内容： 1. 基本的な考え方 2. 委員会、その他組織に関すること 3. 従業者に対する研修等 4. 感染症の発生状況及び抗菌薬使用状況の報告 5. 院内感染発生時の対応 6. 患者等への当該基本方針の閲覧 7. その他の院内感染対策推進のために必要な事項	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 1. 院内感染の実態把握のための調査及び点検に関すること。 2. 院内感染予防対策の立案に関すること。 3. 院内感染発生時の対策に関すること。 4. 職員に対する院内感染予防対策の教育に関すること。 5. 院内感染予防対策マニュアルの作成及び改訂に関すること。 6. その他院内感染予防対策に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容（すべて）： 1. 第1回安全セミナー（受講率100%） 令和6年6月17日～7月19日（e-ラーニング） ICT「ICTの一番きれいなところと汚いところ」 AST「抗菌薬適正使用体制加算と②周術期抗菌薬」 2. 第2回安全セミナー（受講率100%） 令和6年12月9日～令和6年1月6日（e-ラーニング） ICT「結核・接触者健診への協力依頼」 AST「抗菌薬適正使用～de-escalation、薬剤耐性菌について～」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備（☒有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容：	

1. ICT活動

・ ICTラウンド

(月間)

- ・ 月間耐性菌ラウンド (MRSA・ESBL・MDRP・CREを対象 (月1回) と報告)

(週間)

- ・ 耐性菌チェック (分離菌報告)
- ・ 環境チェック
- ・ 清掃・廃棄物ラウンド (感染制御部・事務職員・清掃業者でラウンド (月2回) と報告)

2. AST活動

- ・ 血液培養陽性患者のモニター
- ・ 診療コンサルテーション報告
- ・ 抗菌薬の許可制
- ・ 特定薬剤使用状況報告
- ・ ASTラウンド

3. 職員感染対策

- ・ 針刺し・切創、血液・体液曝露外来の実施
- ・ 職員の抗体検査と予防接種の実施
- ・ 病院職員・外部委託業者に対するワクチン接種

4. 医療関連感染サーベイランスの実施とフィードバック

- ・ カテーテル関連血流感染 (全部署及び血液内科)
- ・ カテーテル関連尿路感染 (全部署)
- ・ 手術部位感染 (10診療科18手技)
- ・ 手指衛生サーベイランス (払い出し量からみた手指衛生指数・直接観察法)
- ・ J-SIPHE (感染対策連携共通プラットフォーム) を活用した他医療機関比較の充実

5. 感染対策向上加算に関する地域連携活動

- ・ 感染対策向上加算に係る相互チェックの実施 (連携医療機関と相互に年1回ずつ)
- ・ 感染対策向上加算に係るカンファレンスの開催 (連携医療機関と年4回)
- ・ 指導強化加算に係る多施設訪問ラウンド (年間4施設に直接訪問して指導を行う)
- ・ 院内感染地域支援ネットワーク事業と連携した地域の感染対策向上を目的とした活動 (研修会・アウトブレイク支援・感染対策相談等)

6. アウトブレイク発生時の対応と終息に向けた対策

- ・ 新型コロナウイルス感染症クラスター発生から終息までの対応
- ・ NICU・GCUにおけるMRSAのアウトブレイク対応

7. 手指衛生遵守率向上のための取組み

- ・ 手指消毒剤個人携帯の推奨
- ・ 手指衛生啓発活動
- ・ 手指衛生サーベイランスの結果報告と手指衛生導等

8. 国公立大学附属病院感染対策協議会における活動

- ・国公立大学感染対策協議会相互チェックを島根大学医学部附属病院に訪問し実施した
- ・国公立大学感染対策協議会 総会参加
- ・国公立大学感染対策協議会教育作業部会ブロック別研修会

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容： - 新規採用者ガイダンス eラーニング 「医薬品安全管理（麻薬取り扱い含む）」 - 新規採用者ガイダンス（研修医向け） 「抗がん薬の取り扱いについて」 - 第2回医療安全セミナー 令和6年12月9日～令和7年1月6日（eラーニング） 「B型肝炎ウイルス検査結果の見間違いによるインシデント事例」 「麻薬及び向精神薬取締法および同法に基づく指摘事項について」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 （ ☒有・無 ） ・手順書の内訳に基づく業務の主な内容： - 医薬品の採用を審議する薬事委員会の開催及び適正運用の実施 - 医薬品の購入及び麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬、厳重管理薬、特定生物由来製品等の適正管理の実施 - 患者に対する安全な医薬品供給のための処方、調剤、交付、指示出し・指示受け、過誤防止対策、薬剤管理指導等の実施 - 医薬品の情報の収集及び提供の実施 - 医薬品の使用に関する教育・研修の実施 - 各部門における手順書に基づいた業務実施状況の確認 等	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 （ ☒有・無 ） ・未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：なし ・その他の改善のための方策の主な内容： 未承認医薬品については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルール	

をとり、当該委員会で審議するための必要情報を収集するなどの対応をしている。
院内製剤についても、日本病院薬剤師会の指針に則りクラス分類を導入し、クラスに応じた審査を取り入れている。また、使用後の評価も徹底する運用としている。その他、医薬品の安全使用に係る医薬品情報は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者（医薬品情報室長）から医薬品安全管理責任者への報告を行い、医薬品安全管理責任者から院内への周知を行っている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 19 回
・ 研修の主な内容： 安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる下記の医療機器に関して、定期的に研修を実施している。 ・ 人工呼吸器（2回） ・ 閉鎖式保育器（2回） ・ 血液浄化装置（2回） ・ 人工心肺及び補助循環装置（2回） ・ 除細動器（2回） ・ 新規導入の機器（5回） ※Eラーニングによるものを含む。 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）の安全講習会（2回） ・ 診療用放射線照射装置（アフターローディング）の安全講習会（2回）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定（☒有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 診療用高エネルギー放射線発生装置（リニアック）、診療用放射線照射装置（アフターローディング）、生命維持管理装置（人工心肺および補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器）、当院で定めた機器（CT・MRI・血管造影装置・核医学診断装置、輸液・シリンジポンプ・フットポンプ・生体情報モニタ等） ・ 保守点検の取組 保守点検計画を機器の購入時、また年度当初の保守契約時に立案しその計画を責任者が確認する。計画に基づき、臨床工学技士や一部外部委託業者により、保守点検を行い、その記録を保管している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備（☒有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： 臨床工学センターのウェブサイト上で、病棟スタッフ向けに人工呼吸器チェックシートや	

AEDなどの日常点検手順や点検表を提供している。医療機器の利用に関しても管理フローを敷き、医療法施行規則第9条の23第1項第8号に則り、未承認医療機器については臨床倫理審査委員会にて承認が得られたもののみを使用するルールをとることでインシデント防止に取り組んでいる。なお、インシデント発生時には、臨床工学技士が医療安全管理部と協力することで早急に対応し、文書発信を交えて効果的に対策を講じることができている。また、院内全体で行う講習会のほか、インシデント発生等の際には原因を究明し、部署別・事例別の講習会を開催し、再発防止に努めている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
・責任者の資格（☒医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 千葉大学医学部附属病院医療安全管理に関する基本方針」第3の1において、千葉大学医学部附属病院規程第6条第6項の規定により医療安全管理責任者に任命された副病院長は、医療安全管理部、医療の質・安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等を統括すると定められている。 また、医療の質・安全管理委員会等に出席し組織的に医療事故防止について検討し、患者に安全・確実な医療を提供するため病院長と共に医療安全管理対策に取り組んでいる。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ （1名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認を行わせることとしている。 医薬品情報室長を実施担当者として指名し、病院における未承認等の医薬品の使用のための処方状況や、採用されている医薬品全般の医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し、管理するとともに、得られた情報のうち必要なものは院内全教職員へメールにて周知を行っている。また、特に周知状況の確認が必要と思われる重要周知事項については、全職員がシステムからログインして閲覧を行う事により、閲覧状況を確認できる方策をとっている。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 「千葉大学医学部附属病院医薬品に関する安全管理規程」において、医薬品安全管理責任者は医薬品の安全使用のための措置に係る実施担当者を指名し、未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有を行わせることとしている。 薬剤師ゼネラルリスクマネージャーを実施担当者として指名し、未承認新規医薬品等担当部門と連携を取ることで、院内における未承認新規医薬品等の使用の適否決定状況及び適正使用の確認を行っている。 ・担当者の指名の有無（☒・無） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部，職種 薬剤師（医薬品情報室長））（所属：薬剤部，職種 薬剤師（GRM））	

(所属： , 職種)	(所属： , 職種)
(所属： , 職種)	(所属： , 職種)
(所属： , 職種)	(所属： , 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有・無
-----------------------------	---

- ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (☒有・無)
- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容
 診療情報管理委員会において、説明・同意文書の新規作成・更新の際に「病院として定めた必要項目が記載されているか」について確認を行い、承認された文書のみ使用する。
 診療情報管理士が、各診療科が説明に使用する文書を適切に使用しているか、文書を用いて説明を行った際に、診療録にも説明時の状況や患者の反応の記載がなされているか等、遵守状況を確認（監査）し、説明書の追記が必要な部分に追記がない、診療録に説明時の状況等の記載がないなど不適切な場合は指導を行っている。

7. 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づく、医療安全確保のための業務改善計画書の作成及びそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録
8. 医療の質・安全管理委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いその他の医療安全管理者の活動実績の記録
9. 医療安全に係る取組み及びその評価を行うカンファレンスの実施
10. その他医療安全の推進に関すること
 - ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 - ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 4 件）、及び許可件数（ 4 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・ 活動の主な内容：

本院において高難度新規医療技術を用いて実施する医療行為を対象に、高難度新規医療技術の施行についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該高難度新規医療技術が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて施行されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・ 活動の主な内容：

本院において未承認新規医薬品等を用いて実施する医療行為を対象に、未承認新規医薬品等の使用についての申請書や患者に対する同意説明文書を通じ、審査・評価している。承認後は、診療録等の記載内容を確認し、有害事象が生じた場合は速やかに報告を受ける。また、当該未承認新規医薬品等が千葉大学医学部附属病院高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等取扱規程に基づいて使用されていたかどうかについても確認を行う。実施後は、完了や中止・中断の有無、有害事象の有無などの結果報告について文書にて報告を受ける。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年453件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年86件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理部への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
 2. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理部への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
 3. 上記の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：宮崎大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：旭川医科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
安全管理委員会、医療安全管理部などのメンバーをある程度の期間で入れ替えるなど、病院全体で医療安全の文化をより醸成できる仕組みを検討いただきたい。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者支援センター内の患者相談窓口もしくは電話にて受付を行い、医療安全管理に関する相談内容の場合は医療安全管理部及び関係者に報告と対応を行う。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
 1. 第1回安全セミナー
令和6年6月17日～7月19日（eラーニング）
 - ・患者は何でも知っている？
ー世界のトレンド……患者中心性ー
 - ・求められる情報モラルとリテラシー
 - ・ICTの一番きれいなところと汚いところ
 - ・①抗菌薬適正使用体制加算と②周術期抗菌薬
 - ・読影レポートの確認について
 - ・早期のMETコールで重症化予防～千葉大学病院RRSの取組み～
 2. 第2回安全セミナー
令和6年12月9日～令和7年1月6日（eラーニング）

- ・アドバンス・ケア・プランニング
- ・B型肝炎ウイルス検査結果の見間違いによるインシデント事例
- ・説明、同意プロセスにおける重要他者同意書書式
- ・結核・接触者健診への協力依頼
- ・抗菌薬適正使用～de-escalation、薬剤耐性菌について～
- ・安全な輸血のために
- ・麻薬及び向精神薬取締法および同法に基づく指摘事項について
- ・電源ケーブルの安全管理・輸液・シリンジポンプの現況
- ・情報の保護・管理に関する最新情報

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- ・管理者（令和7年1月15日2024年度特定機能病院管理者研修 公益社団法人日本医療機能評価機構主催）
- ・医療安全管理責任者（令和6年11月26日2024年度特定機能病院管理者研修 公益社団法人日本医療機能評価機構主催）
- ・医薬品安全管理責任者（令和6年12月12日2024年度特定機能病院管理者研修 公益社団法人日本医療機能評価機構主催）
- ・医療機器安全管理責任者（令和7年1月17日2024年度特定機能病院管理者研修 公益社団法人日本医療機能評価機構主催）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・第三者による評価の受審状況
日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価「一般病院3」3rdG:Ver2.0を受審し2022年11月4日に認定された。
- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
病院公式ホームページで公開している。
- ・評価を踏まえ講じた措置
 - ①説明同意書について管理部署の承認を得た書式を使用する仕組みを作るとともに、使用状況を把握するためのカルテ監査体制を構築した。
 - ②手術部位感染サーベイランスの対象診療科を拡大し、術後感染の発生を評価／分析して改善するサイクルを構築した。

- ③コロナ禍で中断されていたＢＬＳ訓練を再開し受講歴の一元的管理を開始した。
- ④診療業務に関するマニュアル等の文書一元管理を開始した。
- ⑤病棟において注射用抗がん薬を投与する際、投与前・中・後の患者の状態や反応等の観察記録を残す仕組みを構築した。
- ⑥病棟において抗がん薬投与に関わる際、職員の曝露対策として个人防护服等の着用ルールが遵守されるように研修を実施し、定着させるための定期的なラウンド評価を開始した。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
- 基準の主な内容 - 一 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力 - 二 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力 - 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） - 公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページにて選出基準を掲載している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ ☒ 無			
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） - 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			☒ 有・無
・合議体の主要な審議内容 - 一 病院規程その他規程等の制定改廃に関する事項 - 二 病院に関する将来計画，中期目標及び年度計画に関する事項 - 三 病院に関する予算の作成及び決算に関する事項 - 四 病院，診療科，中央診療施設その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項 - 五 執行部会において必要と判断された重要事項 - 六 その他病院の管理・運営・診療に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 議事要録を院内ホームページへ掲載している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・公表の方法 本学ホームページへ掲載している。 ・外部有識者からの意見聴取の有無（☒有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大鳥 精司	○	医師	教授
小林 欣夫		医師	教授
大塚 将之		医師	教授
中島 裕史		医師	教授
鈴木 拓児		医師	教授
馬場 隆之		医師	教授
花澤 豊行		医師	教授
花岡 英紀		医師	教授
中田 孝明		医師	教授
菱木 知郎		医師	教授
石井 伊都子		薬剤師	教授
箭内 博子		看護師	看護部長
相馬 孝博		医師	教授
井上 貴裕		事務職員	特任教授
小山田 享史		事務職員	事務部長
猪狩 英俊		医師	教授
伊藤 彰一		医師	教授
金田 篤史		医師	教授
小笠原 定久		医師	講師
神田 真人		医師	助教
松谷 智郎		医師	准教授
山中 義崇		医師	特任教授

菊田 直美		看護師	看護師長
西宮 岳		看護師	副看護師長
横田 慎一郎		教員	教授
大塚 秀郷		事務職員	特任准教授
渡邊 直広		事務職員	専門職員
堺田 恵美子		医師	准教授
浅沼 克彦		医師	教授
前澤 善朗		医師	講師
平崎 能郎		医師	准教授
大野 泉		医師	講師
松宮 護郎		医師	教授
松原 久裕		医師	教授
長嶋 健		医師	准教授
鈴木 秀海		医師	教授
長谷川 麻衣子		医師	教授
市川 智彦		医師	教授
落合 信靖		医師	准教授
猪爪 隆史		医師	教授
鶴澤 一弘		医師	教授
三川 信之		医師	教授
村田 淳		医師	准教授
新津 富央		医師	准教授
樋口 佳則		医師	教授
桑原 聡		医師	教授
甲賀 かをり		医師	教授
濱田 洋通		医師	教授
宇野 隆		医師	教授
池田 純一郎		医師	教授
上原 孝紀		医師	講師
松下 一之		医師	准教授
大網 毅彦		医師	講師
三村 尚也		医師	講師
加藤 順		医師	准教授
佐々木 剛		医師	准教授
長谷川 直		医師	特任准教授
大曾根 義輝		医師	特任教授
清水 栄司		医師	教授
那須 克宏		医師	特任教授
大島 拓		医師	准教授
鈴木 隆弘		医師	准教授
本橋 新一郎		医師	教授
林 秀樹		医師	教授
勝野 達郎		医師	准教授
澁谷 潔		医師	特任教授
諏訪園 靖		医師	教授
清野 宏		医師	特任教授
吉村 健佑		医師	特任教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
千葉大学医学部附属病院規程を本院ホームページへ掲載している。
千葉大学会計規程を本学ホームページへ掲載している。
- ・ 規程の主な内容
 - ＜病院規程＞
 - 一 本院の目的
 - 二 病院長の権限（診療科長等の任命・解任権限など）
 - 三 本院の組織
 - 四 役職者等の任期及び業務内容
 - 等
 - ＜会計規程＞
 - 一 会計に関する目的、概要等
 - 二 会計機関、予算、資金・資産管理等
 - 三 契約・決算
 - 四 予算管理責任者の権限（予算配分、予算執行）
 - 等
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ＜副病院長＞
副病院長は、経営、安全管理、広報などそれぞれの役割において、病院長の職務を補佐する。
副病院長は、病院長に事故あるときはその職務を代理し、病院長が欠員のときはその職務を行う。
 - ＜院長補佐＞
病院長補佐は、病院長の指示する重要事項について企画・立案等を行う。
 - ＜企画スタッフ＞
病院長企画室を設置し、病院経営及び運営に関する分析、企画及び立案を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ＜人事＞
副病院長は、病院長が指名し、学長が任命する。病院長補佐は、病院長が任命する。
科長は、当該科に対応する医学研究院の研究領域又は当該科の教授のうちから、病院長が任命する。部長・センター長は医学研究院又は病院の教授のうちから病院長が任命する。
 - ＜研修＞
国立大学病院長会議が主催する病院長塾に、病院長、副病院長等が参加し、病院経営についての講義聴講、及び意見交換を行った。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					☒ ・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 監事及び監査室との連携の下、次に掲げる病院業務について監査を行う。 一 医療に係る安全管理に関すること。 二 特定臨床研究の業務執行の状況に関すること。 三 その他委員長が必要と認める病院業務に関すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 公表の方法： 本学ホームページ及び本院ホームページにて、設置規程及び委員名簿（選定理由についても記載有）、監査結果報告書を掲載している。					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮坂 信之	東京医科歯科大学 名誉教授	○	東京医科歯科大学にて、教授、副学長、病院長を歴任し、医師及び研究者として医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するとともに、病院管理の経験を有するため	無	1
花輪 正明	塩野義製薬株式会社 薬事部長		製薬企業にて、長年、医薬品・医療機器の研究開発業務に従事され、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1

藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長		国立がんセンター中央病院にて、臨床検査部長、臨床試験・治験開発部長、副院長、執行役員／企画戦略局長を歴任され、現職では、医薬品や医療機器の承認審査及び安全対策に携わっておられ、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
東宮 秀夫	一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団参事		製薬企業にて、長年、医薬品の研究開発業務に従事され、現職では、医薬品医療機器の品質、有効性及び安全性の確保及び向上のため、レギュラトリーサイエンスの推進活動に携わっておられ、医療安全及び臨床研究に関する広い識見を有するため	無	1
山崎 晋一郎	千葉県病院事業管理者		国及び地方公共団体にて、長年、厚生労働行政に従事され、法律及び医療安全に関する広い識見を有するとともに、千葉県病院事業管理者として、病院管理の経験を有するため	無	1
植村 武志	独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部千葉大玄鼻イノベーションプラザチーフインキュベーションマネージャー		千葉大学玄鼻キャンパス内のインキュベーション施設において、先端医療分野、医工連携分野の研究成果を活用した起業や創業活動、中小企業の新事業展開等の総合的支援に従事され、臨床研究や	無	2

			法律に関する識見 を有するととも に、医療を受ける 者の立場から意見 を述べることがで きるため		
--	--	--	---	--	--

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
- ・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
本学ホームページにて、関係規程を掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 千葉大学役員会において附属病院の業務の監督を行っている。 ・ 会議体の実施状況（ 年 11 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 5 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 本学ホームページにて、関係規程を掲載している。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 ポスター、院内ホームページの掲示及びマニュアルを配布して周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページや広報誌、パンフレット等において、特定機能病院としての役割についてわかりやすく案内している。 また、各診療科の診療実績を公表するなど、患者さんや地域に向けた情報発信を積極的に行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	